

山梨県人々のつながりに関する基礎調査結果

令和7年7月
山梨県



1 調査の目的

山梨県における孤独・孤立の実態を把握し、今後の県及び関係機関における関連諸施策を効果的に展開するための基礎資料を得ることを目的として実施

2 調査の実施概要

(1) 調査の名称

山梨県人々のつながりに関する基礎調査

(2) 調査の対象

①県民向け調査：住民基本台帳に記載された16歳以上の県民 4,000人（男性2,000人 女性2,000人） 層化二段階無作為抽出

②団体向け調査：県内団体 500団体

(3) 調査の方法

郵送またはオンライン

(4) 調査期間

令和6年10月10日～10月28日（18日間）

3 調査項目

(1) 県民向け調査

回答者の属性

年齢、性別、勤労状況、居住市町村、世帯構成、世帯収入など

行動・他者との交流

外出の状況、家族友人とのコミュニケーション、他者との交流、活動の状況など

不安・悩みの状況

相談相手の有無、不安や悩みの有無、手助け・支援の状況など

孤独の状況

他者とのつながりの状況、孤独の状況など

(2) 団体向け調査

団体の属性

支援の状況

支援上の課題

組織規模、活動分野、活動エリア・内容など
相談支援の方法、支援の具体事例、当事者が利用している制度、当事者の孤独・孤立のきっかけなど

孤独孤立が解決しない要因、必要な取組、連携を希望する団体など

4 回答数

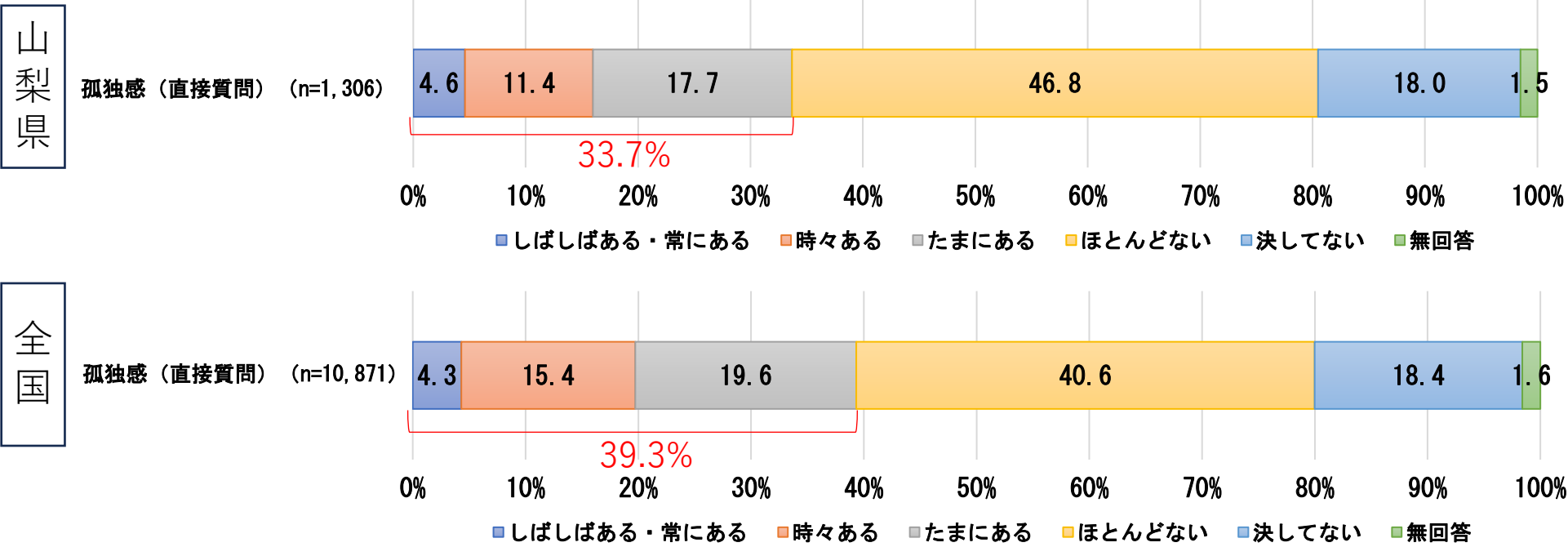
(1) 県民向け調査 有効回答数 1,306件（回答率32.7%）

(2) 団体向け調査 有効回答数 247件（回答率49.4%）



■ 孤独の状況

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は4.6%、「時々ある」が11.4%、「たまにある」が17.7%、合計で33.7%となっており、3割以上の人々が孤独を感じている。全国（39.3%）と比較すると低いが、「しばしばある・常にある」は若干高くなっている。



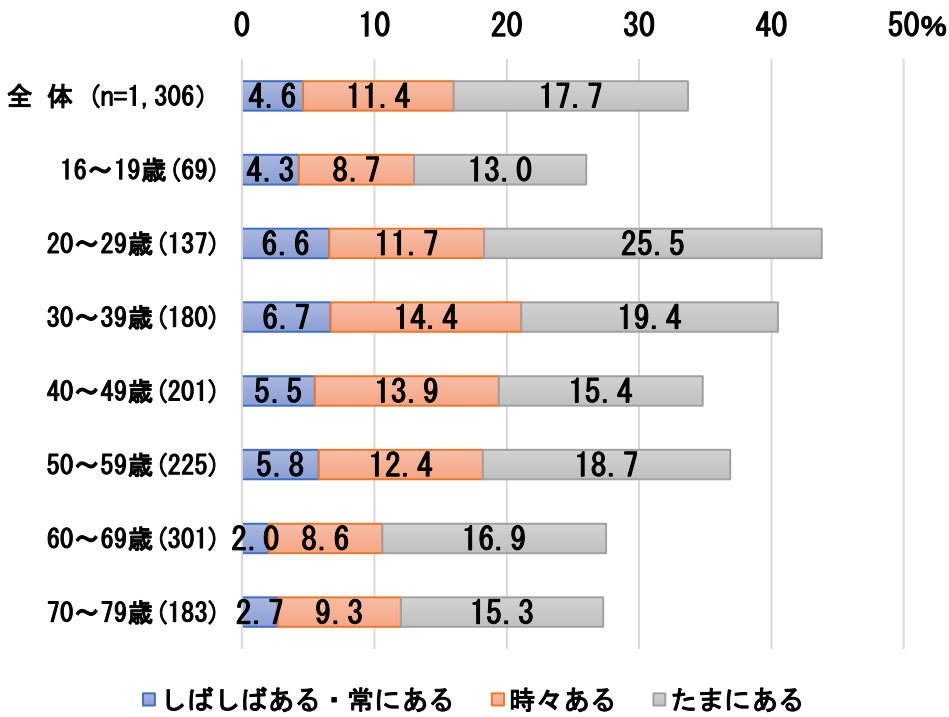
※令和6年調査「人々のつながりに関する基礎調査」以降同様

II 結果の概要（県民調査）

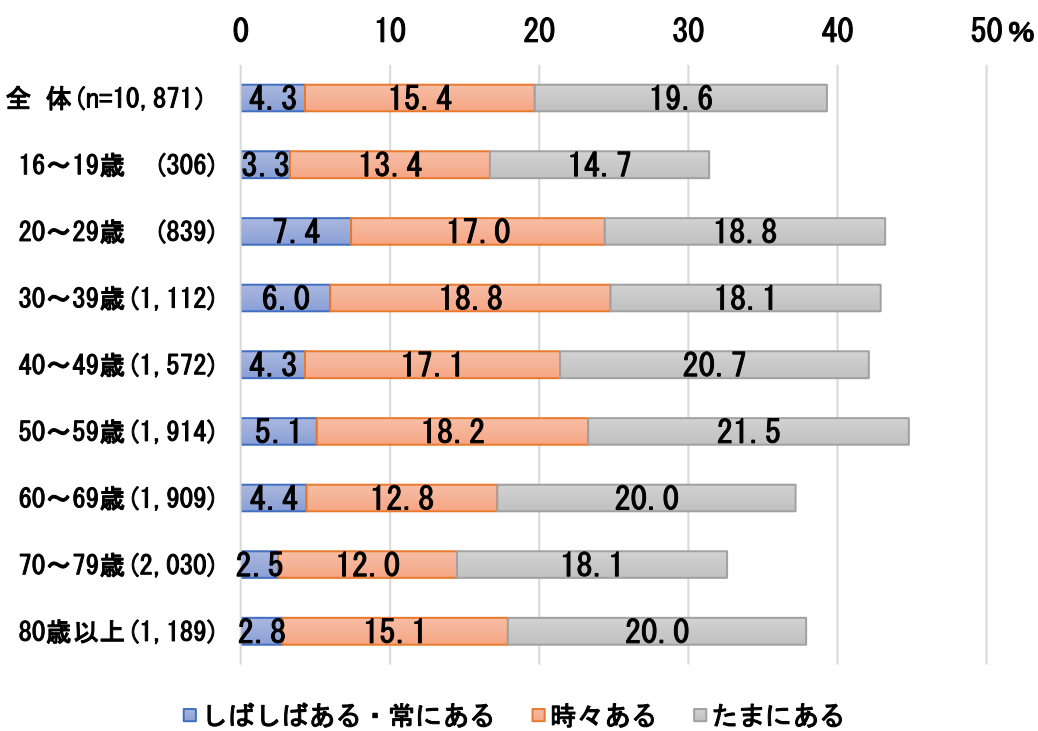
■ 年齢階級別孤独感

孤独感を年齢階級別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、30代及び20代で高くなっている。全国でも同様の傾向となっている。

山梨県



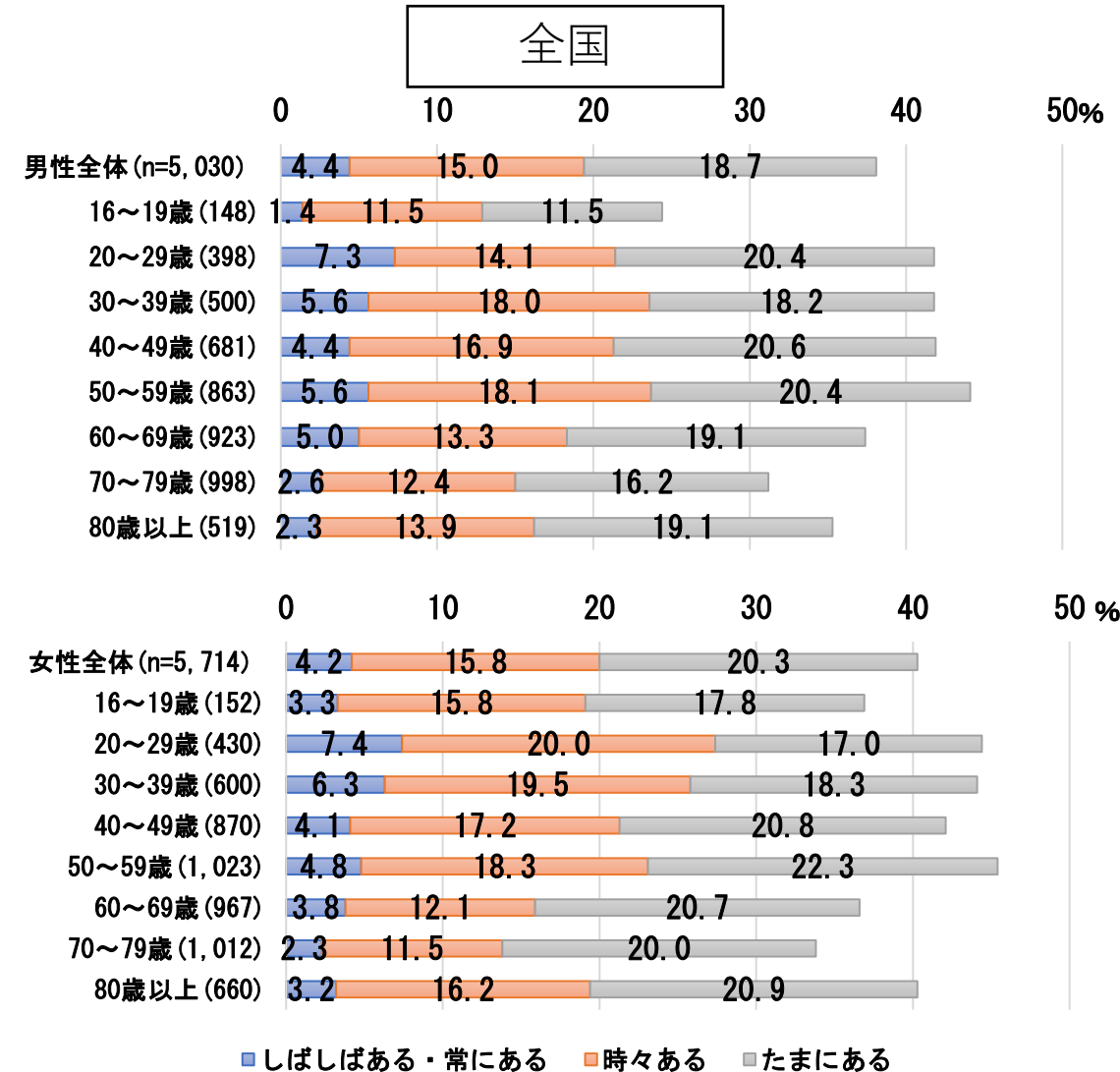
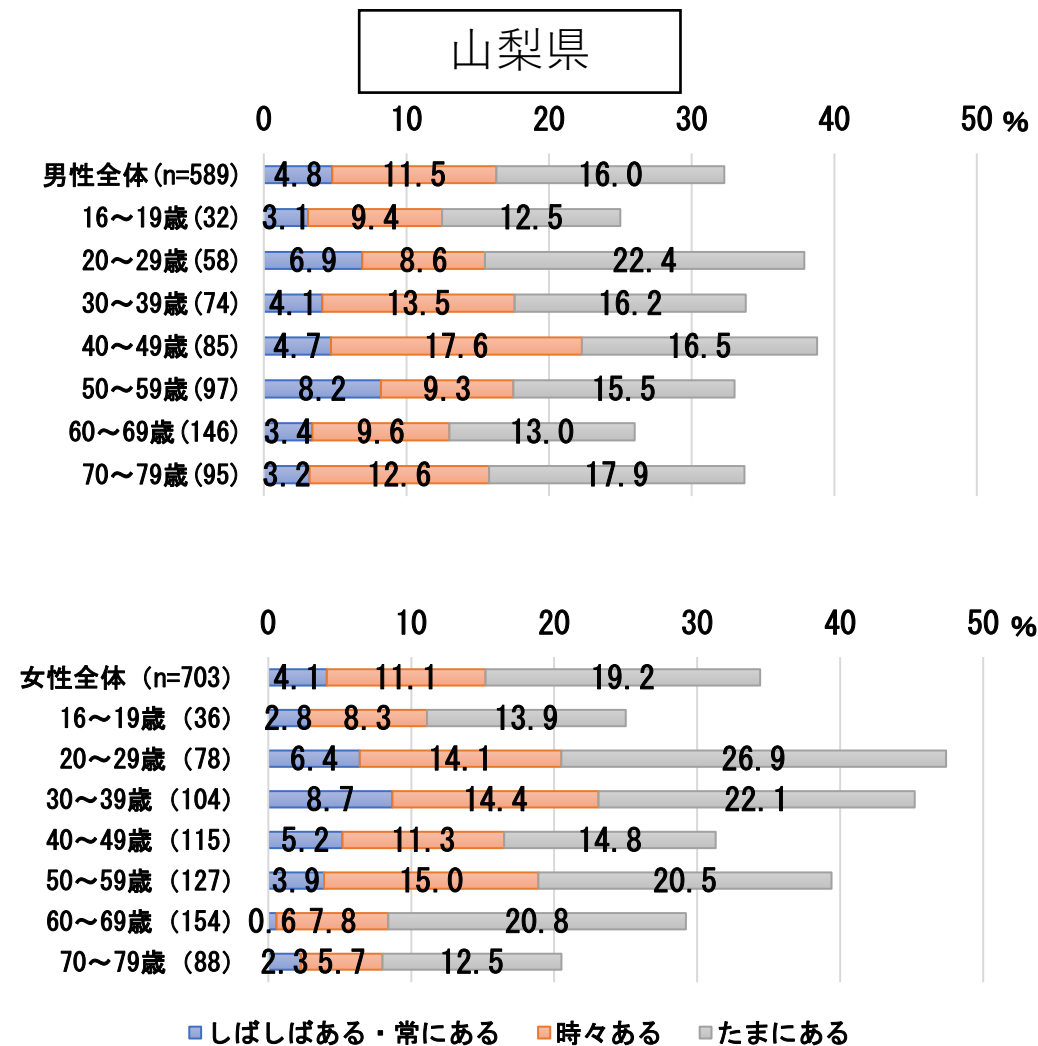
全国



Ⅱ 結果の概要（県民調査）

■ 男女、年齢階級別孤独感

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性が4.8%、女性が4.1%となっている。これを男女、年齢階級別にみると、男性では50代及び20代で、女性では30代及び20代で高くなっている。全国でも同様の傾向となっている。

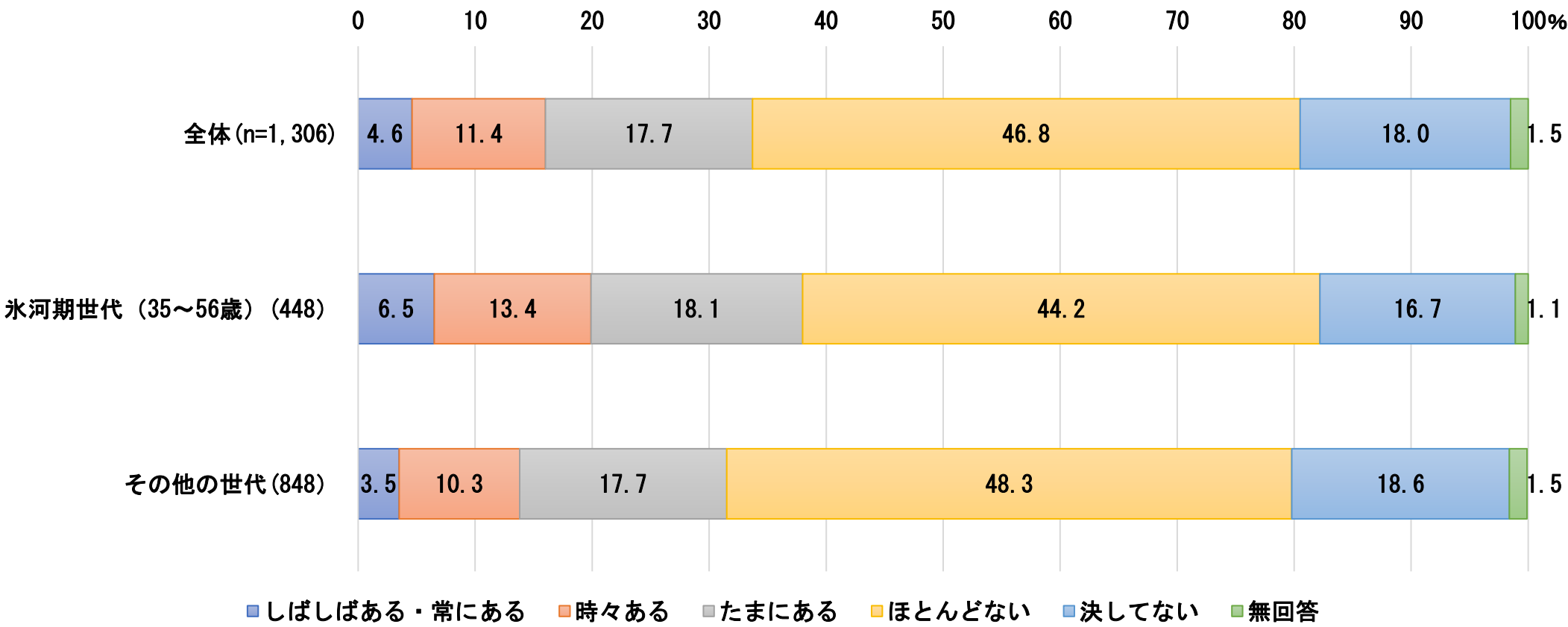




■ 就職氷河期世代の孤独感 ※県独自の集計

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「氷河期世代 35～56歳」で6.5%、「その他の世代」で3.5%となっている。

山梨県

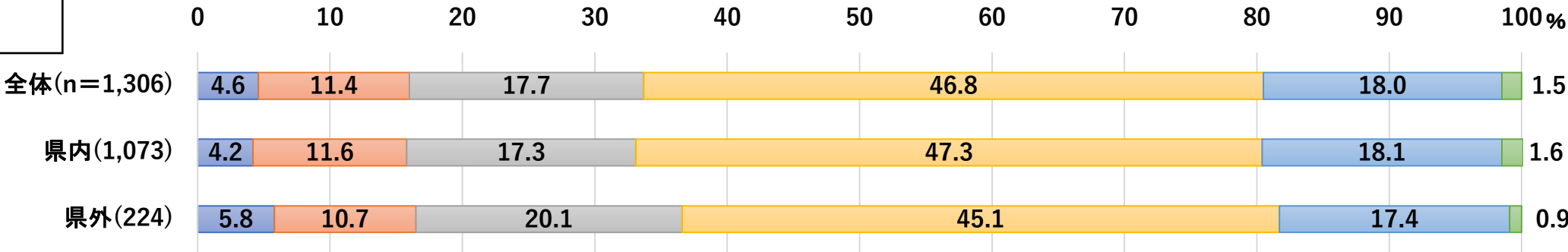




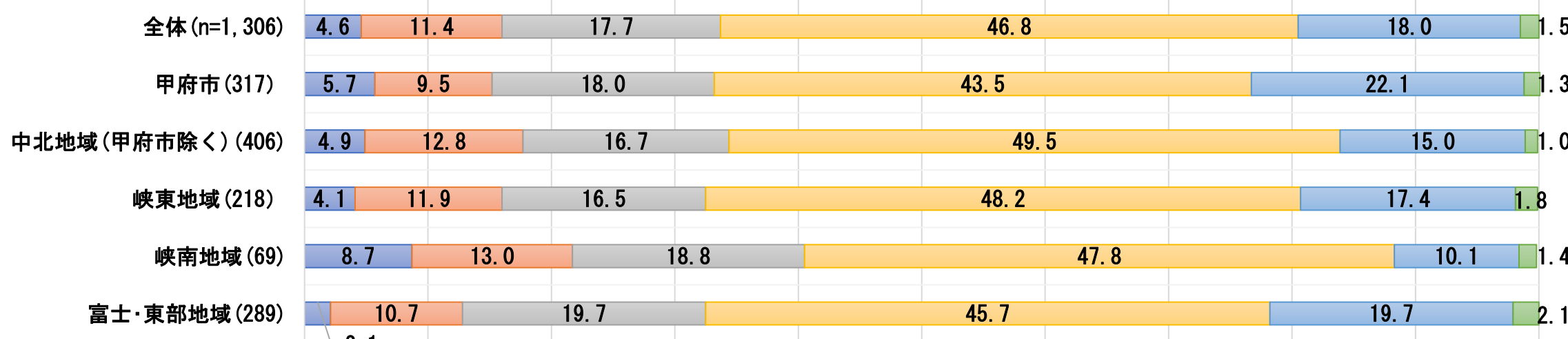
■ 居住地（圏域）別孤独感 ※県独自の設問

孤独感を県内・外出身別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」は、「県外出身者」で5.8%、「県内出身者」で4.2%となっている。
地域別では、「峡南地域」で8.7%と最も高くなっている。

山梨県



■しばしばある・常にある ■時々ある ■たまにある ■ほとんどない ■決してない ■無回答



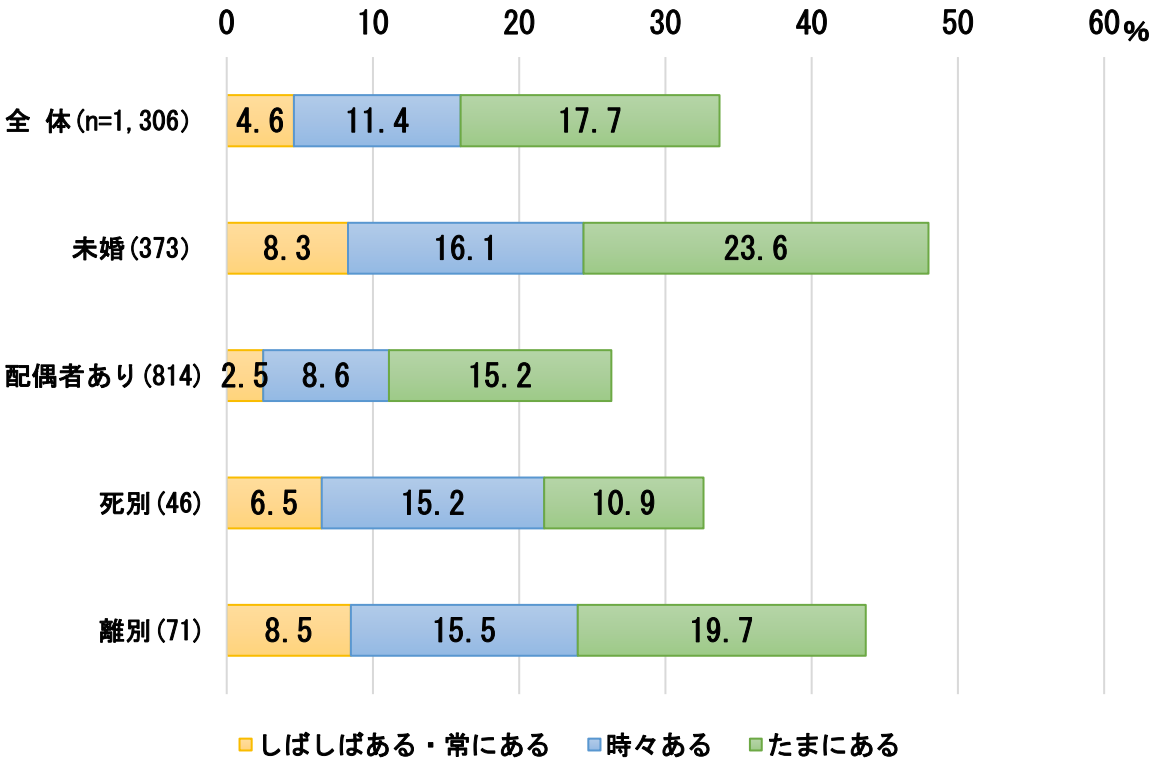
■しばしばある・常にある ■時々ある ■たまにある ■ほとんどない ■決してない ■無回答



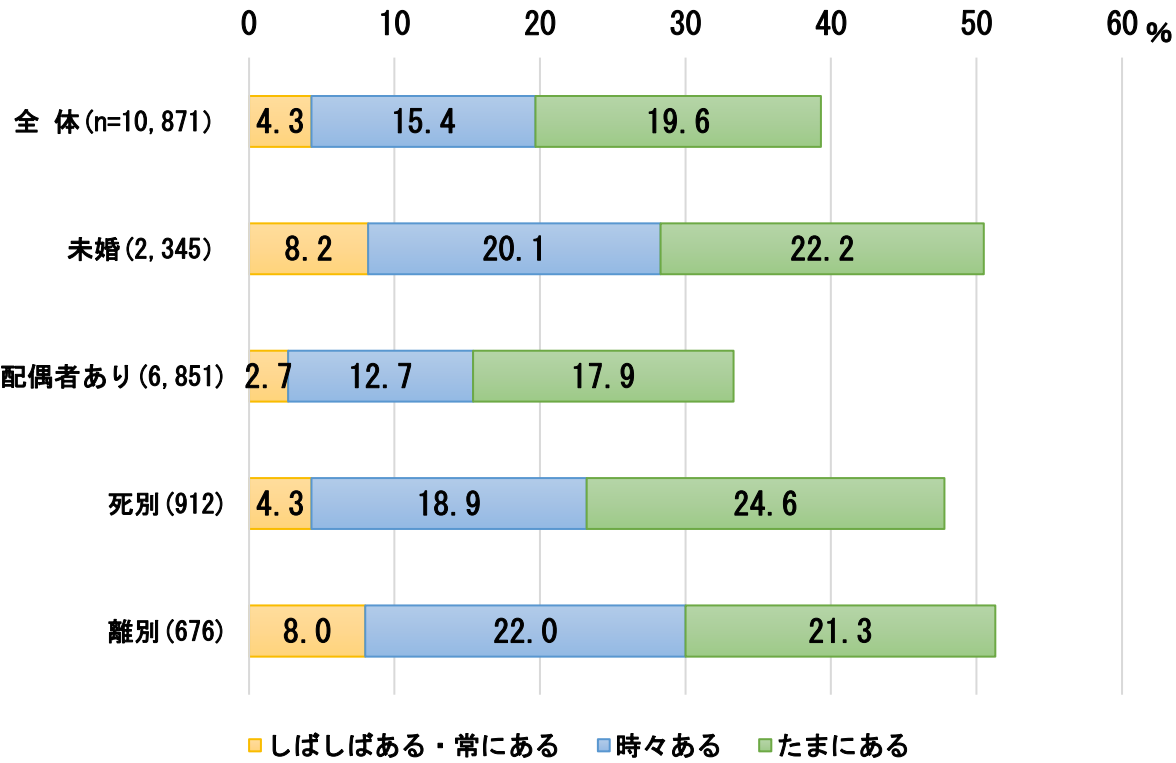
■ 配偶者の有無別孤独感

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「離別」及び「未婚」で高くなっている。全国でも同様の傾向となっている。

山梨県



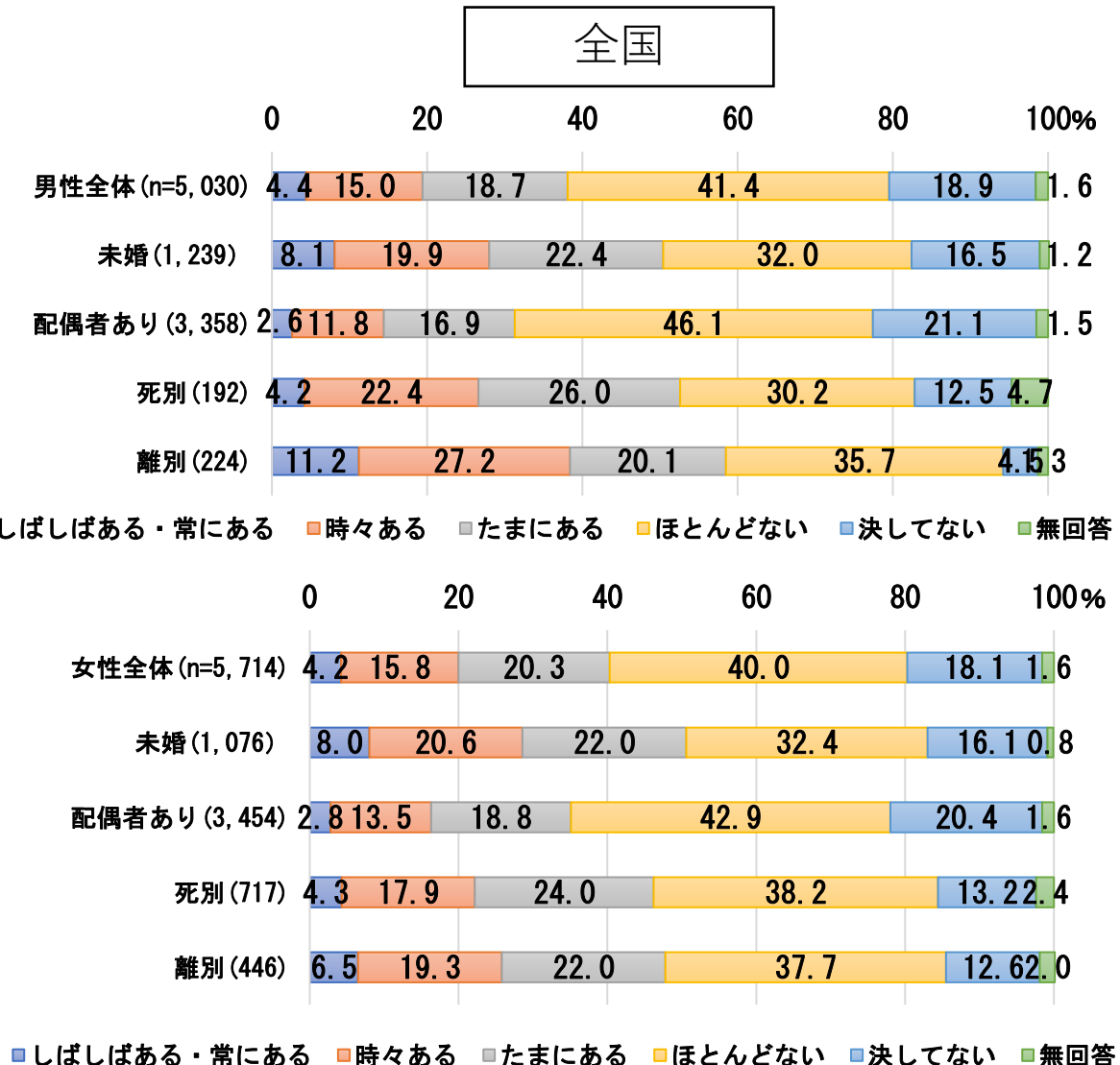
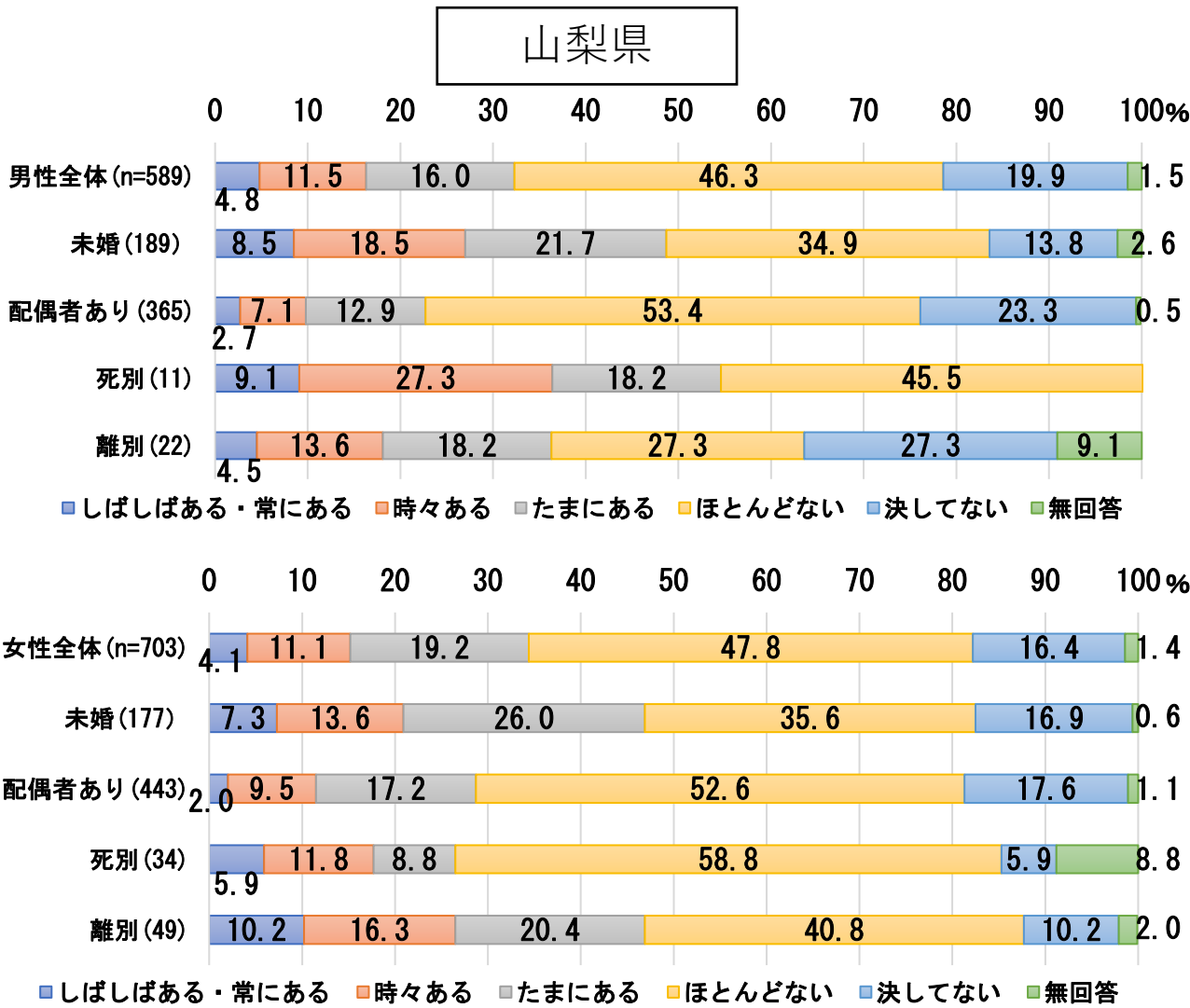
全国



II 結果の概要（県民調査）

男女、配偶者の有無別孤独感

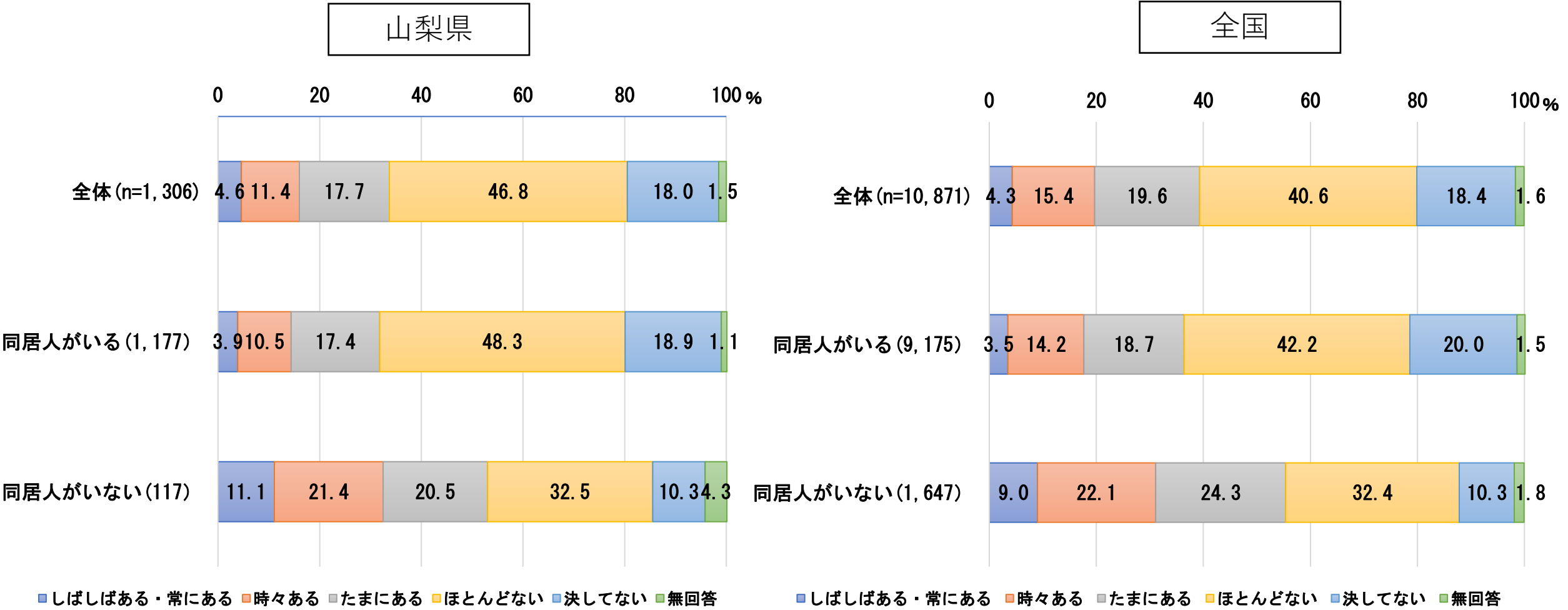
孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性は「死別」及び「未婚」で、女性は「離別」及び「未婚」で高くなっている。
全国では、男女ともに「未婚」及び「離別」で高くなっている。





同居人の有無別孤独感

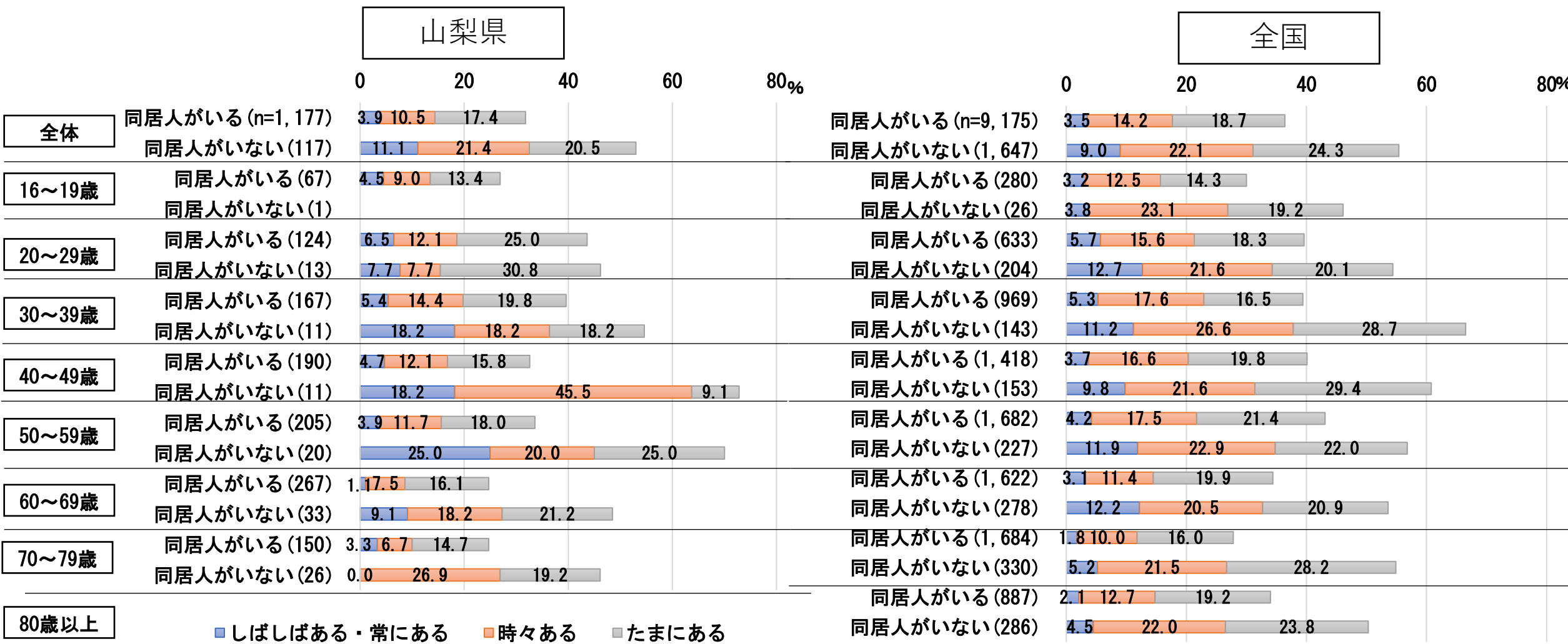
孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「同居人がいる」で3.9%、「同居人がいない」で11.1となっている。全国でも同様の傾向となっている。



II 結果の概要（県民調査）

■ 同居人の有無、年齢階級別孤独感

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、同居人がいる人では30代及び20代で、同居人がいない人では50代及び40代で高くなっている。全国では同居人がいる人は同様の傾向となっているが、同居人がいない人では20代及び60代で高くなっている。

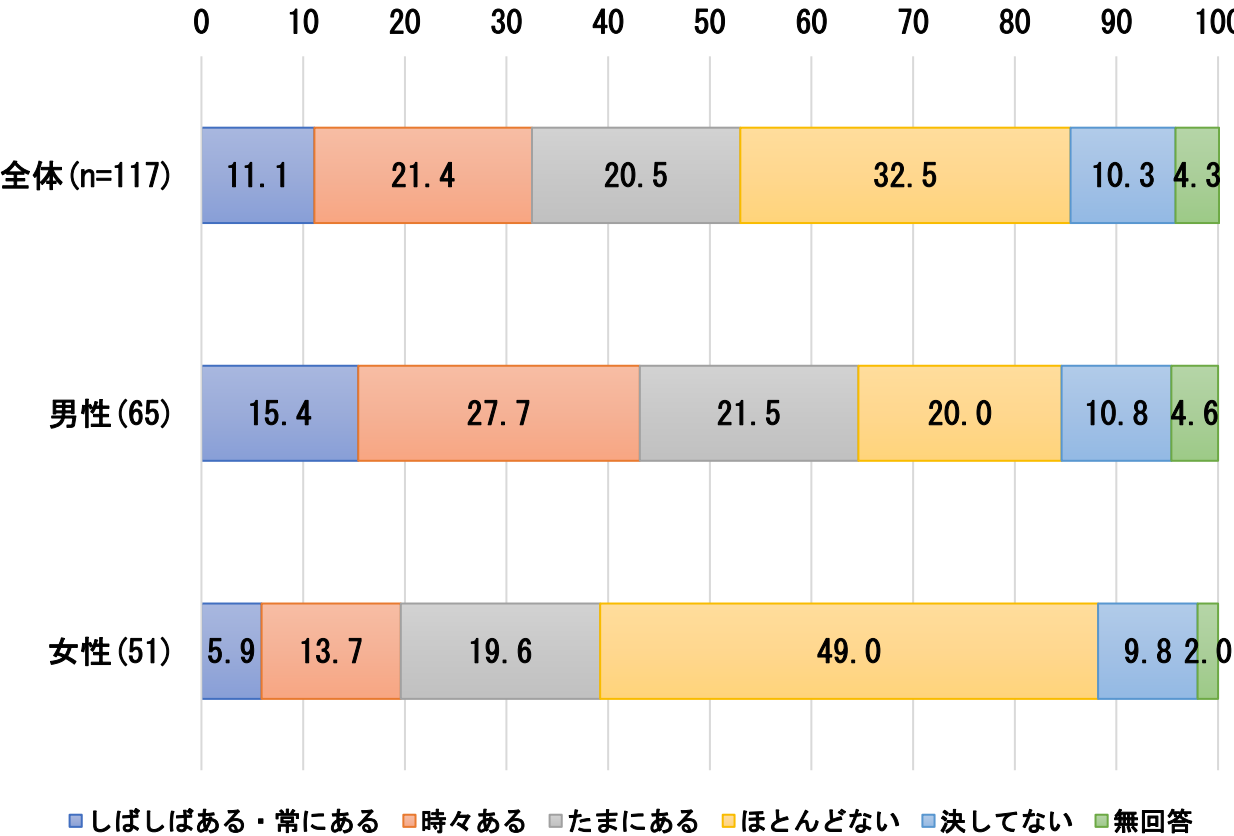




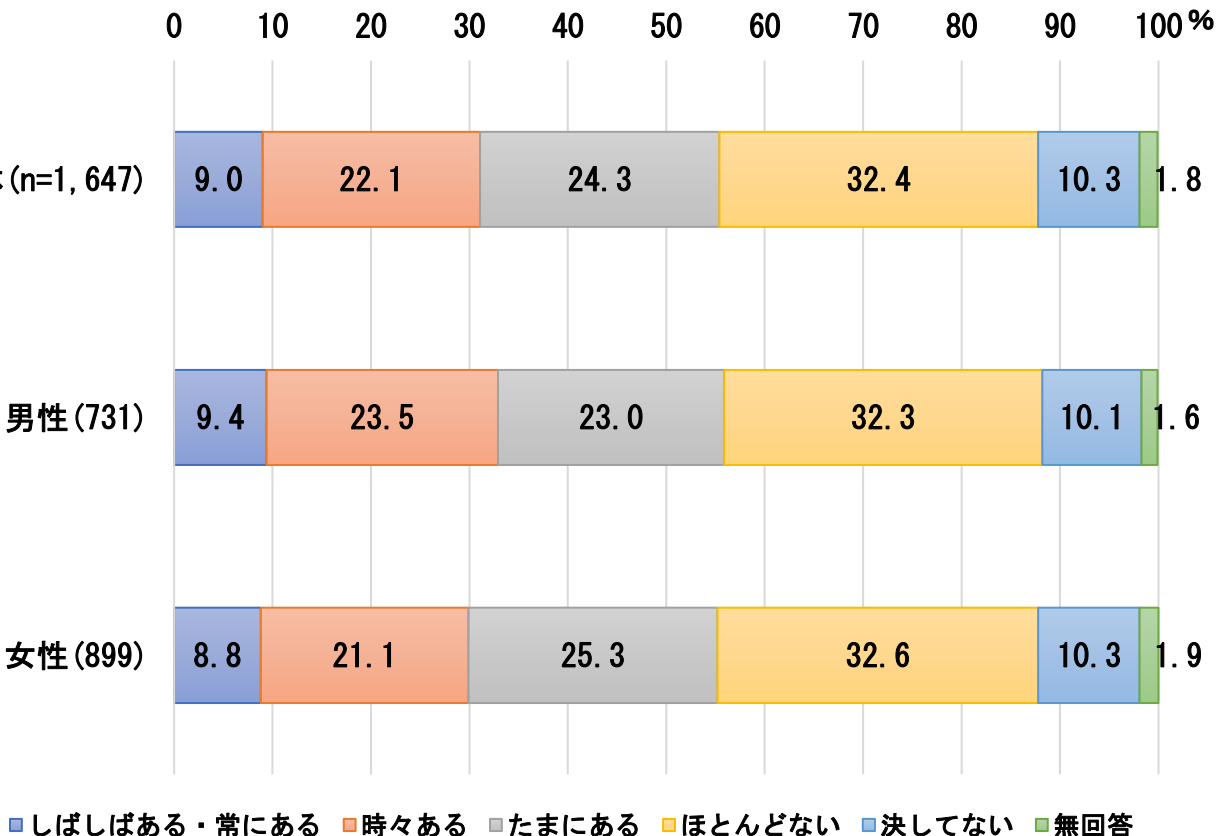
男女別単身者の孤独感

単身者の孤独感を男女別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性で15.4%、女性で5.9%となっている。全国でも同様の傾向となっているが、男女差はあまりない。

山梨県



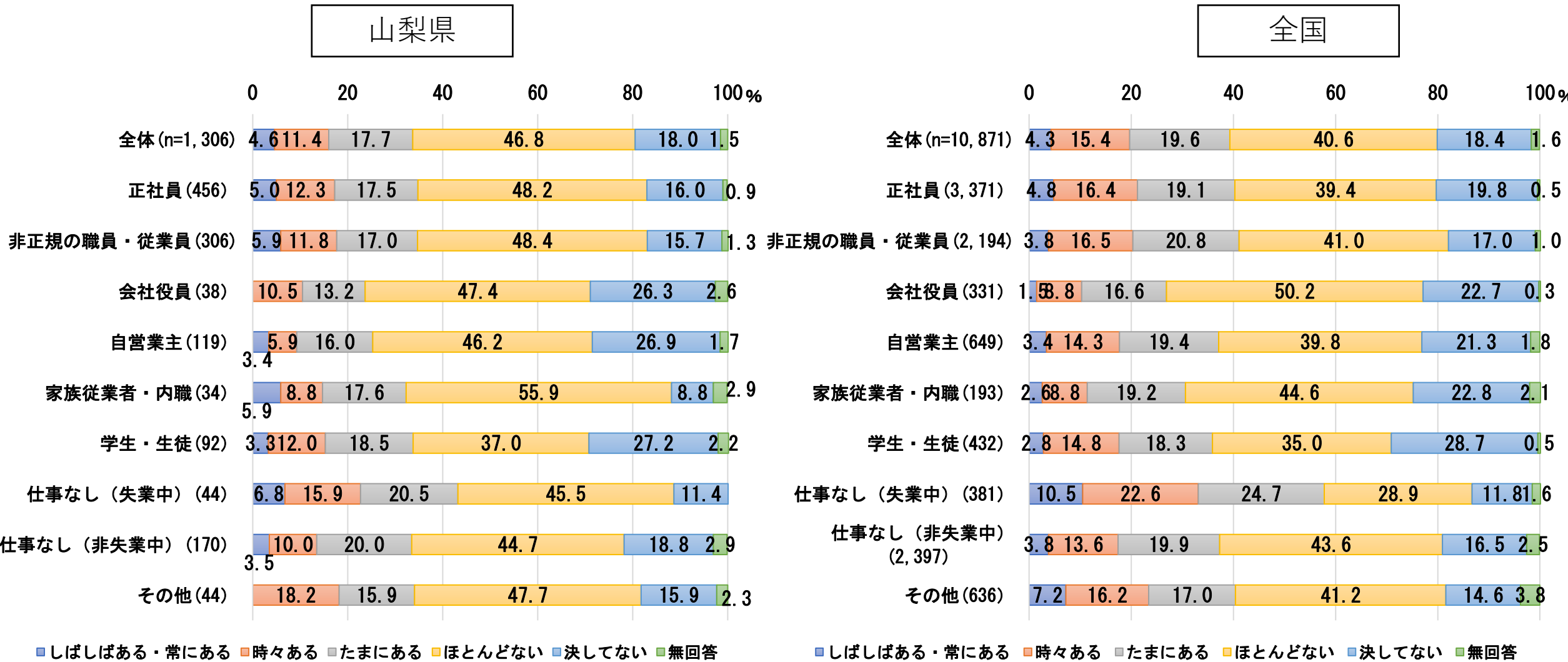
全国





■ 現在の仕事別孤独感

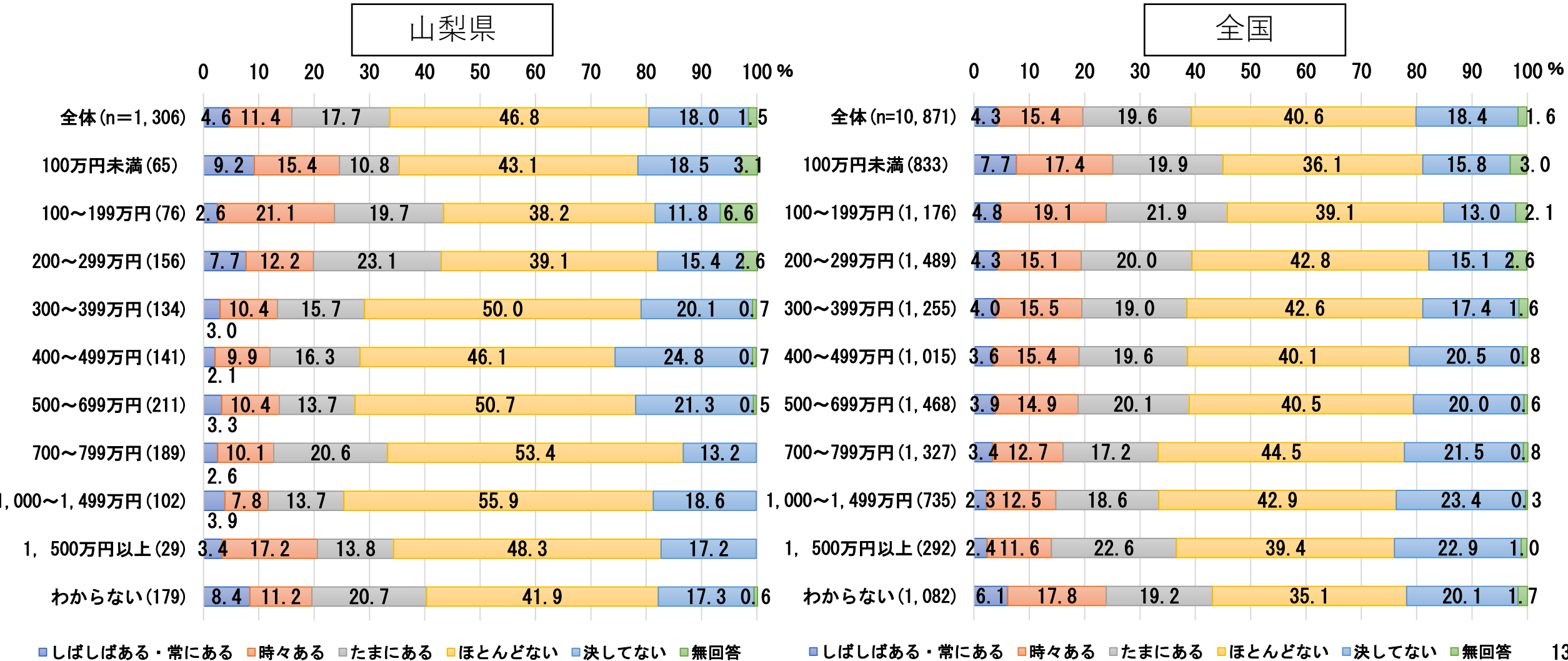
孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「仕事なし（失業中）」、「非正規の職員・従業員」及び「家族従業者・内職」で高くなっている。全国では「仕事なし（失業中）」及び「その他」で高くなっている。





■ 世帯の年収別孤独感

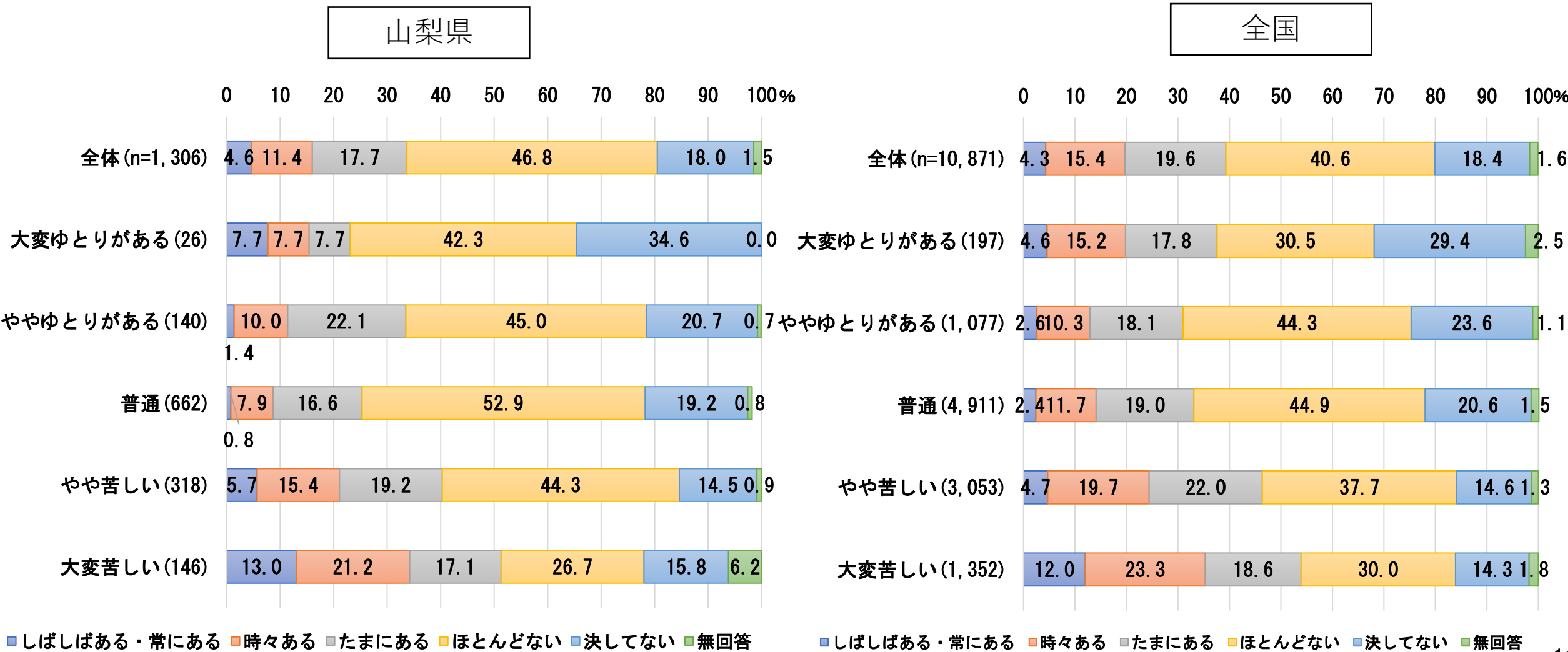
孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「100万円未満」及び「わからない」で高くなっている。全国でも同様の傾向となっている。





■ 経済的な暮らし向き別孤独感

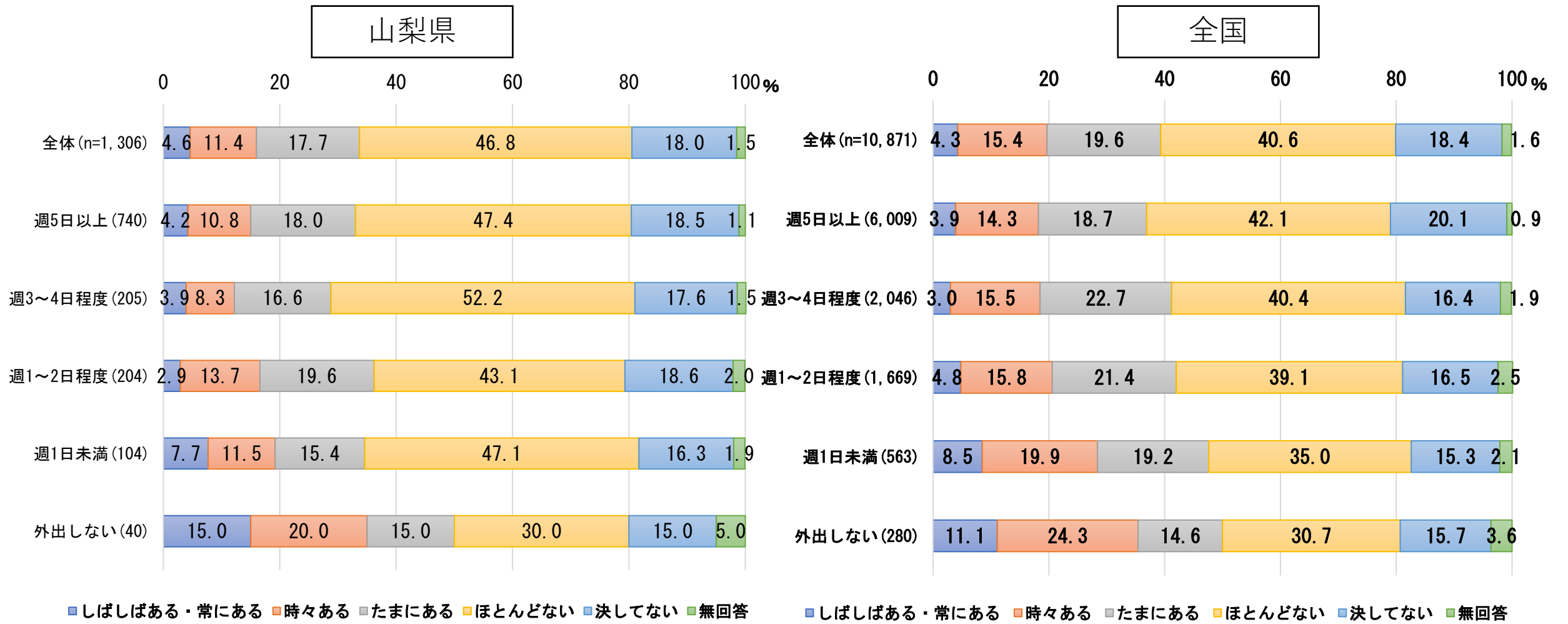
孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「大変苦しい」が高くなっている。全国でも同様の傾向となっている。





■ 外出頻度別孤独感

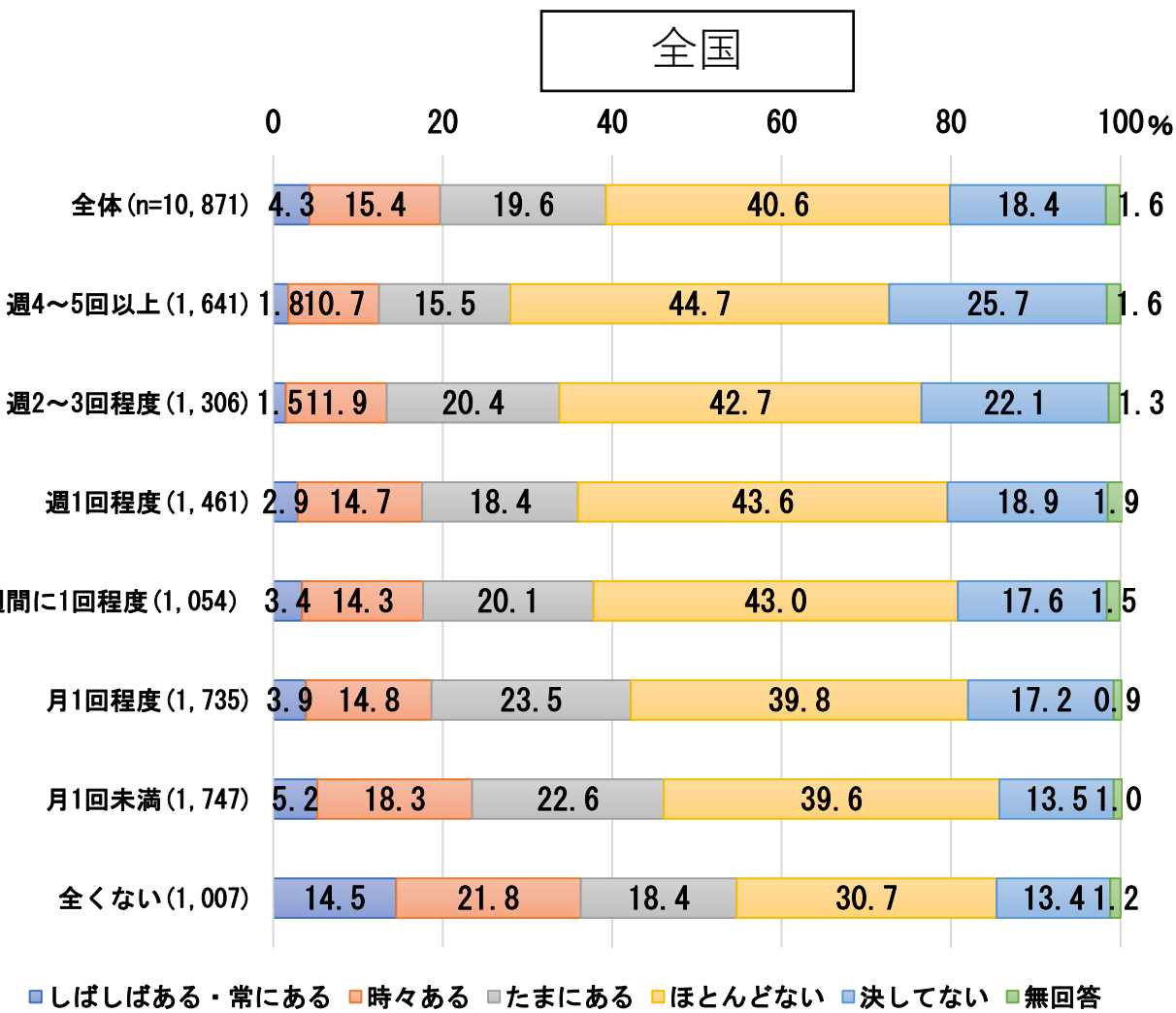
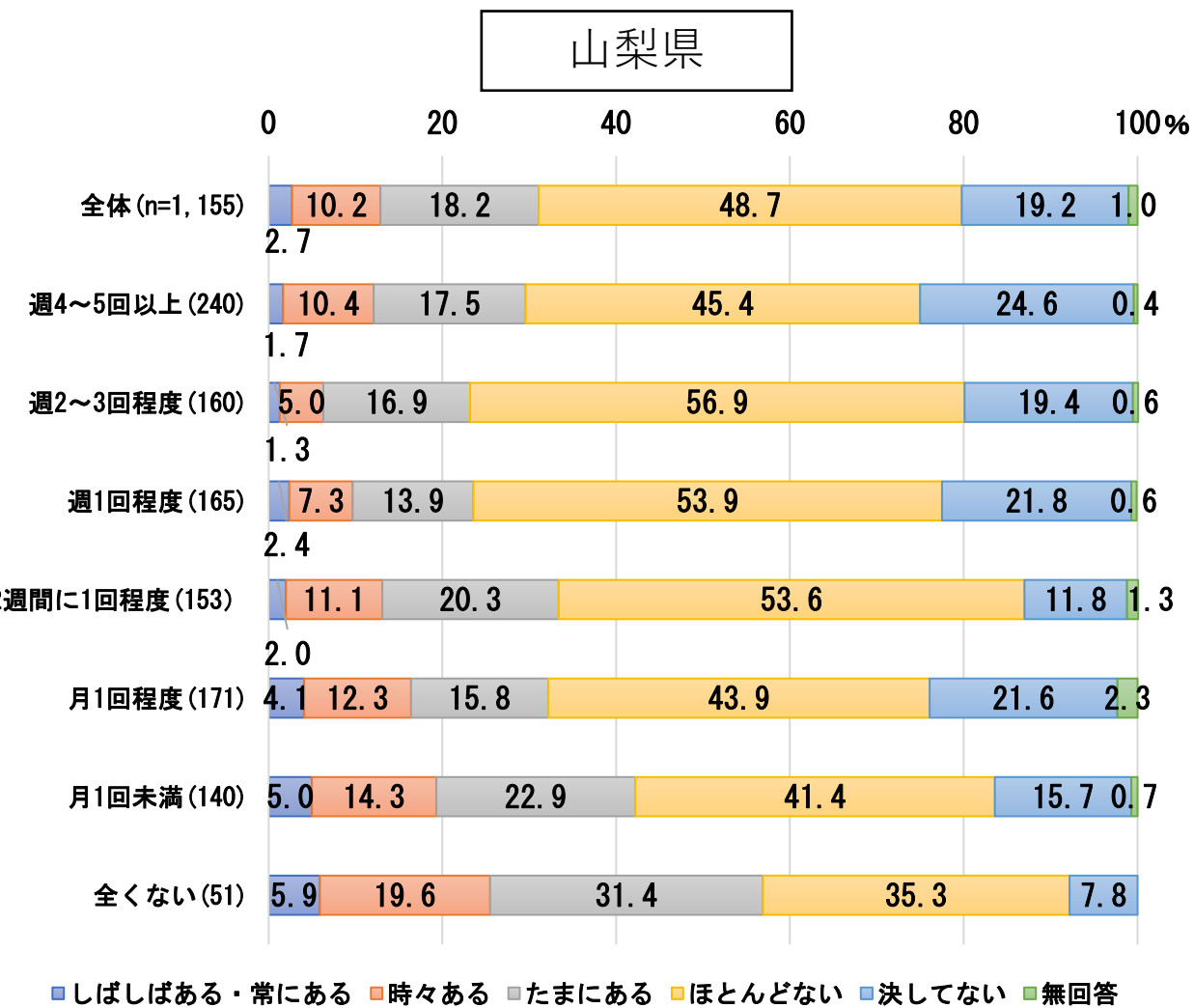
孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「外出しない」が高くなっている。全国でも同様の傾向となっている。





■ 同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度別孤独感 直接会って話す頻度別孤独感

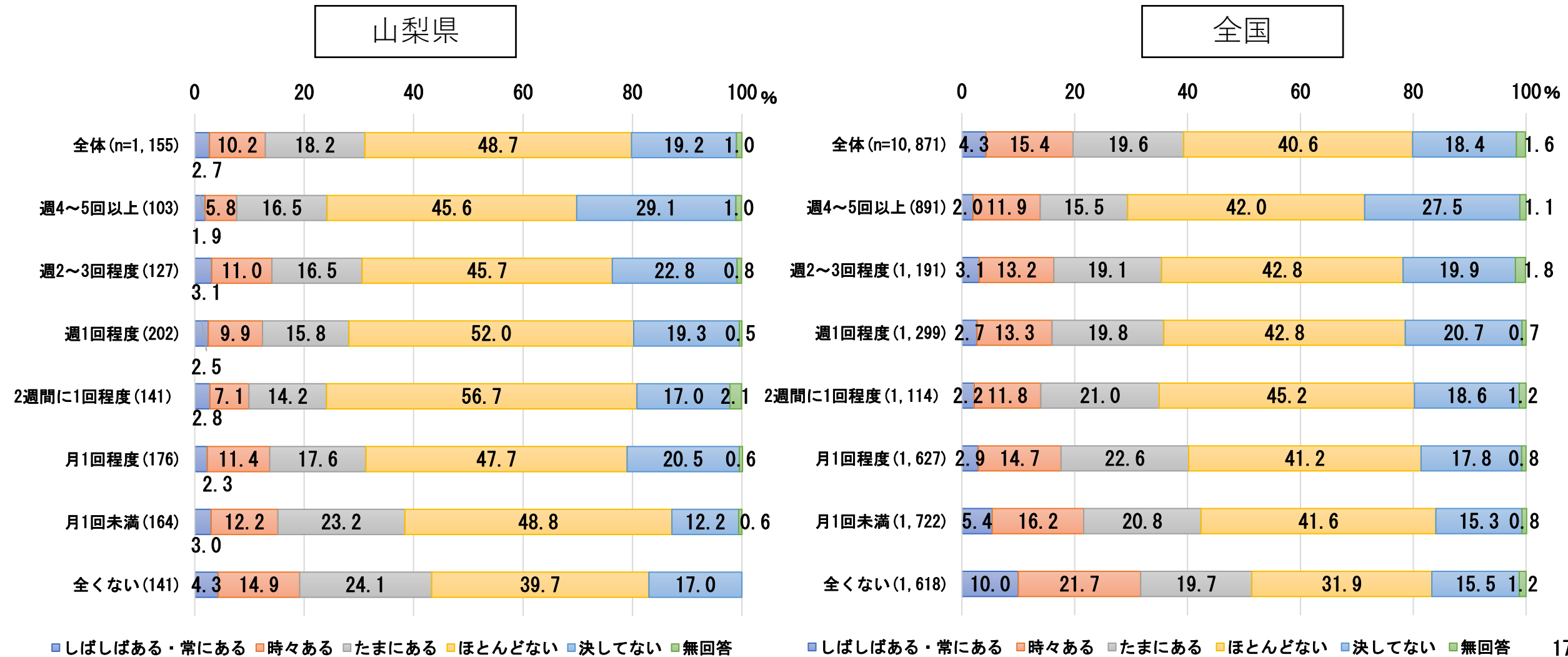
孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「全くない」及び「月1回未満」で高くなっている。全国でも同様の傾向となっている。





■ 同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度別孤独感 電話する頻度別孤独感

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「全くない」及び「週2～3回程度」で高くなっている。全国では「全くない」及び「月1回未満」及びで高くなっている。

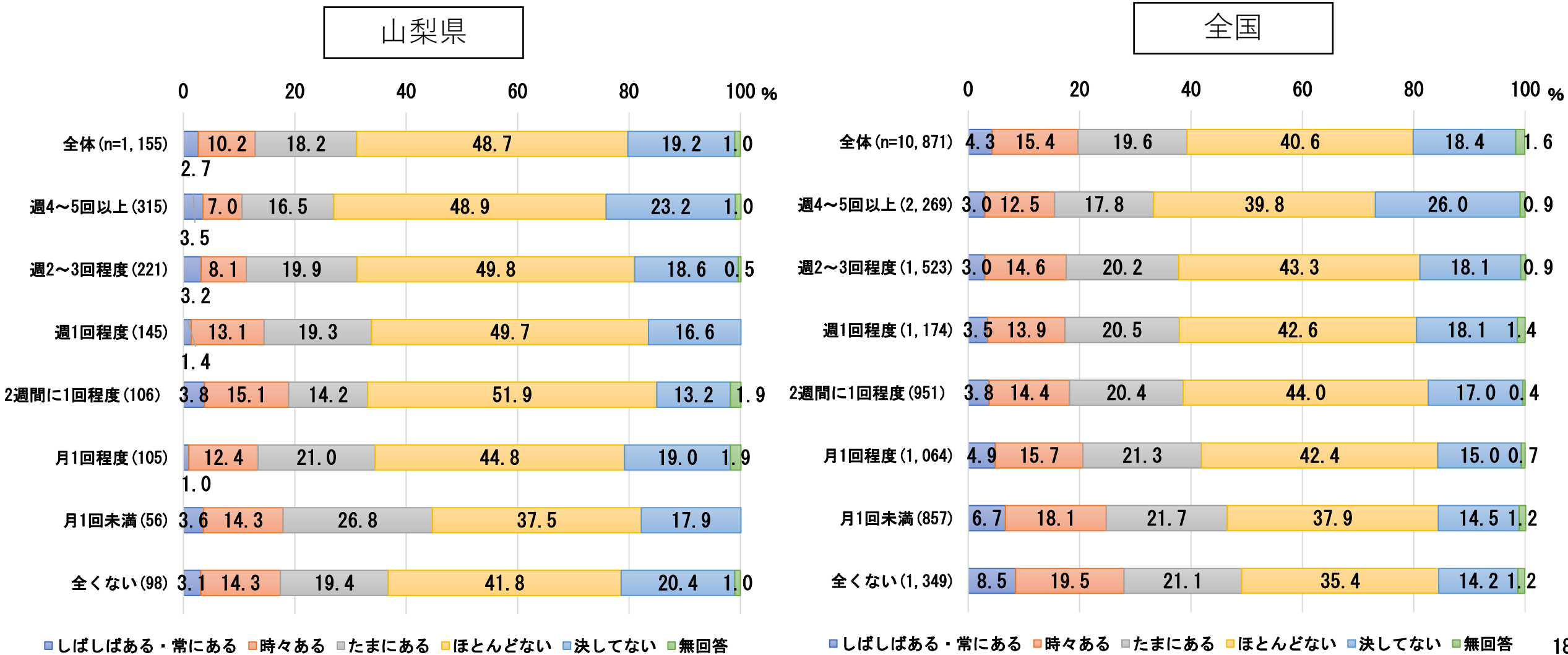




■ 同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度別孤独感 SNSや電子メールなどをする頻度別孤独感

※本県はSNSのみ

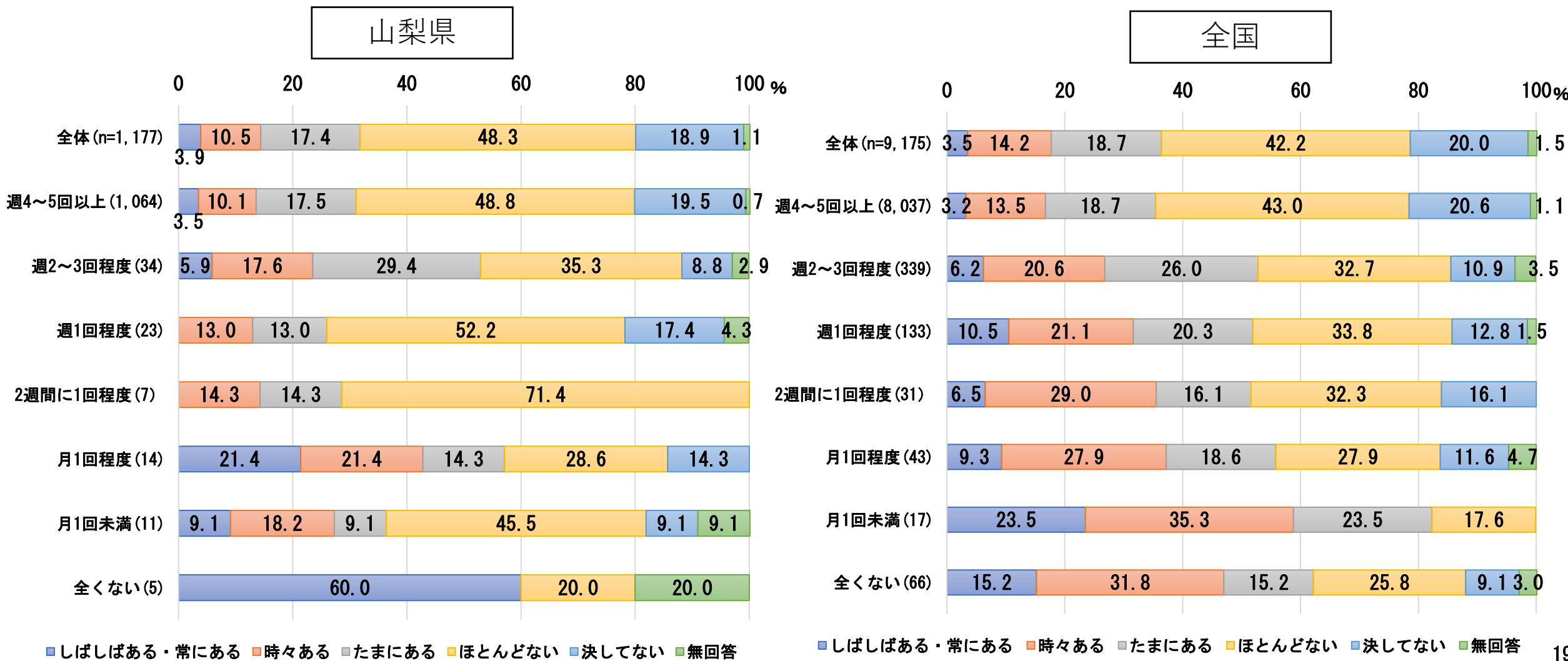
孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「2週間に1回程度」及び「月1回未満」及びで高くなっている。全国では「全くない」及び「月1回未満」で高くなっている。



II 結果の概要（県民調査）

同居している人たちと「直接会って話す」頻度別孤独感

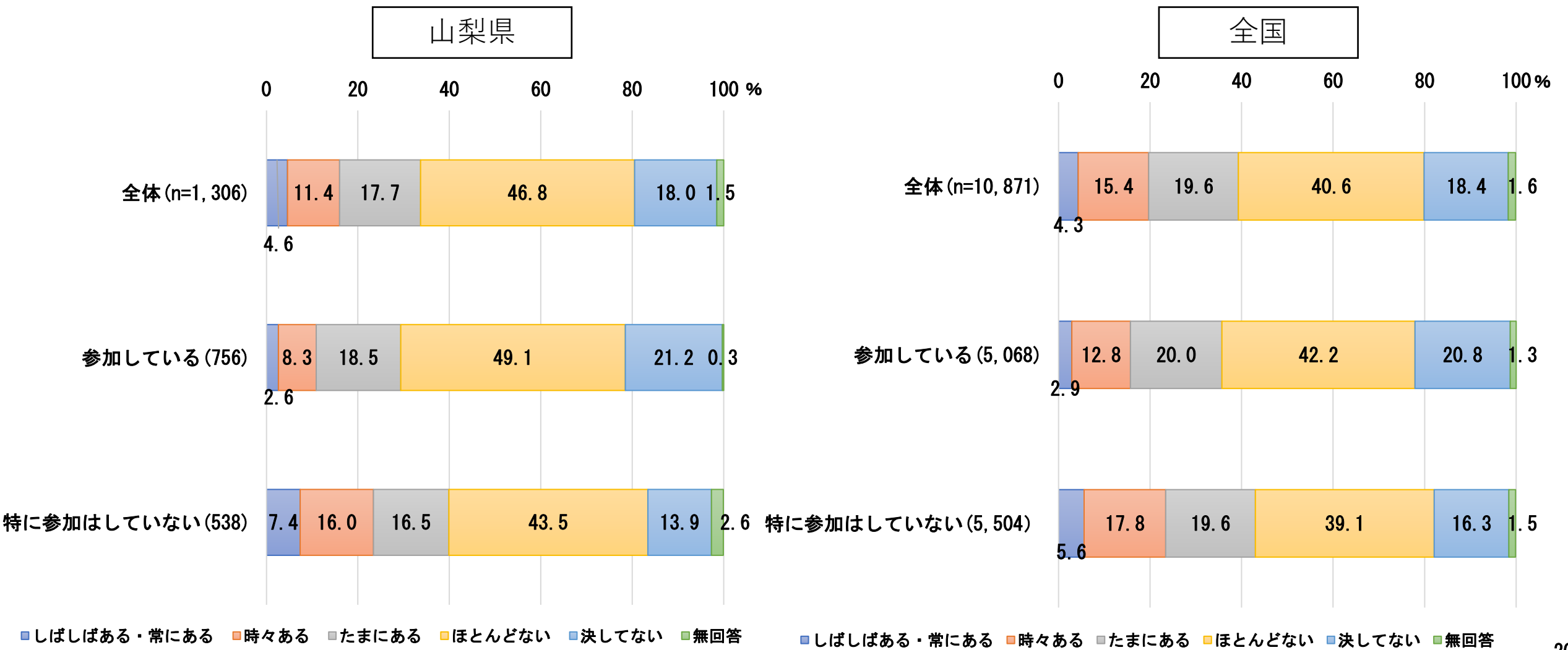
孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、頻度が「全くない」で高くなっている。全国では「月1回未満」及び「全くない」で高くなっている。





社会活動への参加状況別孤独感

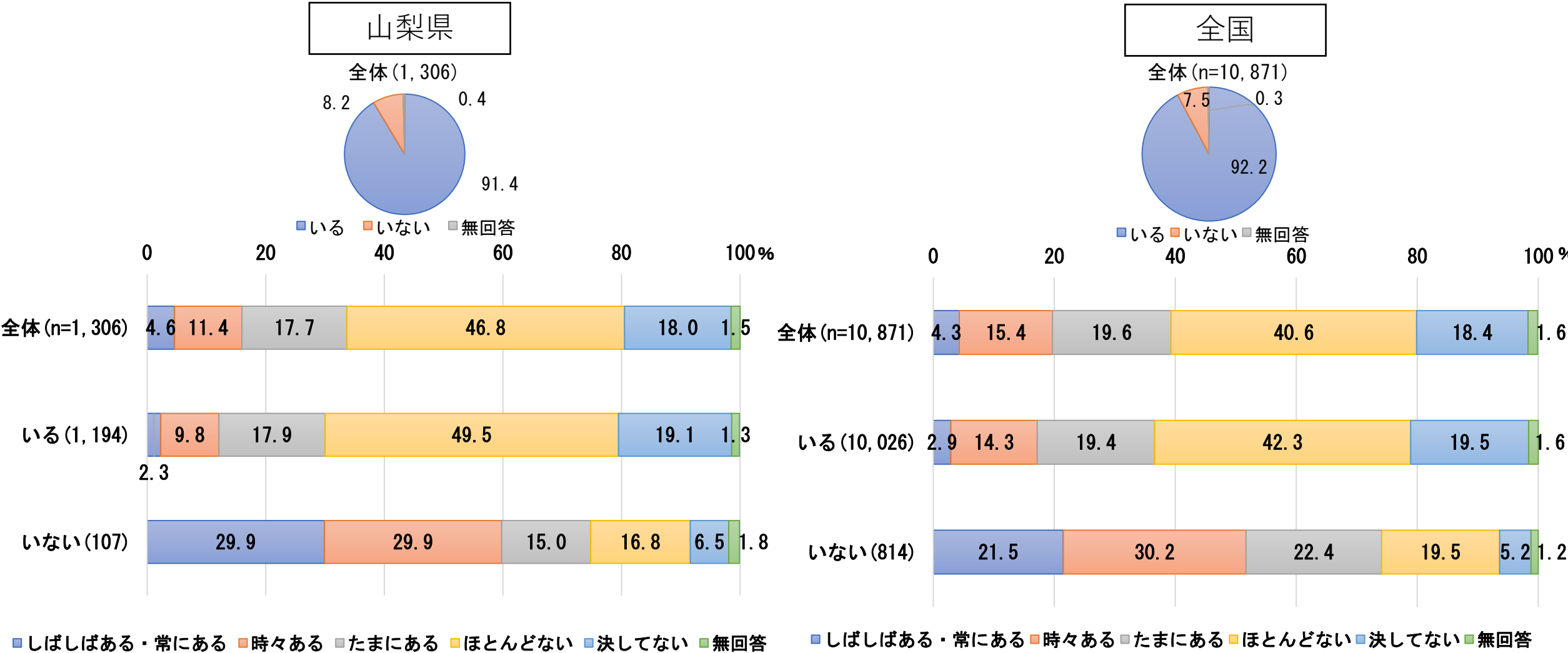
孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「参加している」で2.6%、「特に参加はしていない」で7.4%となっている。全国でも同様の傾向となっている。





■ 困ったときに頼れる人の有無別孤独感

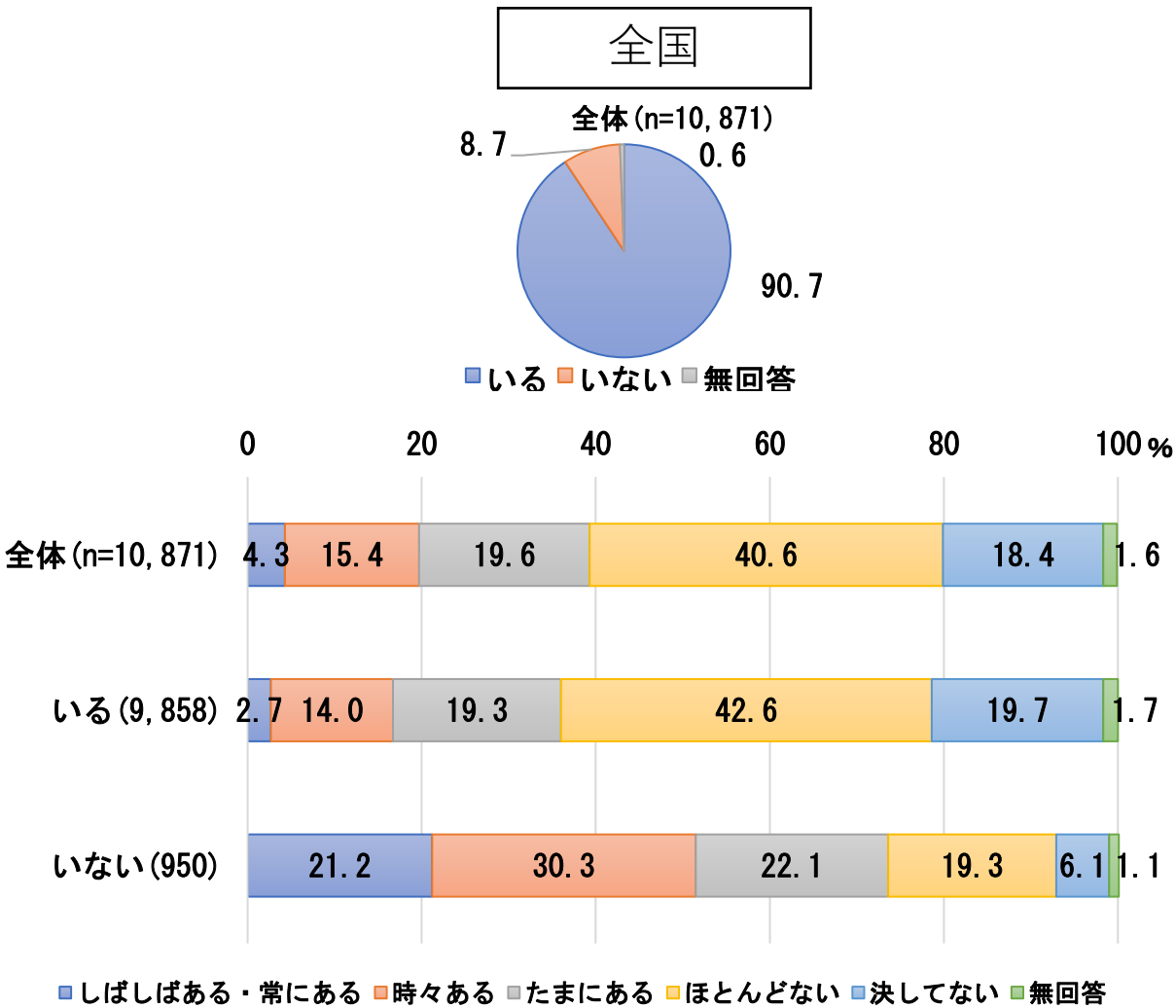
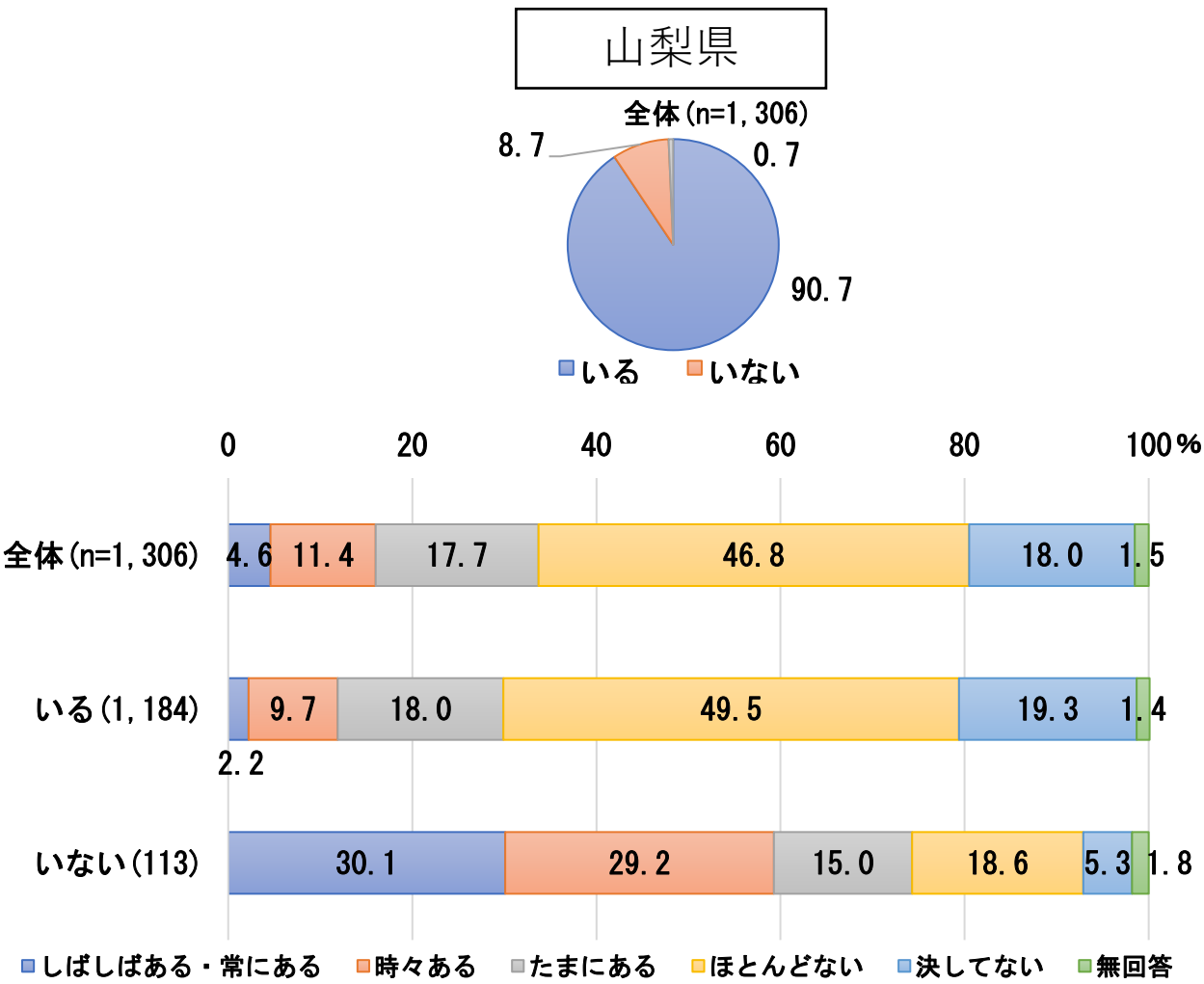
頼れる人が「いる」と回答した人の割合は91.4%、「いない」は8.2%となっている。
頼れる人の有無別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、頼れる人が「いる」で2.3%、「いない」で29.9%となっている。全国でも同様の傾向となっている。





■ 不安や悩みの相談相手の有無別孤独感

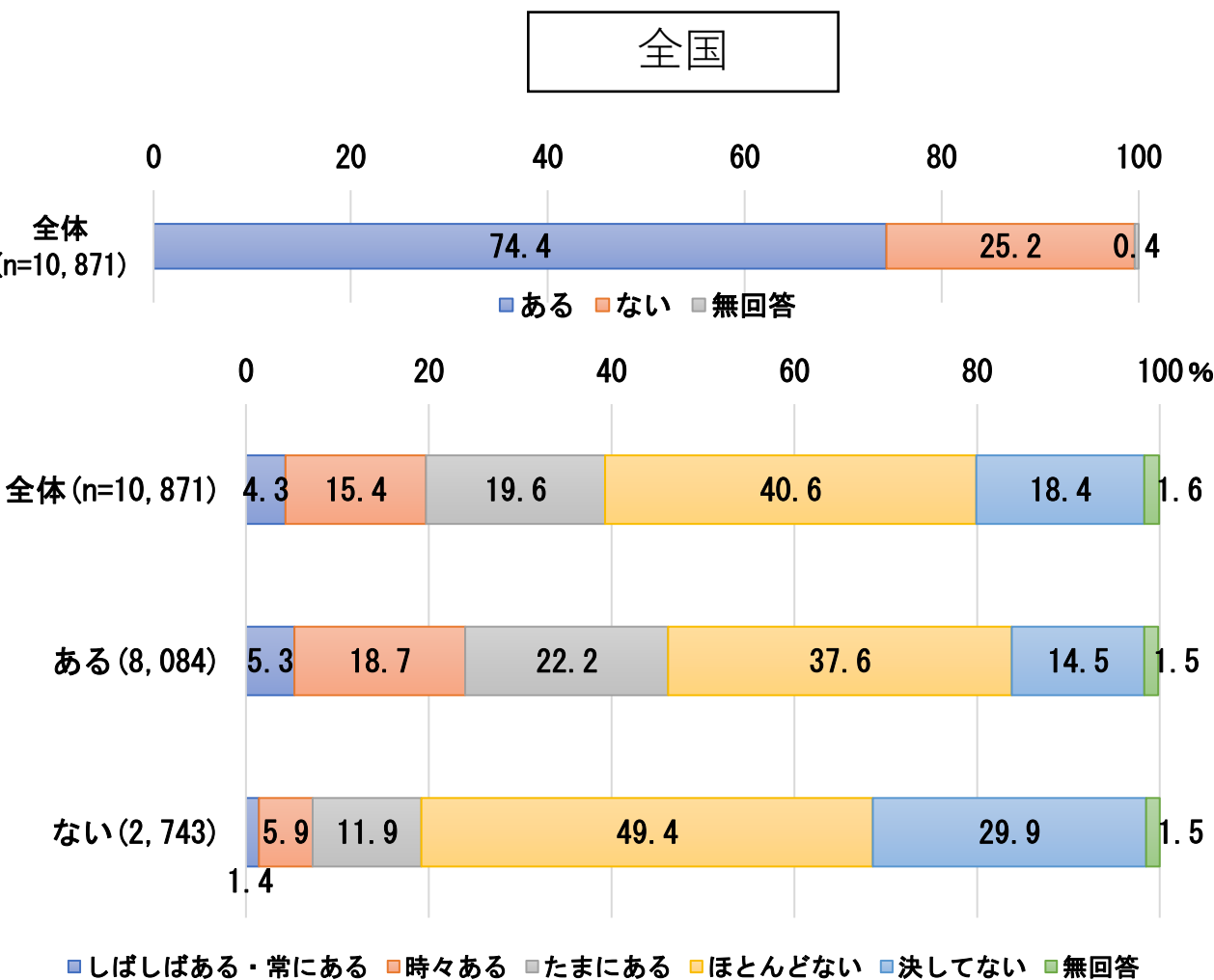
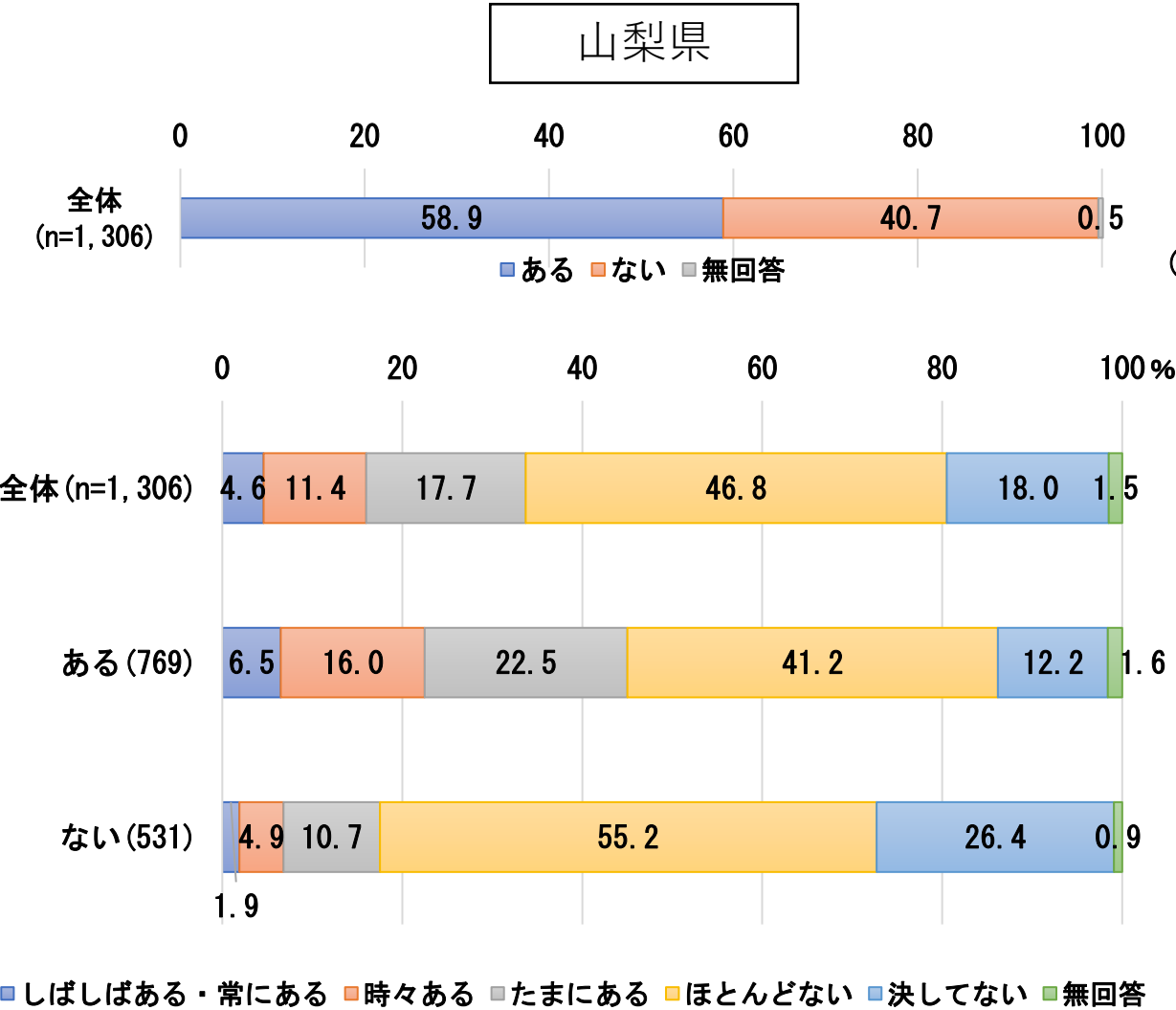
相談相手が「いる」と回答した人の割合は90.7%、「いない」は8.7%となっている。
相談相手の有無別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、相談相手が「いる」で2.2%、「いない」で30.1%となっている。全国でも同様の傾向となっている。





■ 不安や悩みの有無別孤独感

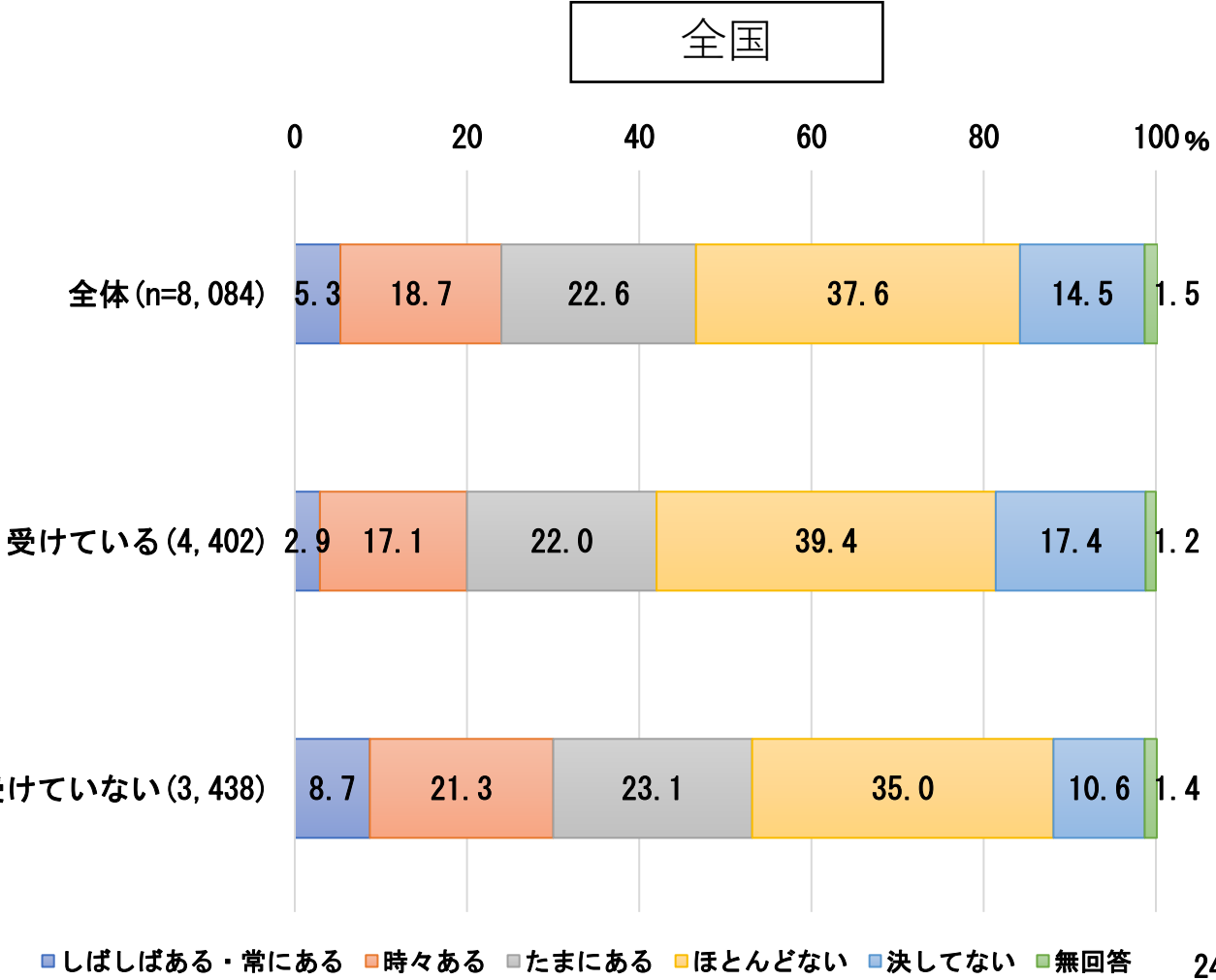
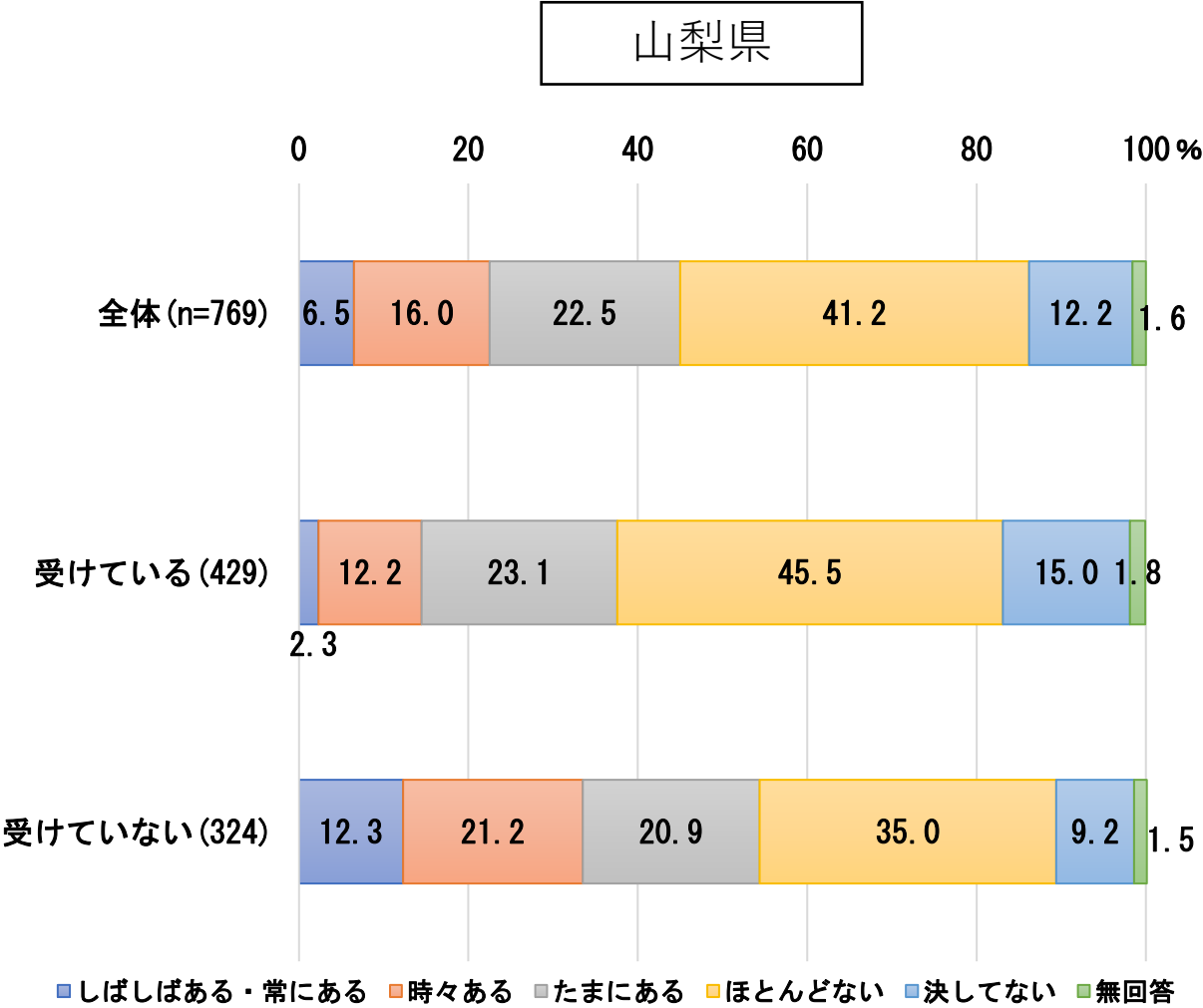
不安や悩みが「ある」と回答した人の割合は58.9%、「ない」は40.7%となっている。
不安や悩みの有無別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、不安や悩みを感じていることが「ある」で6.5%、「ない」で1.9%となっている。全国でも同様の傾向となっているが、不安や悩みが「ない」と回答した人の割合は、全国に比較して高くなっている。





不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別孤独感

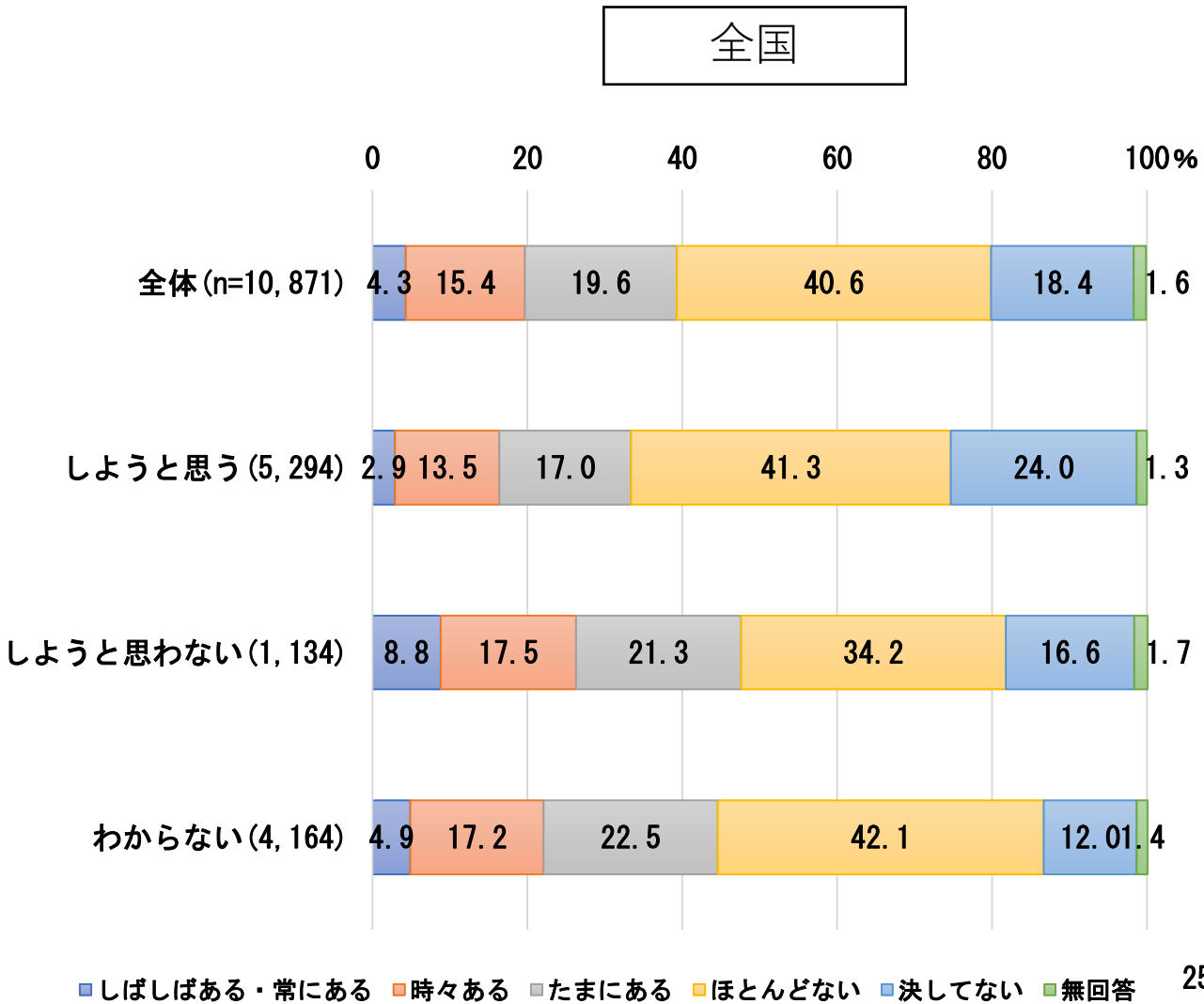
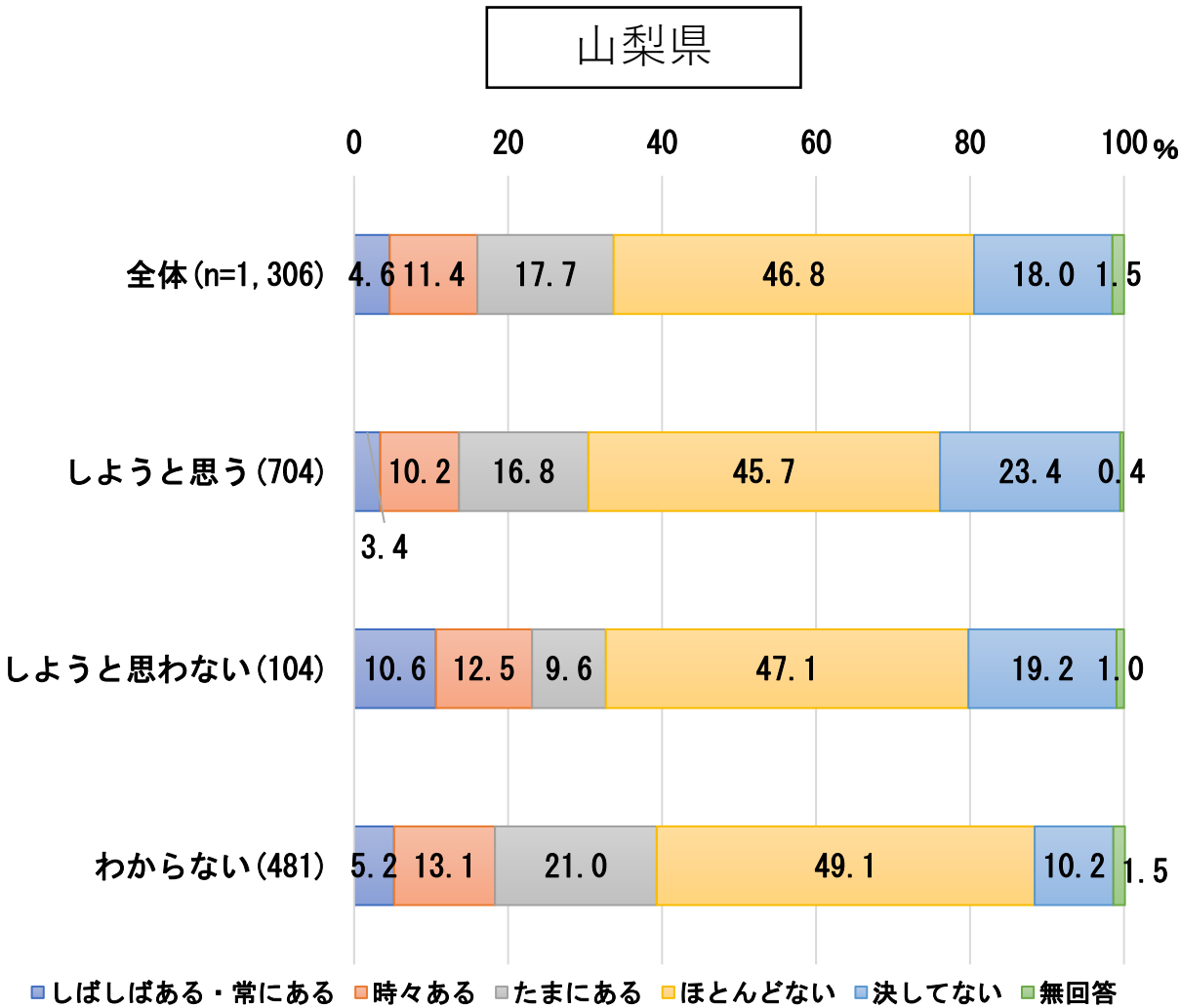
孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、家族・友人等からの手助けを「受けている」で2.3%、「受けていない」で12.3%となっている。全国でも同様の傾向となっている。





■ 他者へのサポート意識別孤独感

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、手助けを「しようと思う」で3.4%、「しようと思わない」で10.6%となっている。全国でも同様の傾向となっている。

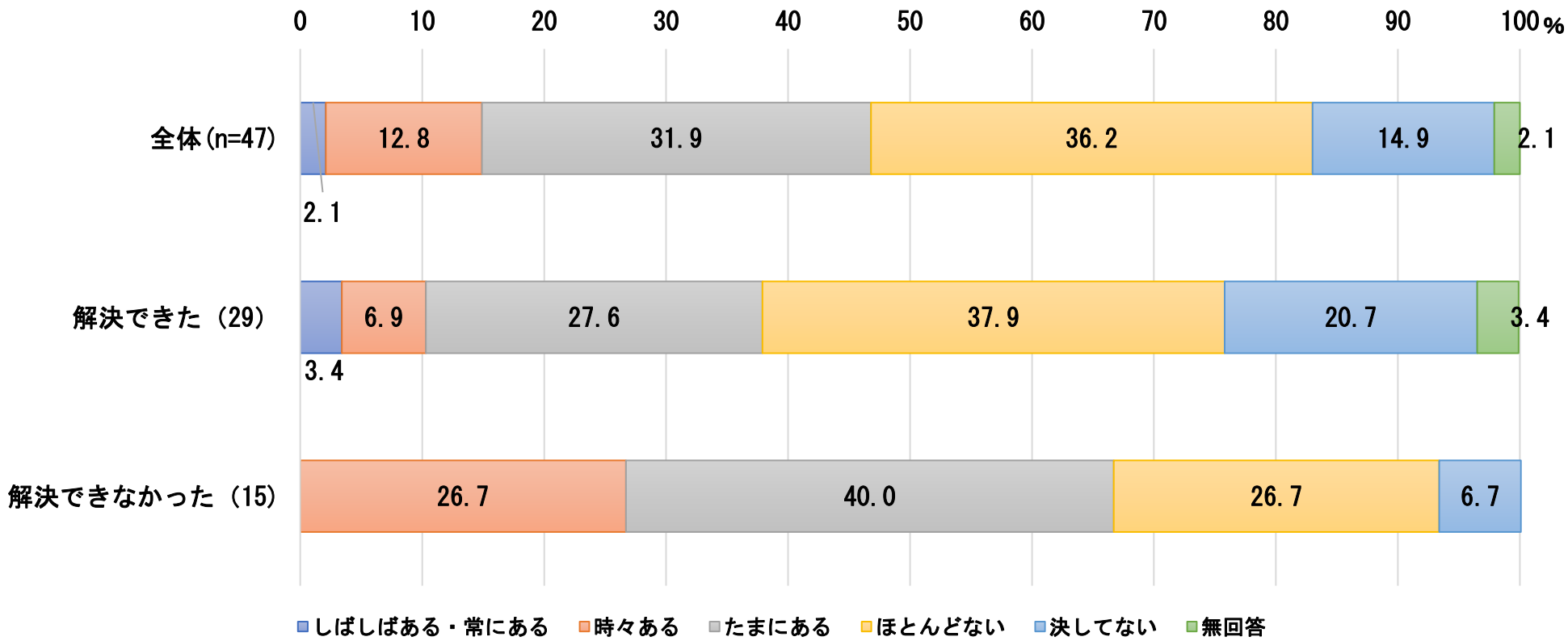




■ 不安や悩みの解決の有無別孤独感 ※県独自設問

行政機関やNPO等の民間団体から支援を受けている人を不安や悩みの解決の有無別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、不安や悩みが「解決できた」で3.4%、「解決できなかった」は0%となっている。

山梨県

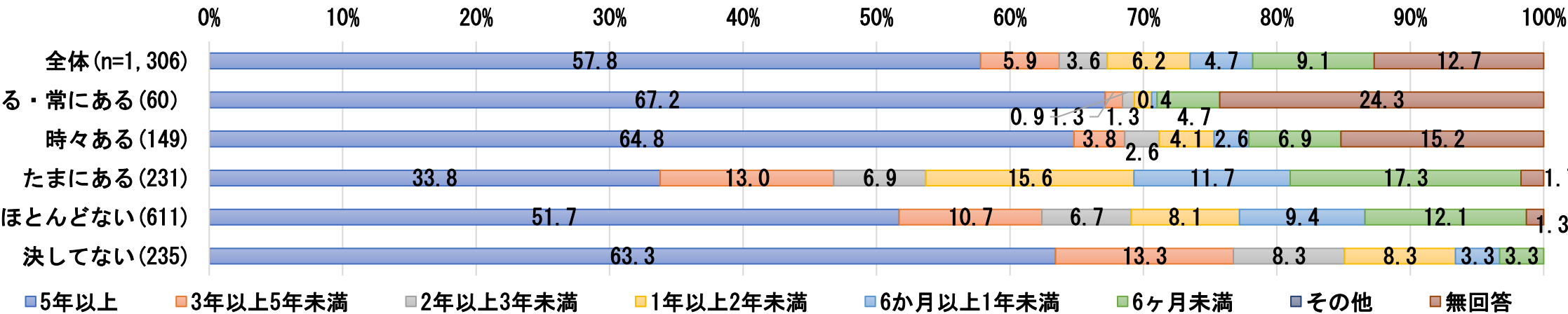




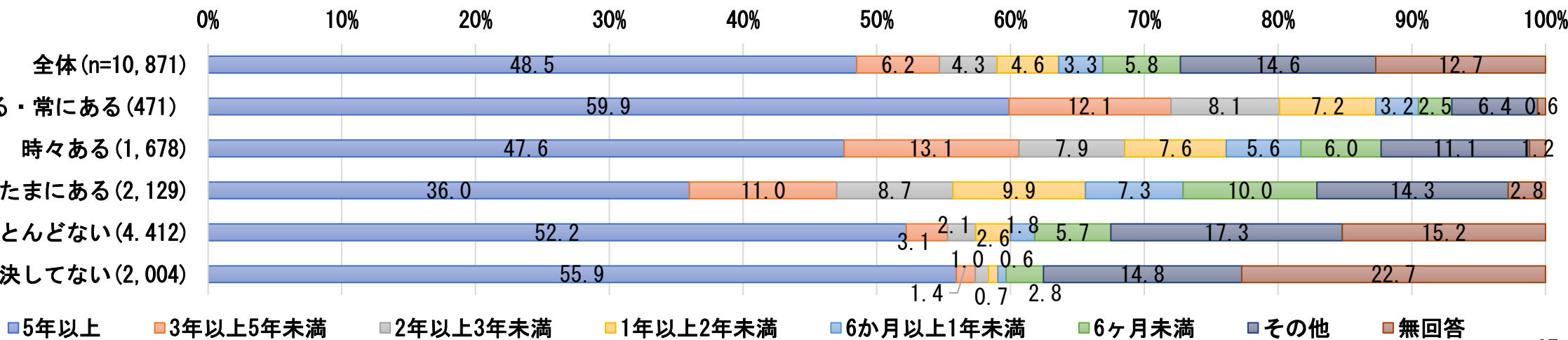
■ 孤独感別現在の孤独感の継続期間

現在の孤独感の継続期間をみると、全体的に「5年以上」と回答した割合が高く、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人では67.2%となっている。全国でも同様の傾向となっている。

山梨県



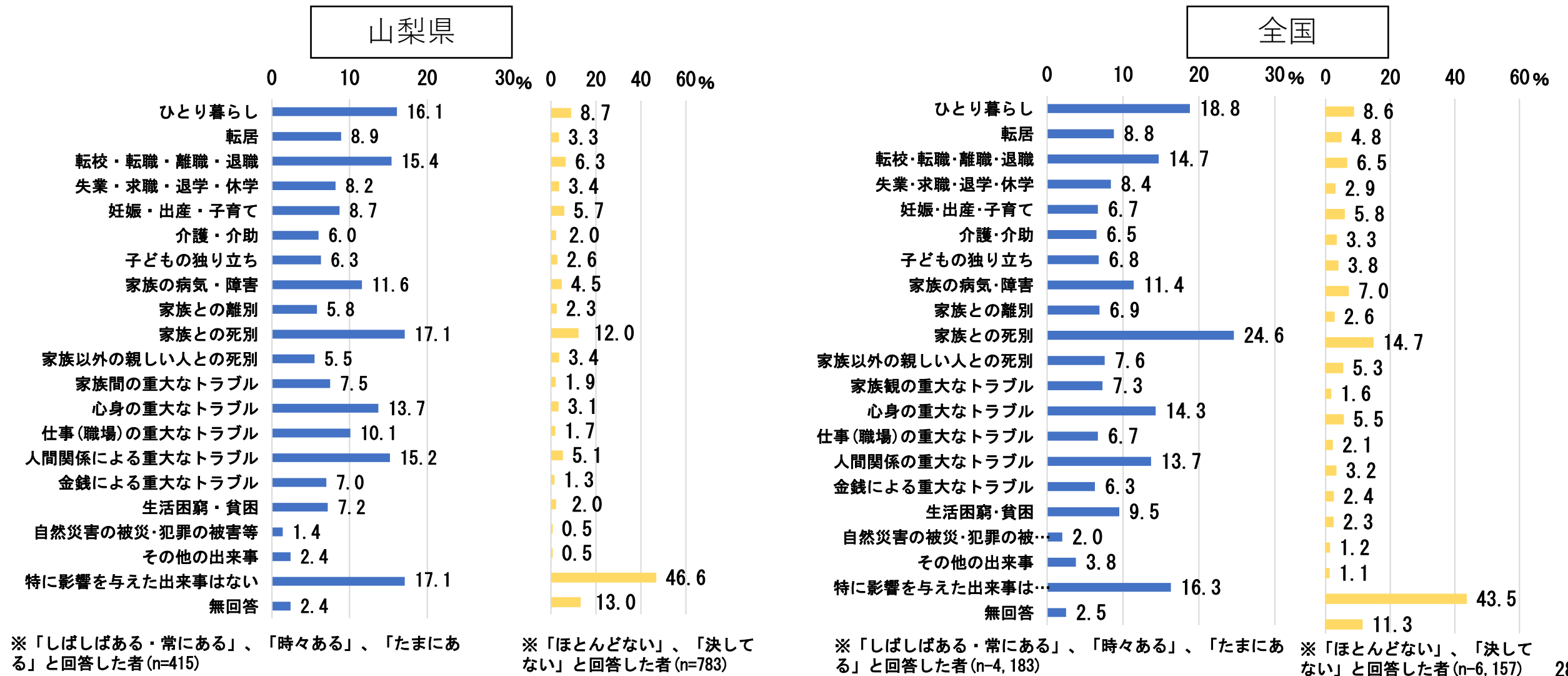
全国





■ 孤独感別孤独感に影響を与えたと思う出来事（複数回答）

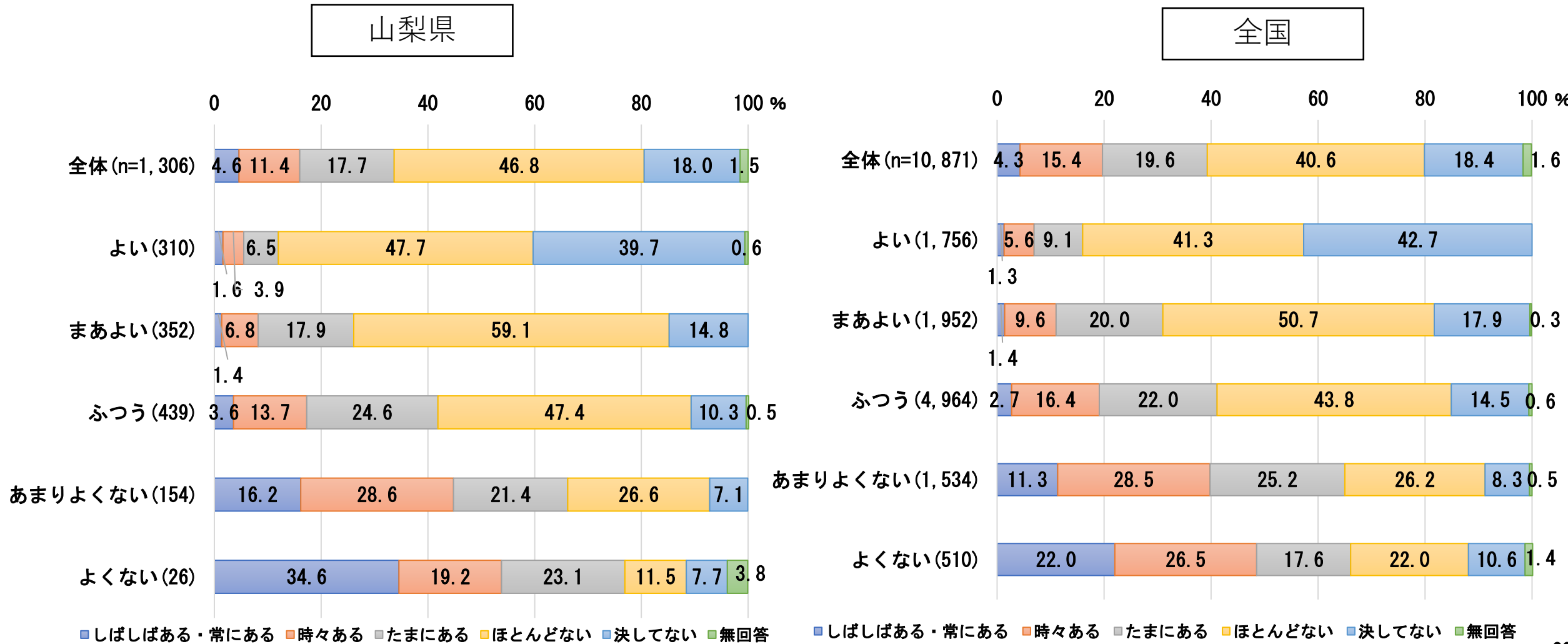
孤独感が「しばしばある・常にある」、「時々ある」または「たまにある」と回答した人では、「家族との死別」（１７．１％）、「特に影響を与えたと思われる出来事はない」（１７．１％）及び「ひとり暮らし」（１６．１％）で高くなっている。全国でも同様の傾向となっている。





■ 心身の健康状態別孤独感

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、心身の健康状態が「よくない」及び「あまりよくない」で高くなっている。全国でも同様の傾向となっている。

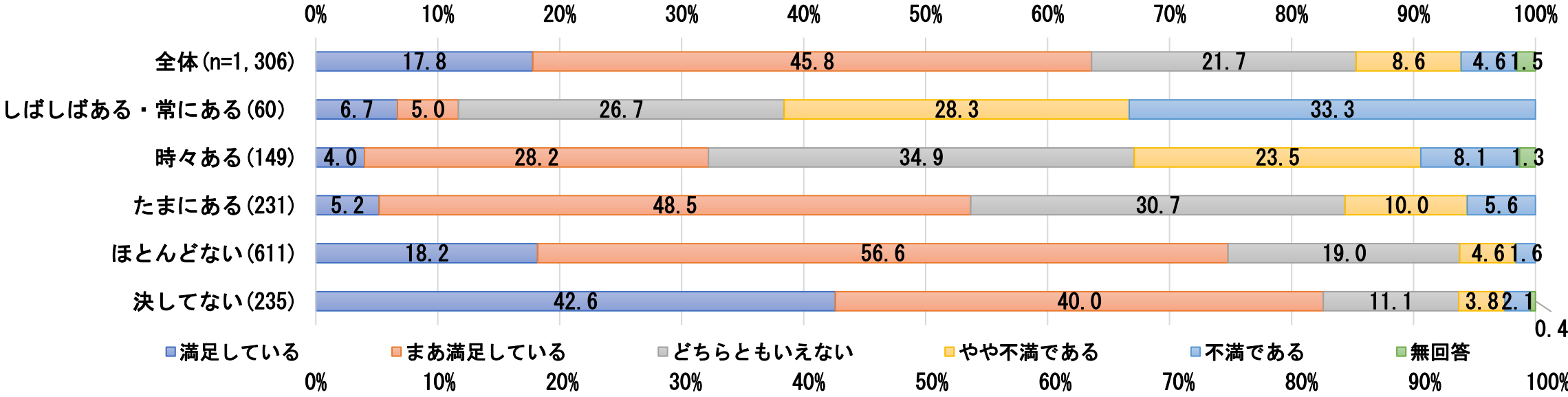




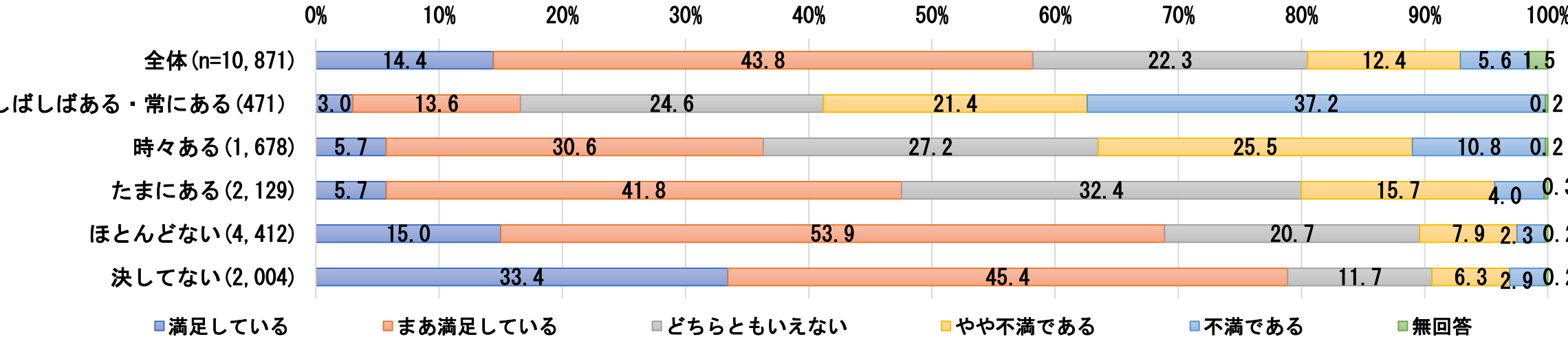
■ 孤独感別生活満足度

現在の生活に「満足している」と回答した人の割合は17.8%、「まあ満足している」が45.8%となっている。一方、「不満である」と回答した人の割合は4.6%、「やや不満である」が8.6%となっている。現在の生活に「満足している」と回答した人の割合は、孤独感が「決してない」及び「ほとんどない」で高くなっている。一方、「不満である」と回答した人の割合は、孤独感が「しばしばある・常にある」及び「時々ある」で高くなっている。全国でも同様の状況となっている。

山梨県



全国

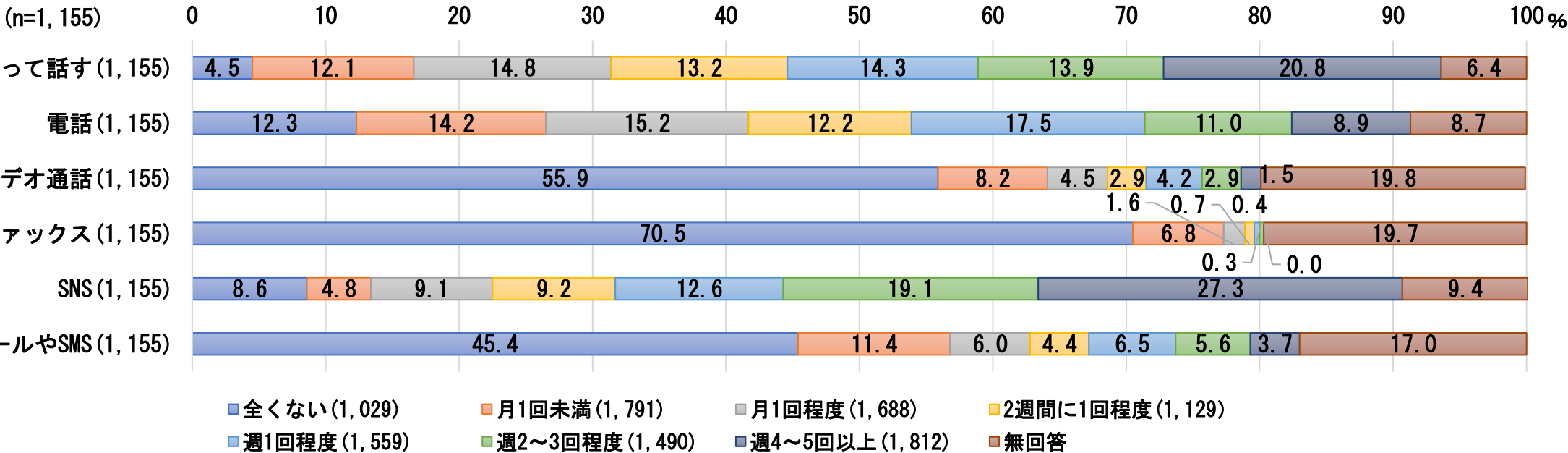




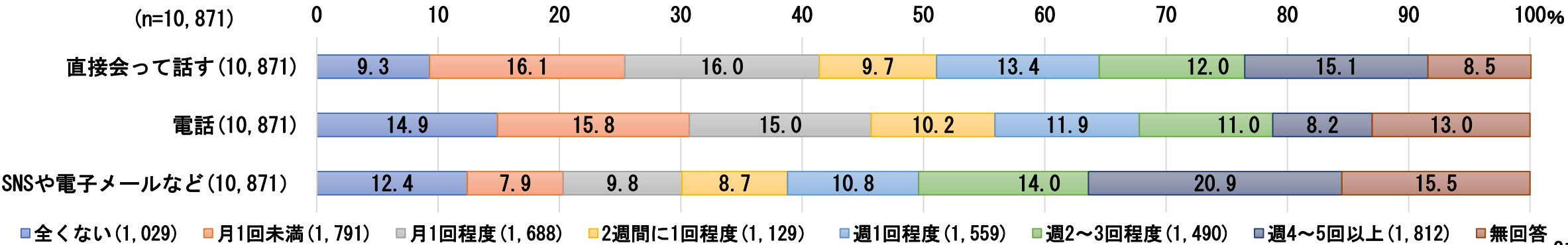
■ 同居していない家族や友人やたちとのコミュニケーション頻度

コミュニケーション頻度が「全くない」と回答した人の割合は「直接会って話す」4.5%、「電話」12.3%、「SNS」8.6%となっている。全国と比較すると全体的には低くなっている。

山梨県



全国

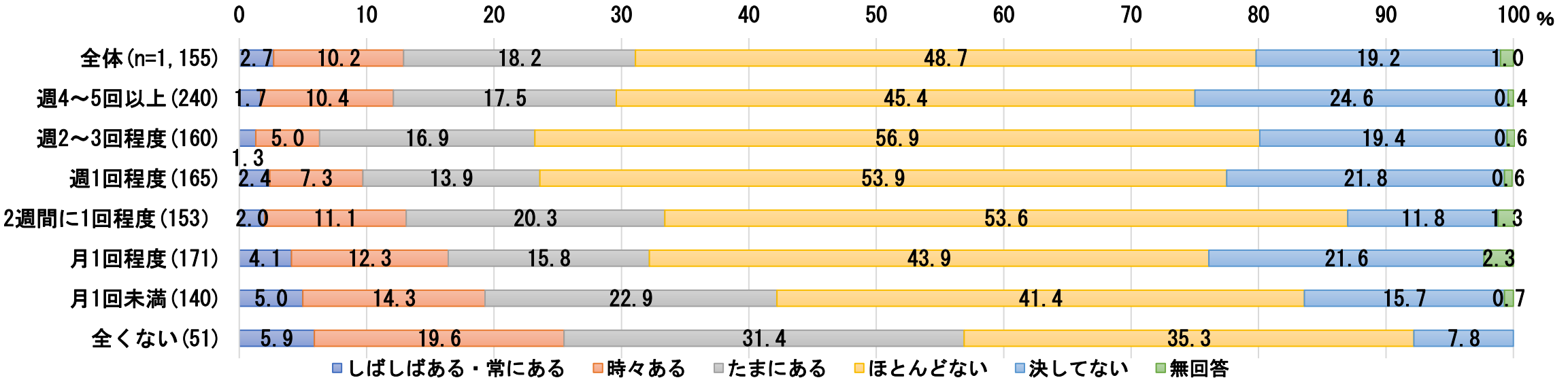




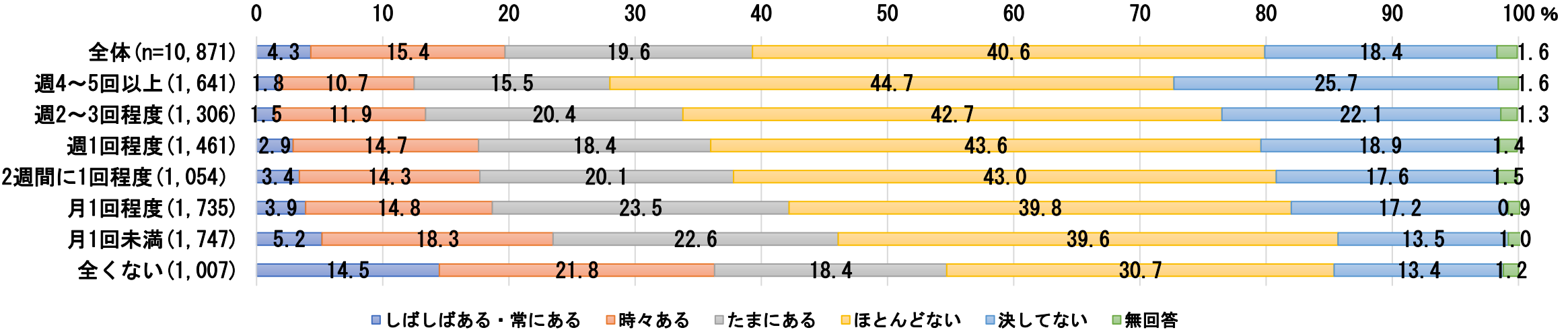
■ 「直接会って話す」頻度別孤独感

同居していない家族や友人たちと「直接会って話す」頻度別孤独感において、孤独感で「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「全くない」及び「月1回未満」で高くなっている。全国でも同様の傾向となっている。

山梨県



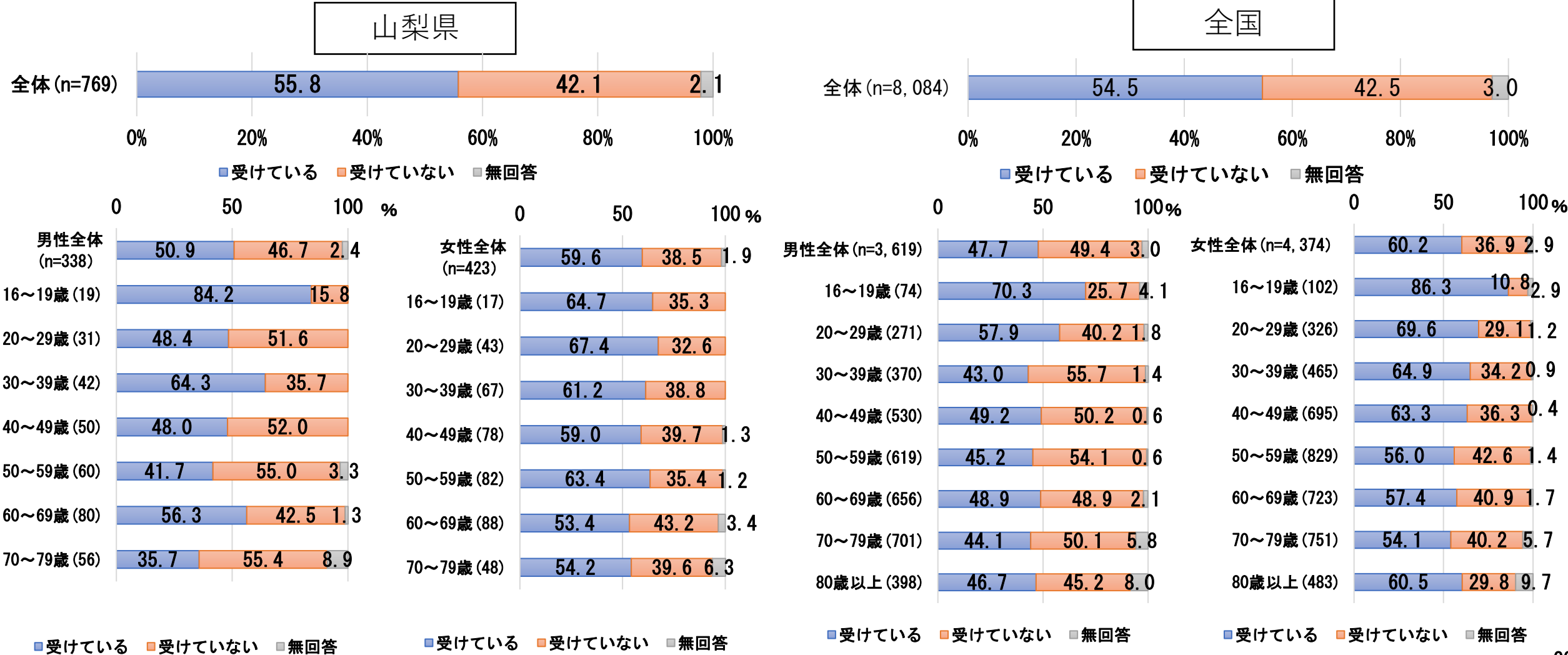
全国



II 結果の概要（県民調査）

■ 男女、年齢階級別不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況

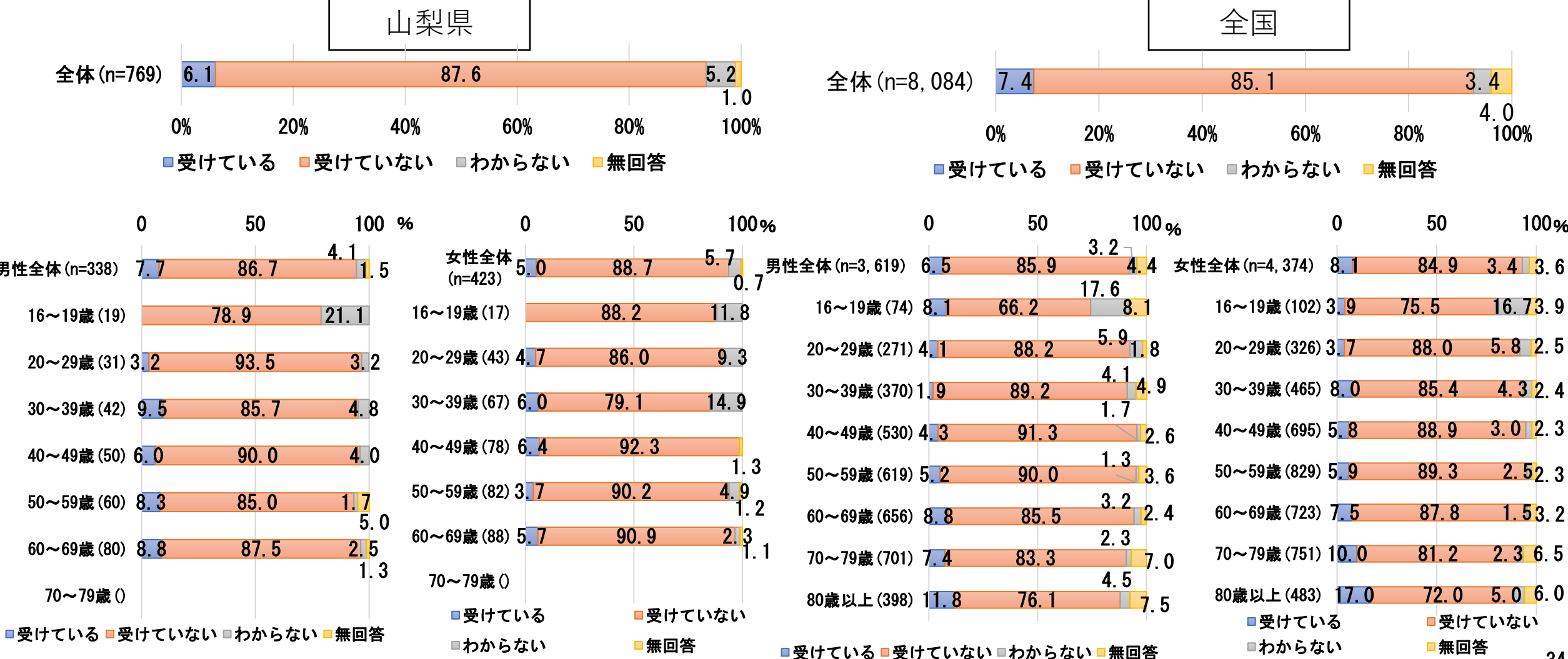
日常生活で感じている不安や悩みについて、家族・友人等からの手助けを「受けている」と回答した人の割合は55.8%、「受けていない」は42.1%となっている。手助けを「受けていない」と回答した人の割合は、男性が46.7%、女性が38.5%となっている。これを男女、年齢階級別にみると、男性では70代及び50代で、女性では60代で高くなっている。全国でも同様の傾向となっているが、男性では30代及び50代、女性では50代及び60代で高くなっている。





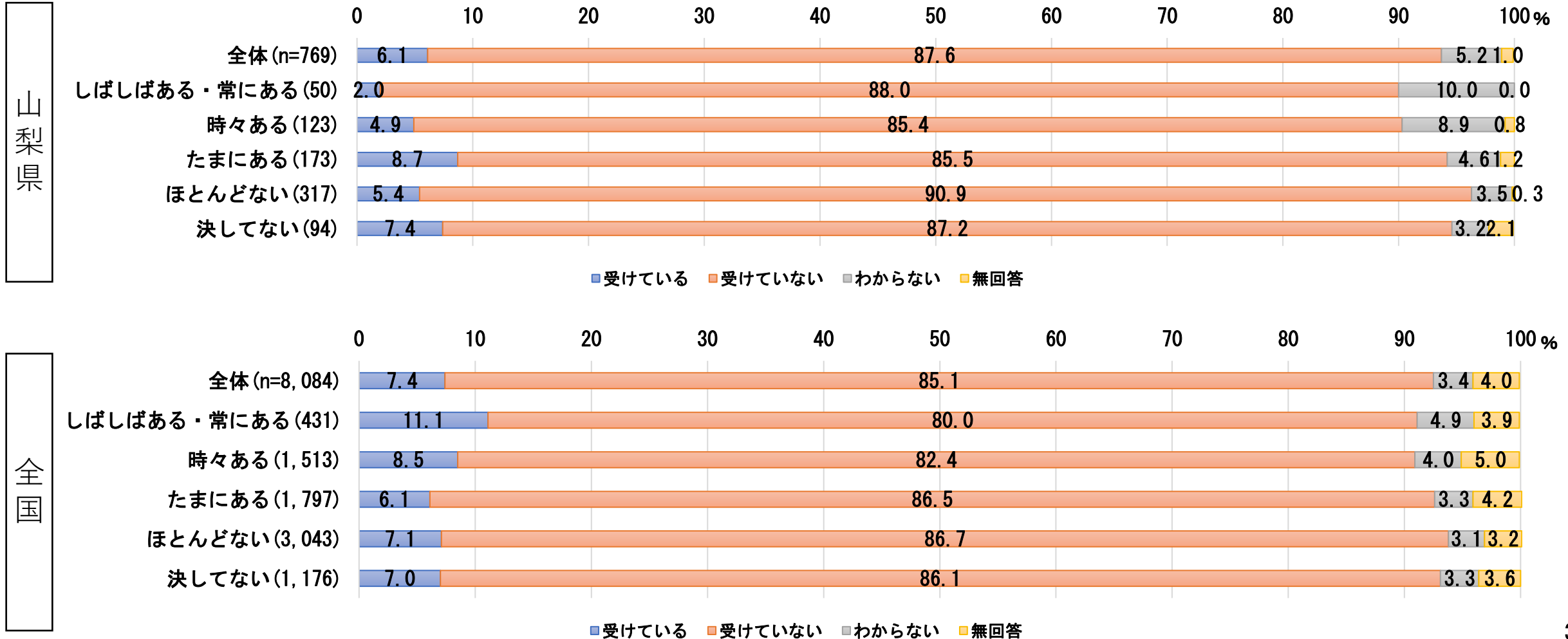
男女、年齢階級別不安や悩みに対する行政機関・NPO等からの支援の状況

行政機関やNPO等の民間団体から不安や悩みに対する支援を「受けている」と回答した人の割合は6.1%、「受けていない」は87.6%となっている。支援を「受けていない」と回答した人の割合は、男性が86.7%、女性が88.7%となっている。これを男女、年齢階級別みると、男性では20代及び40代、女性では60代及び50代で高くなっている。全国でも同様の傾向となっているが、男性、女性ともに40代及び50代で高くなっている。



■ 孤独感別不安や悩みに対する行政機関・NPO等からの支援の状況

不安や悩みを感じているが「ある」と回答した人のうち、行政機関やNPO等の民間団体からの支援を「受けていない」と回答した人の割合を孤独感別にみると、孤独感が「ほとんどない」及び「しばしばある・常にある」で高くなっている。全国では「ほとんどない」及び「たまにある」で高くなっている。

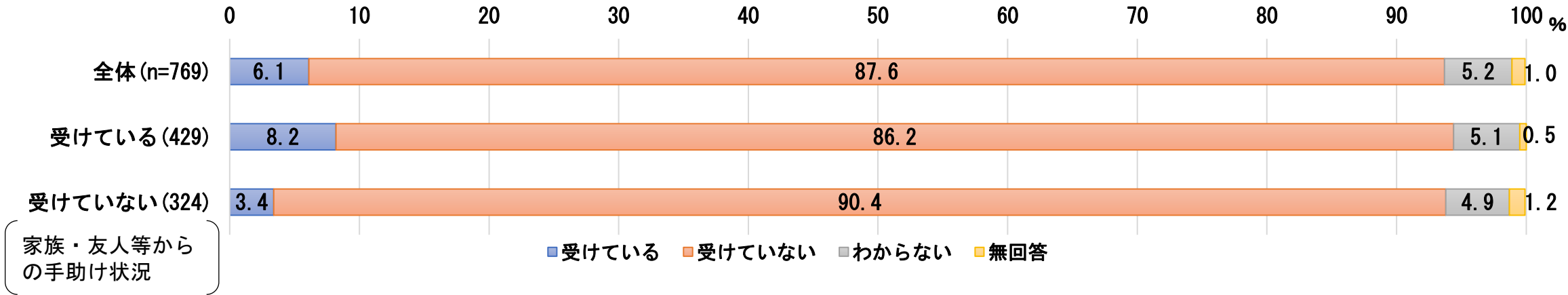




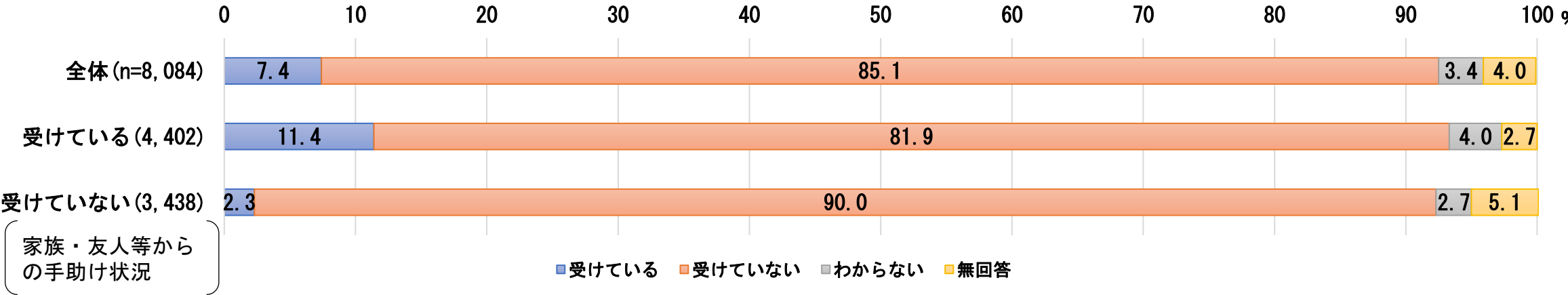
■ 不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別行政機関・NPO等からの支援の状況

行政機関やNPOの民間団体からの支援の状況を不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別にみると、支援を「受けている」と回答した人の割合は手出すけを「受けている」で8.2%、手助けを「受けていない」では3.4%となっている。全国でも同様の傾向となっている。

山梨県



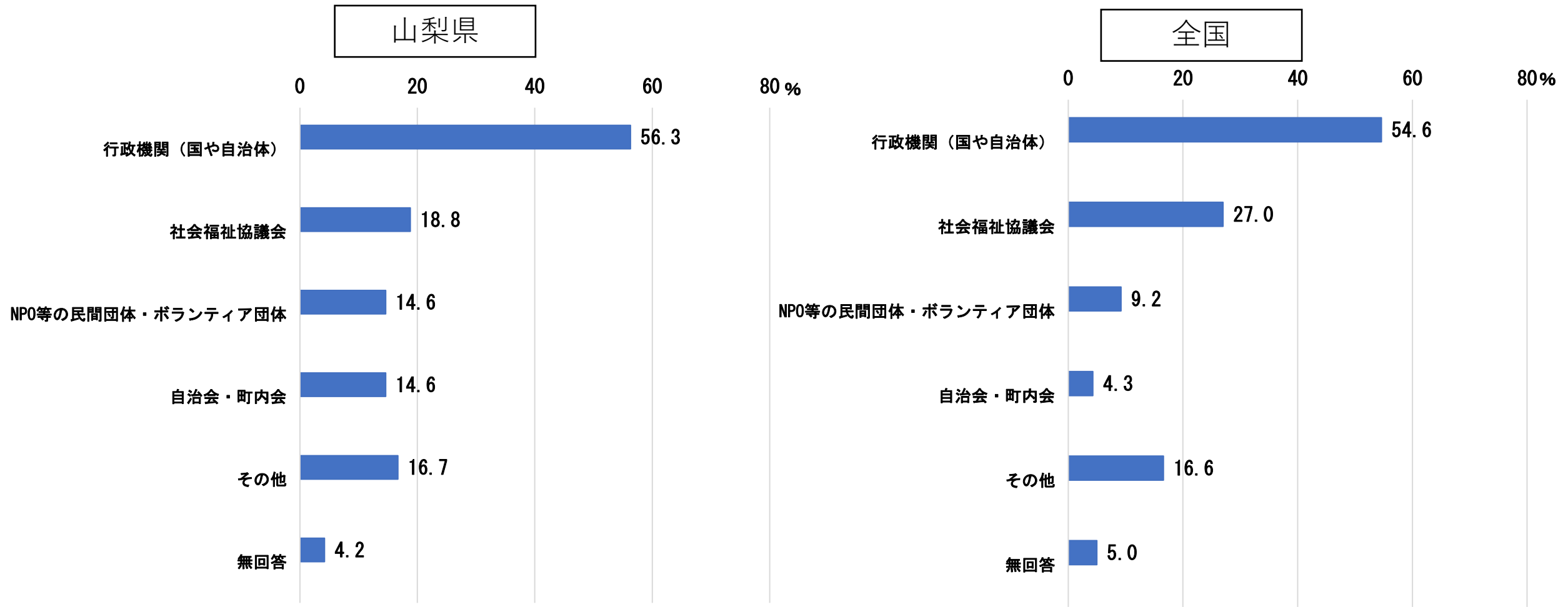
全国





■ 不安や悩みがある人のうち行政機関・NPO等からの支援を受けている人の支援者（複数回答）

行政機関やNPO等の民間団体からの支援を「受けている」と回答した人に対し、その支援者を尋ねたところ、「行政機関（国や自治体）」と回答した割合が56.3%と最も高く、次いで「社会福祉協議会」（18.8%）などとなっている。全国でも同様の傾向となっている。



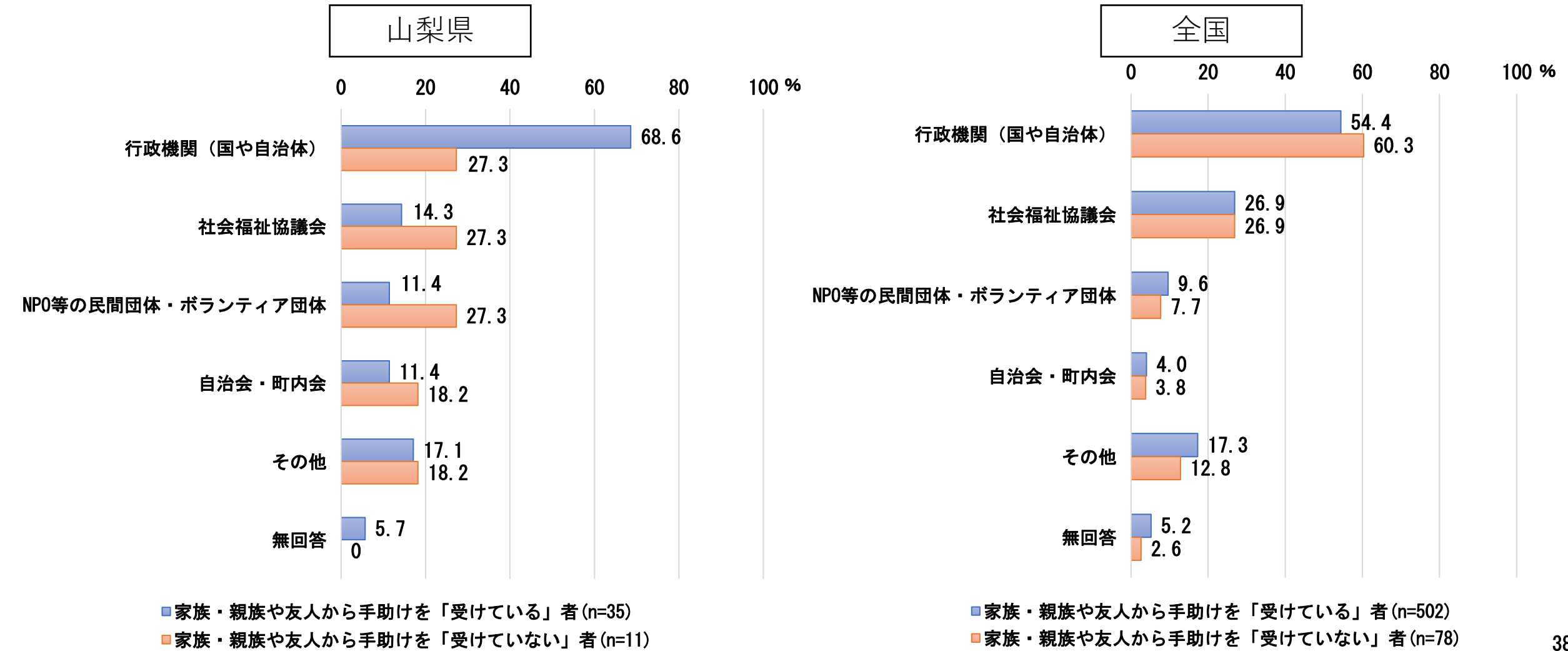
■ 不安や悩みがある人のうち、行政機関・NPO等から支援を「受けている」者 (n=48)

■ 不安や悩みがある人のうち、行政機関・NPO等から支援を「受けている」者 (n=601)



■ 不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別 支援を受けている人の支援者（複数回答）

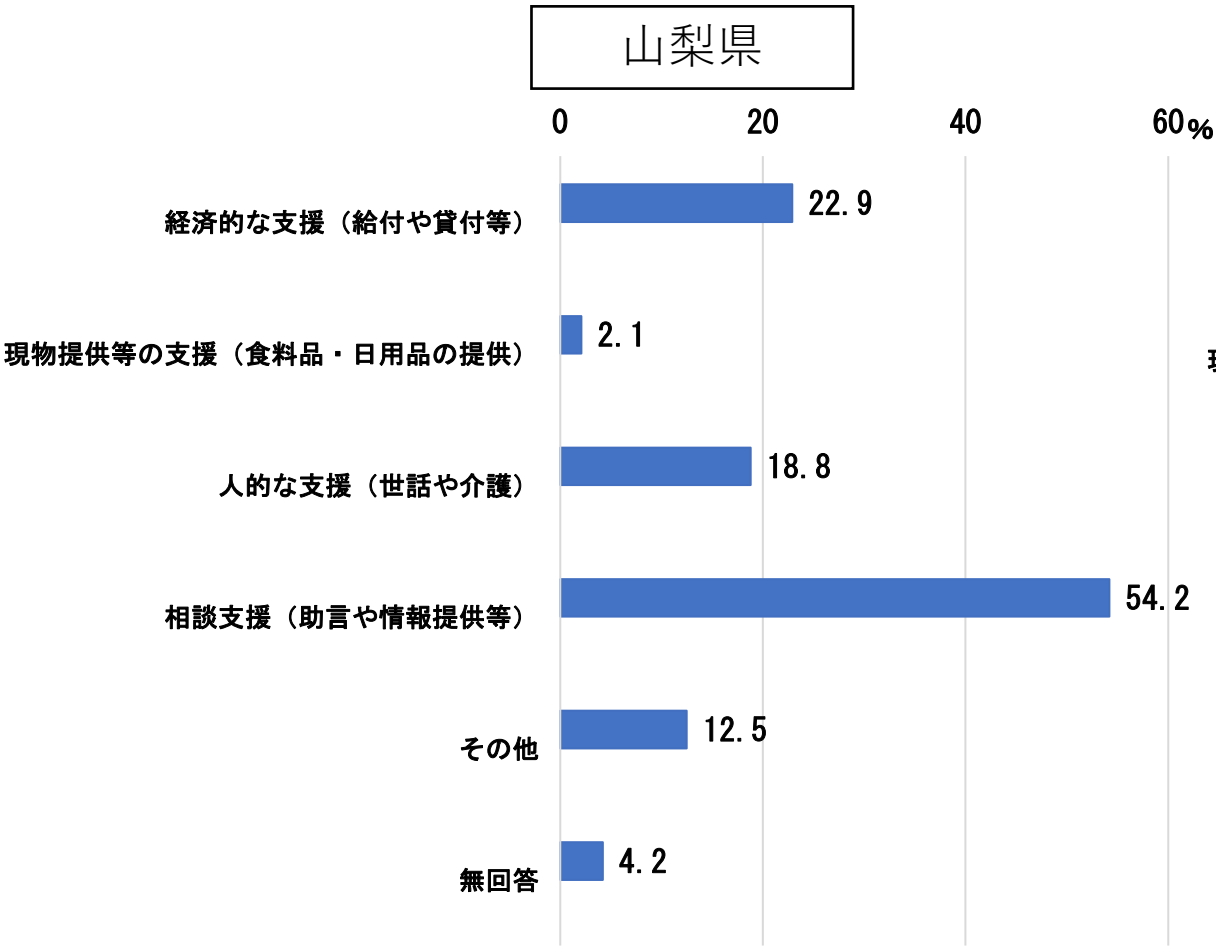
支援を「受けている」と回答した人に対しその支援者を尋ねたところ、手助けを「受けている」とした人は「行政機関」が高く、手助けを「受けていない」とした人は「行政機関」、「社会福祉協議会」及び「NPO等の民間団体・ボランティア団体」が高くなっている。全国では手助けを「受けている」、「受けていない」とともに「行政機関」及び「社会福祉協議会」が高くなっている。



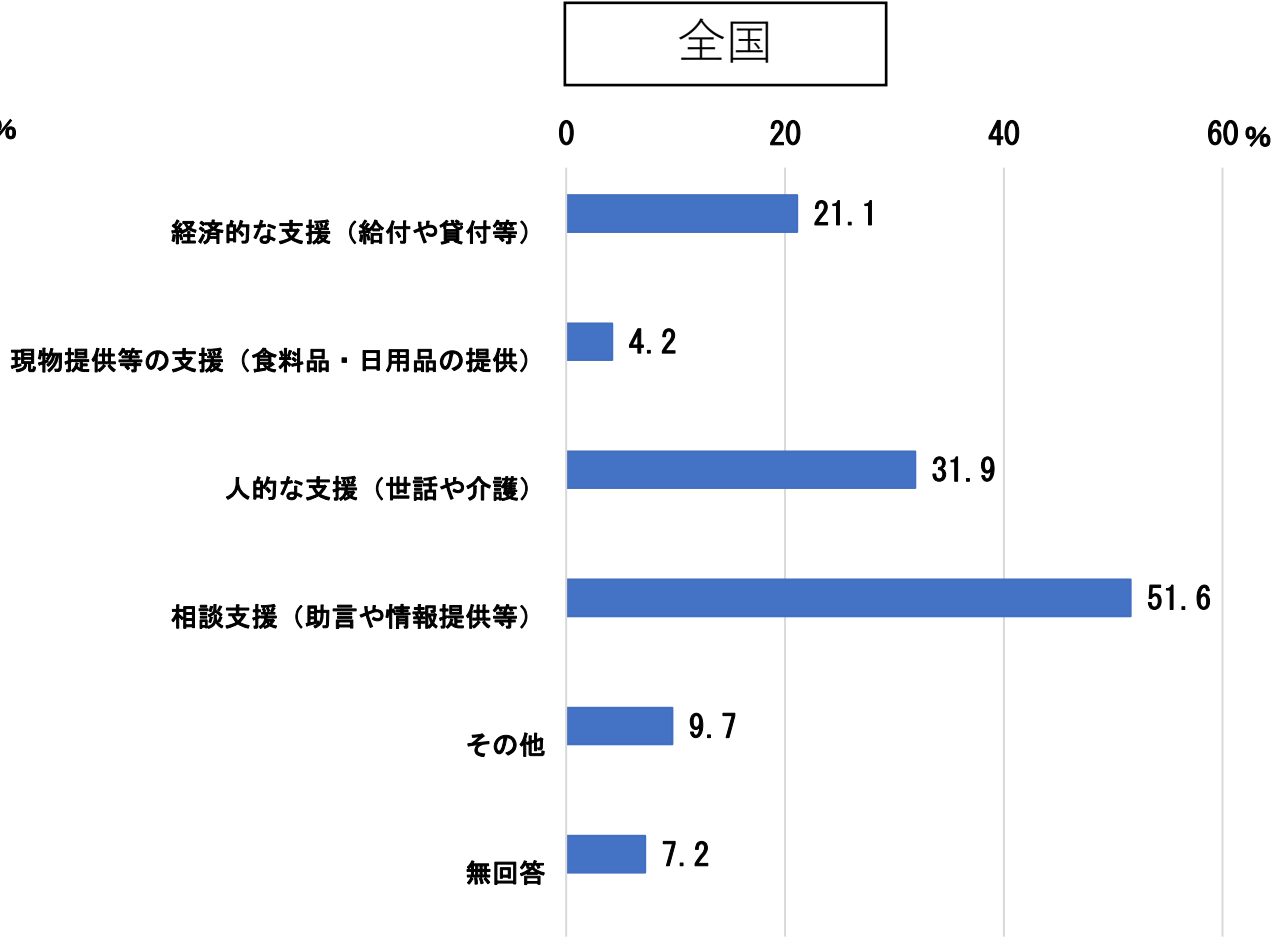


■ 不安や悩みがある人のうち行政機関・NPO等からの支援を受けている内容（複数回答）

行政機関やNPO等の民間団体からの支援を「受けている」と回答した人に対し、その支援内容を尋ねたところ、「相談支援（助言や情報提供）」と回答した割合が54.2%と最も高く、次いで「経済的な支援（給付や貸付等）」（22.9%）などとなっている。全国でも同様の傾向となっているが、「人的な支援（世話や介護）」の割合が高くなっている。



■ 不安や悩みがある人のうち、行政機関・NPO等から支援を「受けている」者 (n=48)

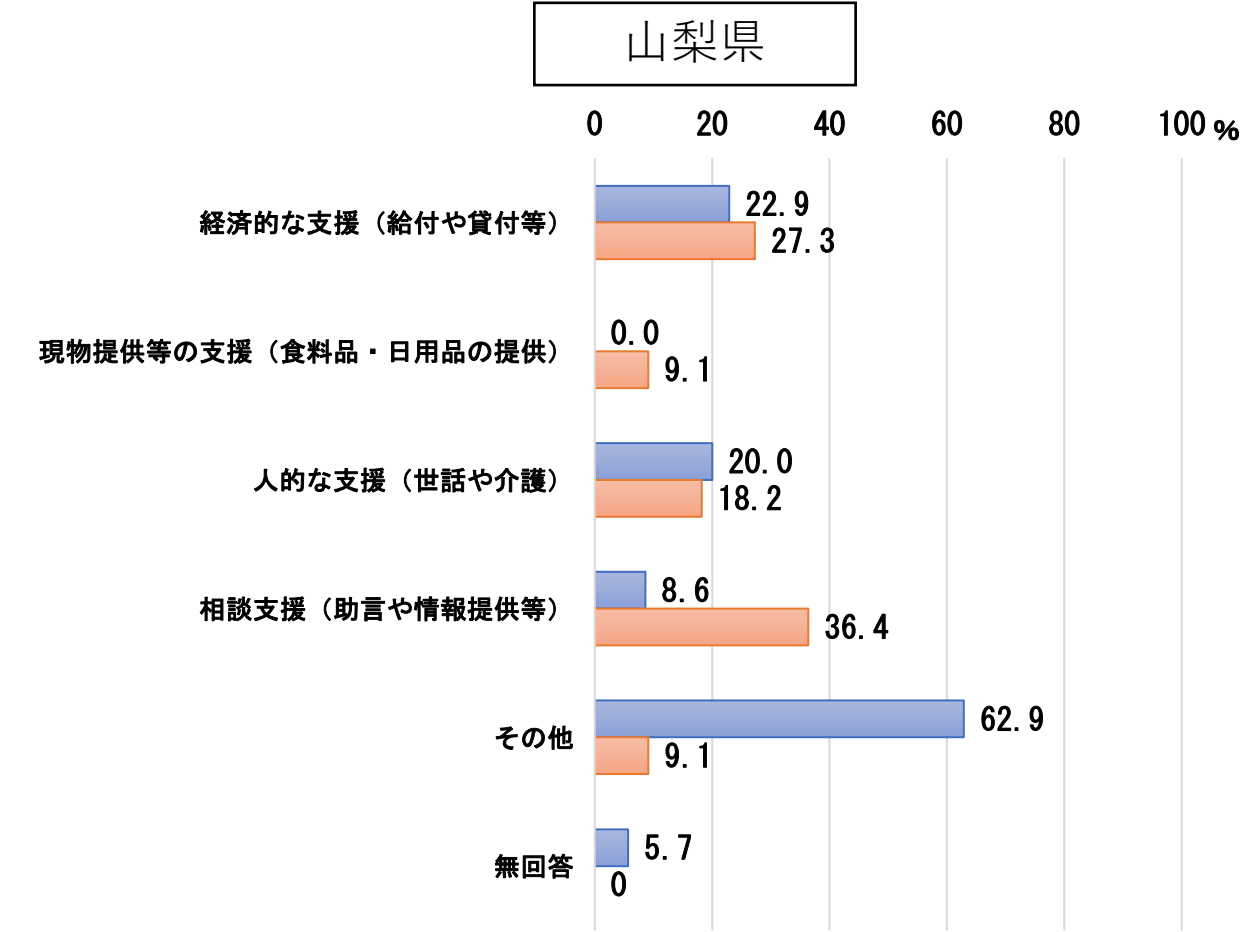


■ 不安や悩みがある人のうち、行政機関・NPO等から支援を「受けている」者 (n=601)

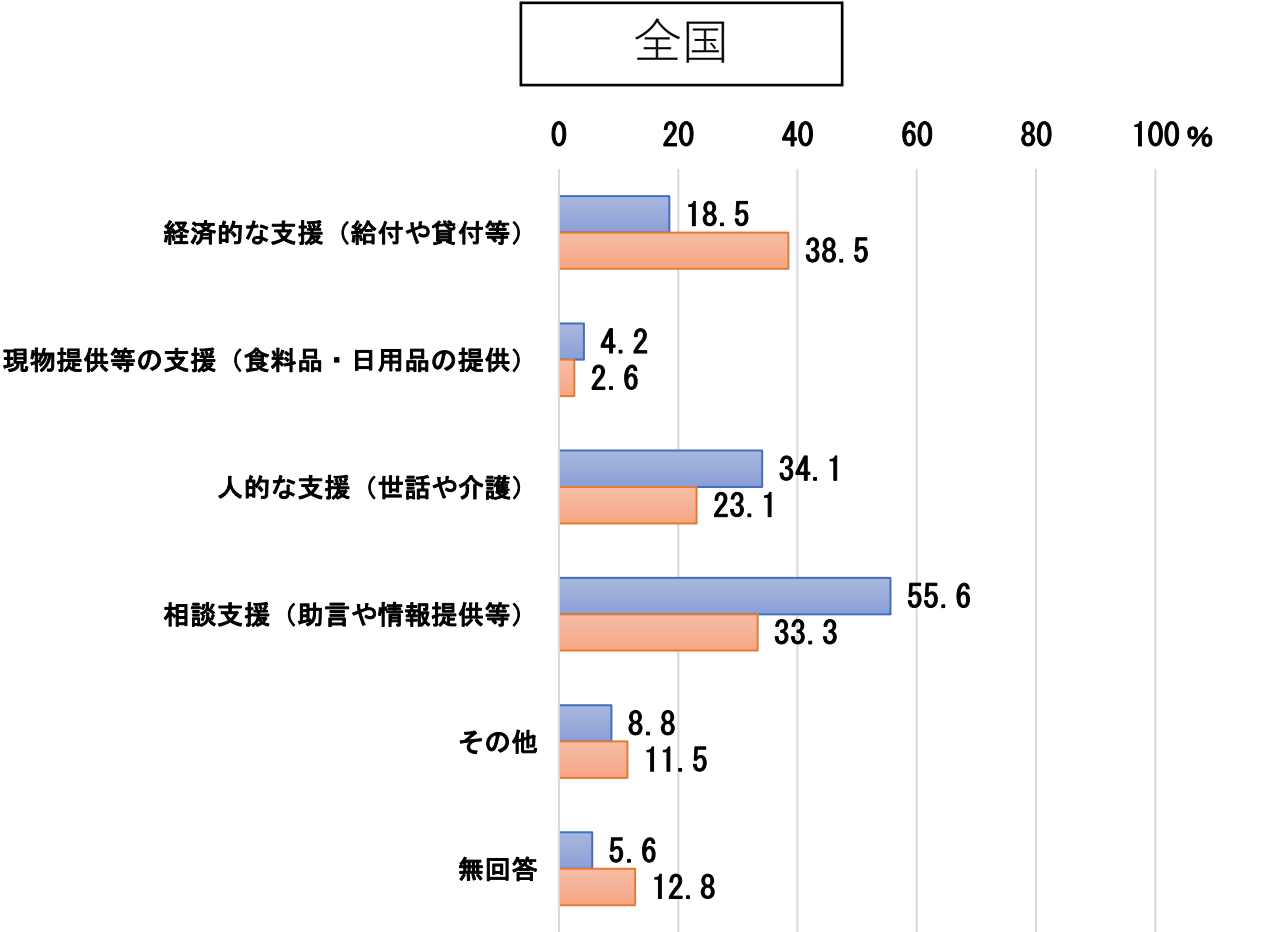


■ 不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別 行政機関・NPO等支援内容（複数回答）

支援を「受けている」と回答した人に対しその支援内容を尋ねたところ、手助けを「受けている」とした人は「その他」を除くと「経済的な支援」が最も高く、手助けを「受けていない」とした人は「相談支援」が最も高くなっている。全国では手助けを「受けている」とした人は「相談支援」が最も高く、手助けを「受けていない」とした人は「経済的な支援」が最も高くなっている。



■ 家族・親族や友人から手助けを「受けている」者 (n=35)
■ 家族・親族や友人から手助けを「受けていない」者 (n=11)

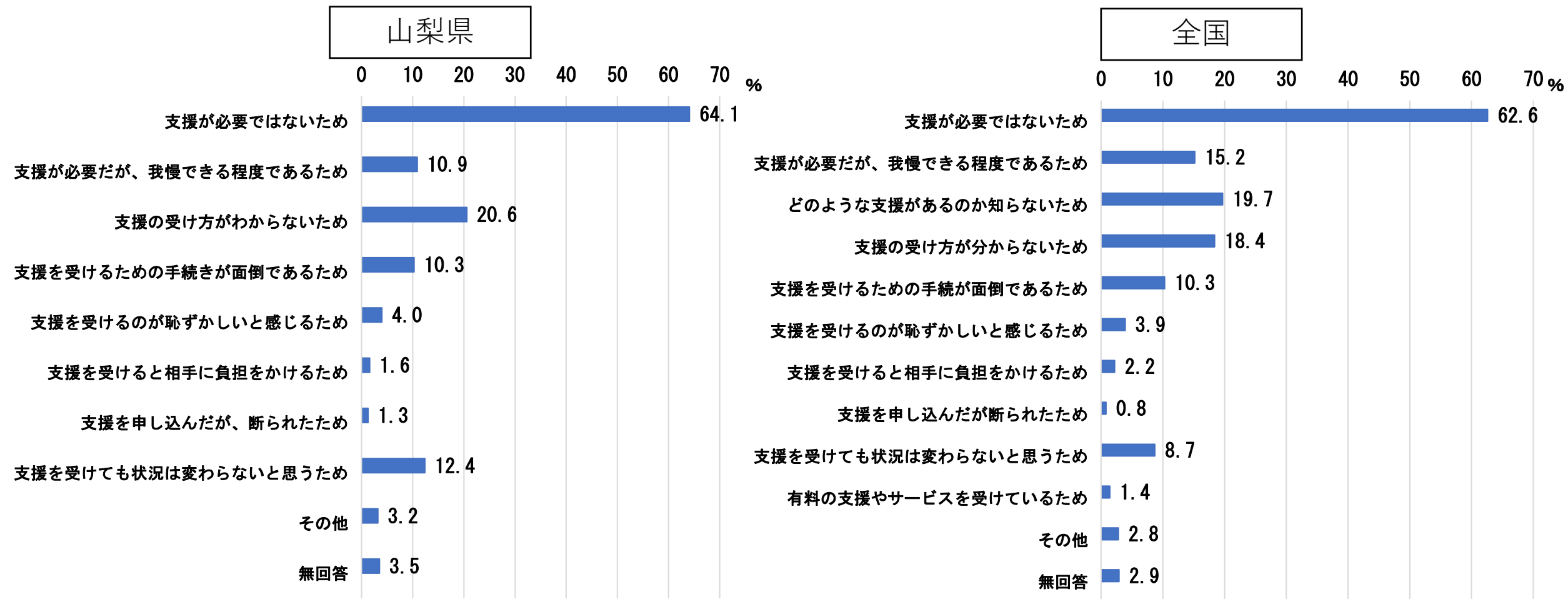


■ 家族・親族や友人から手助けを「受けている」者 (n=502)
■ 家族・親族や友人から手助けを「受けていない」者 (n=78)



不安や悩みがある人のうち行政機関・NPO等からの支援を受けていない理由（複数回答）

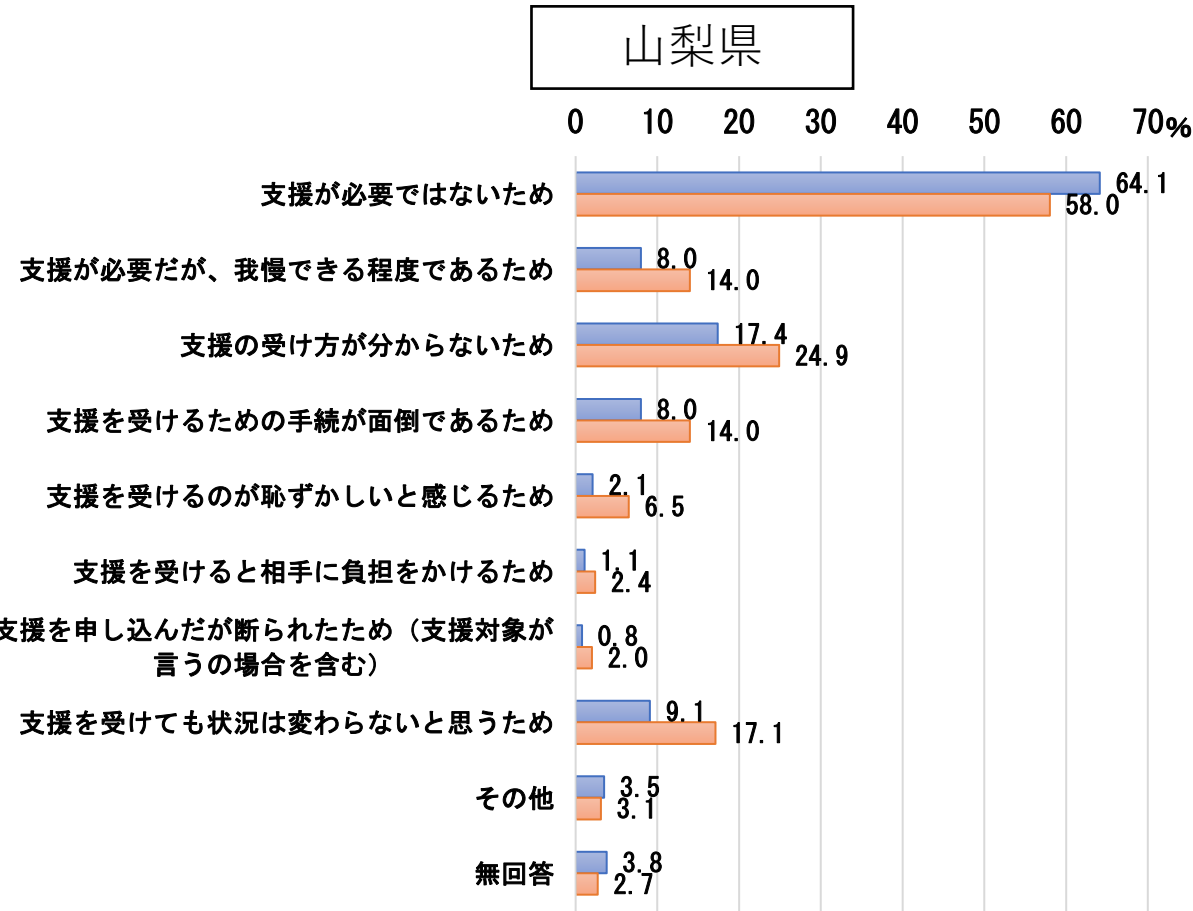
行政機関やNPO等の民間団体からの支援を「受けていない」と回答した人に対し、その理由を尋ねたところ、「支援が必要でないため」と回答した割合が64.1%と最も高く、次いで「支援の受け方がわからないため」（20.6%）などとなっている。全国でも同様の傾向となっている。



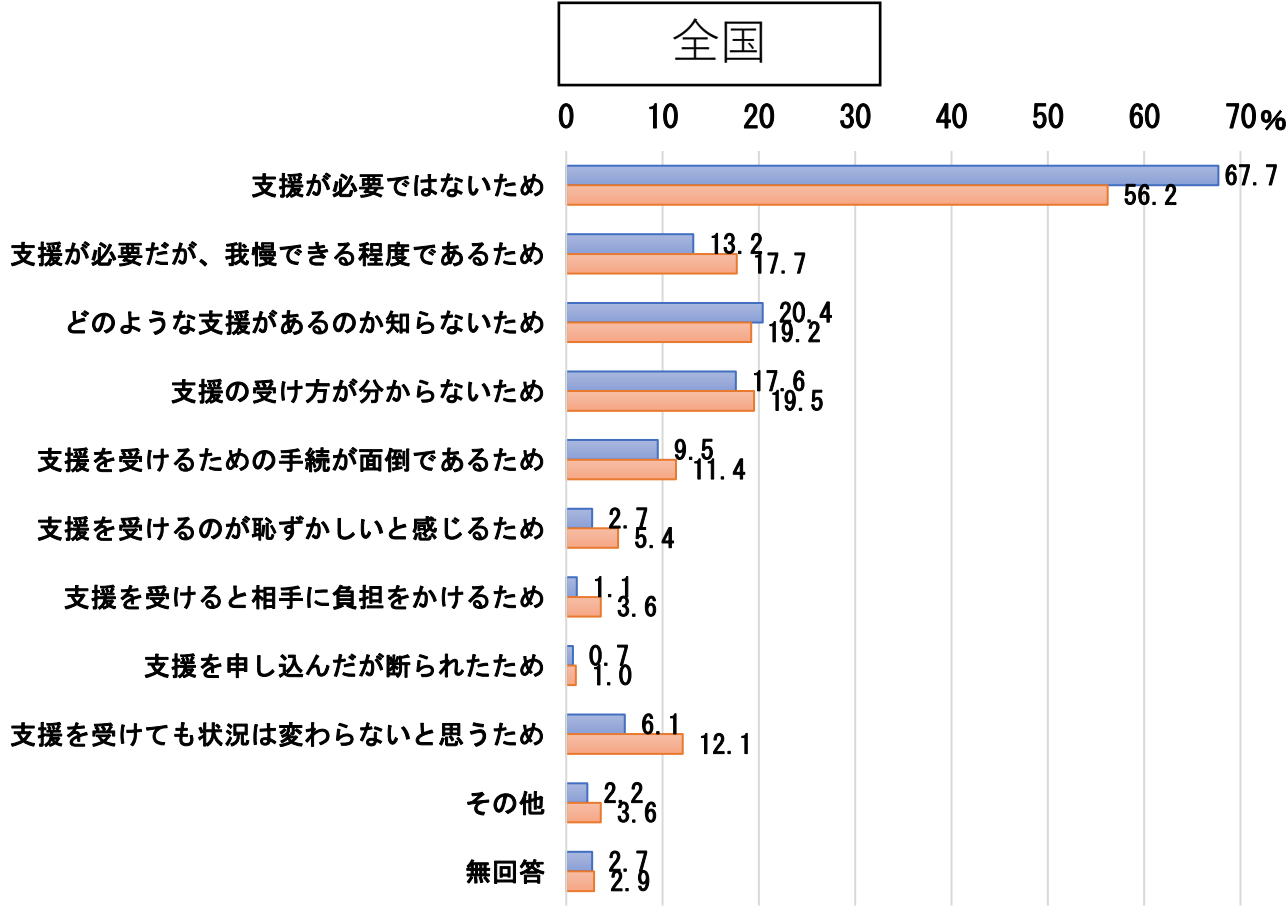


■ 不安や悩みに対する家族・友人等からの手助け状況別 行政機関・NPO等の支援を受けていない理由(複数回答)

支援を「受けていない」と回答した人に対しその理由を尋ねたところ、手助けを「受けている」「受けていない」ともに「支援が必要ではない」が最も高く、次いで「支援の受け方がわからない」が高くなっている。全国でも同様の傾向となっている。



■ 家族・親族や友人から手助けを「受けている」者 (n=370)
■ 家族・親族や友人から手助けを「受けていない」者 (n=293)

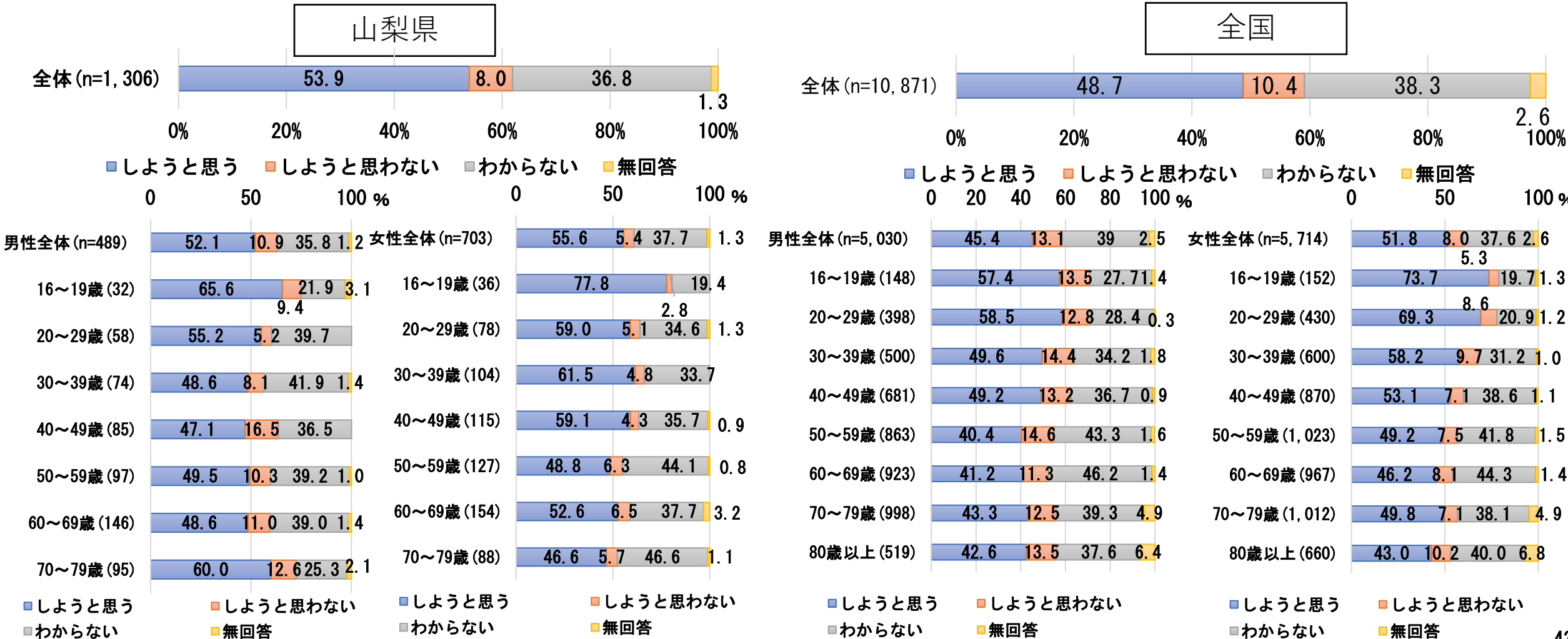


■ 家族・親族や友人から手助けを「受けている」者 (n=3,605)
■ 家族・親族や友人から手助けを「受けていない」者 (n=3,094)

II 結果の概要（県民調査）

■ 男女、年齢階級別他者へのサポート意識

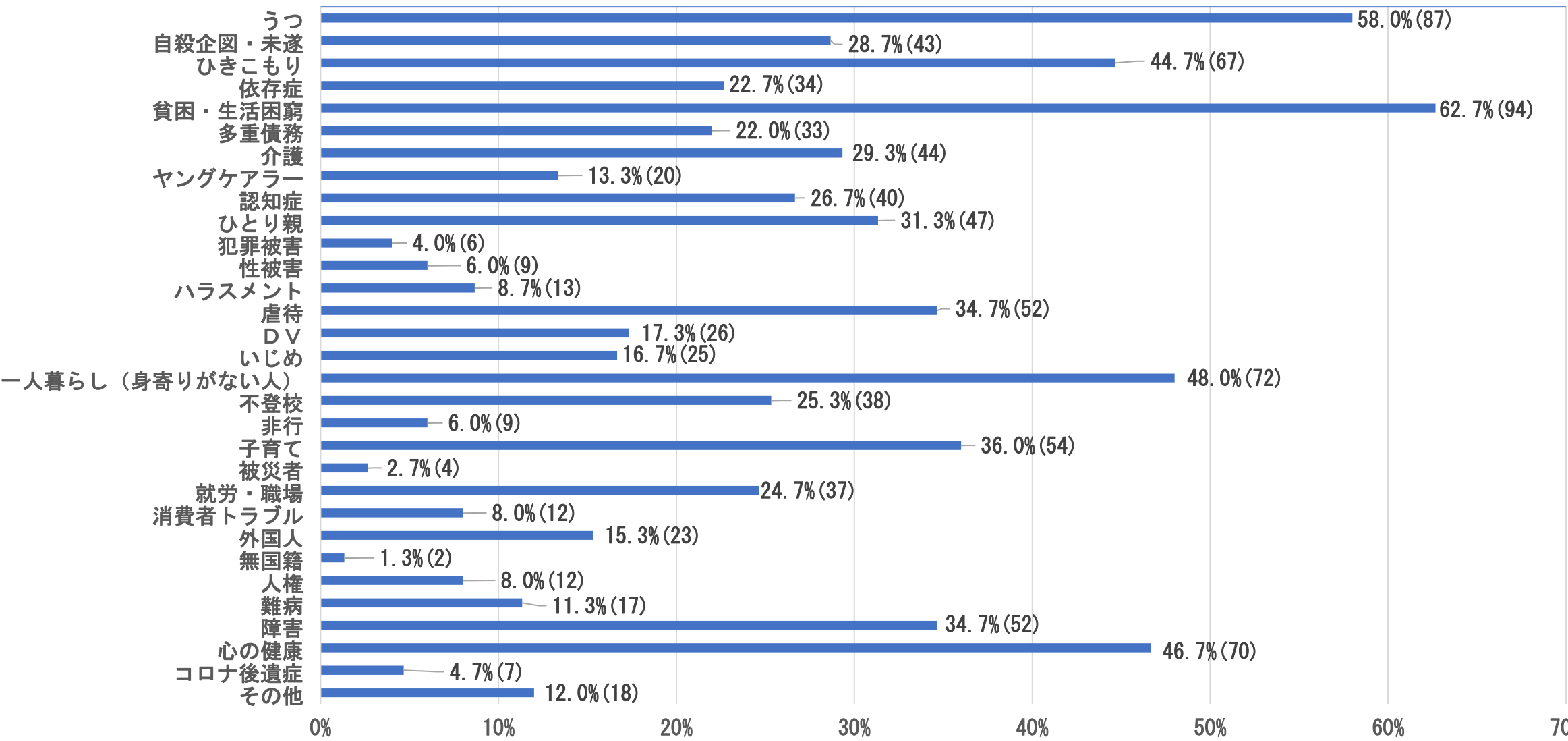
他者への手助けを「しようと思う」と回答した人の割合は53.9%（男性52.1%、女性55.6%）、「しようと思わない」は8.0%、「わからない」は36.8%となっている。手助けを「しようと思う」と回答した人を男女、年齢階級別にみると、男性では10代及び70代で、女性では10代及び30代で高くなっている。全国でも同様の傾向となっているが、男性、女性ともに10代及び20代で高くなっている。





■ 孤独・孤立状態にあるケースについて、当事者が抱えている課題（複数回答）

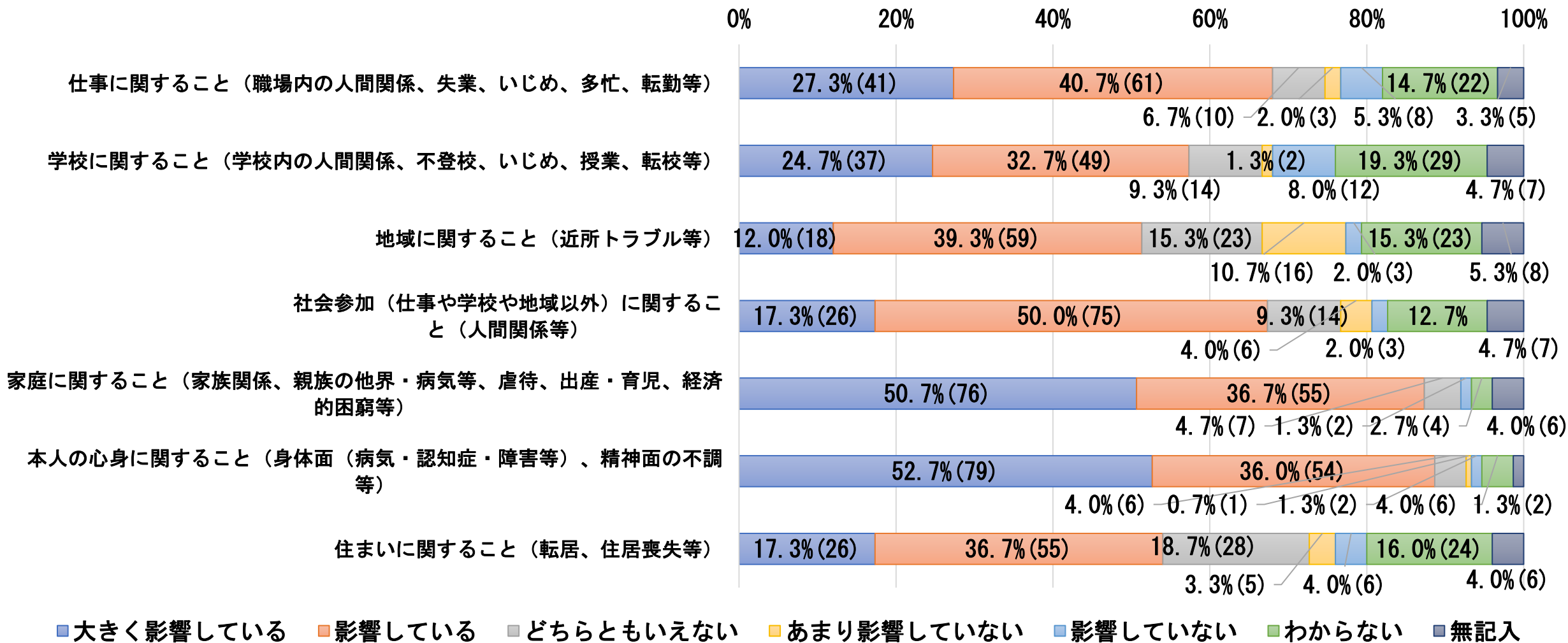
「貧困・生活困窮」（62.7%）が最も高く、次いで「うつ」（58.0%）、「一人暮らし」（48.0%）などとなっている。



Ⅱ 結果の概要（支援団体調査）

■ 孤独・孤立状態に陥るきっかけとを感じるもの（複数回答）

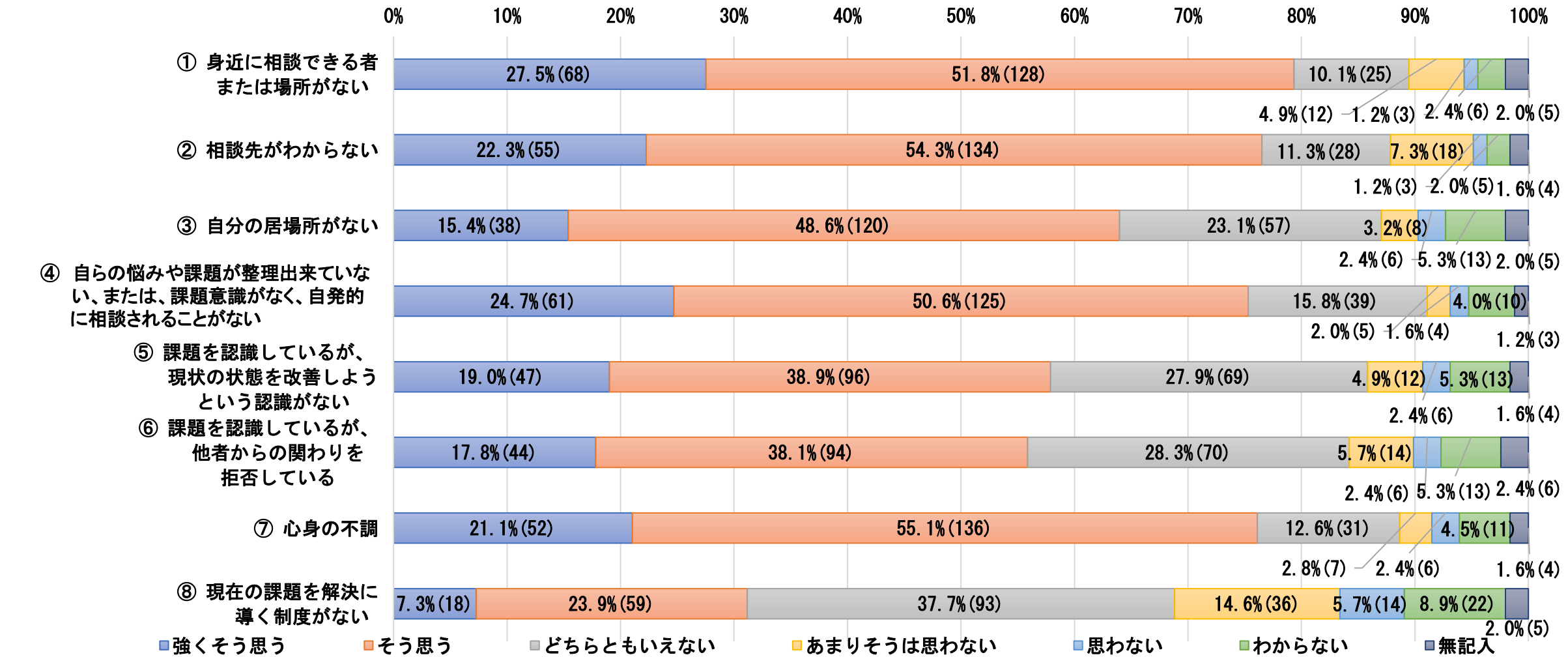
「大きく影響している」と回答した割合は、「本人の心身に関すること」（52.7%）及び「家庭に関すること」（50.7%）で高くなっている。



Ⅱ 結果の概要（支援団体調査）

■ 孤独・孤立状態の当事者の抱える悩みや課題が解決しない要因（複数回答）

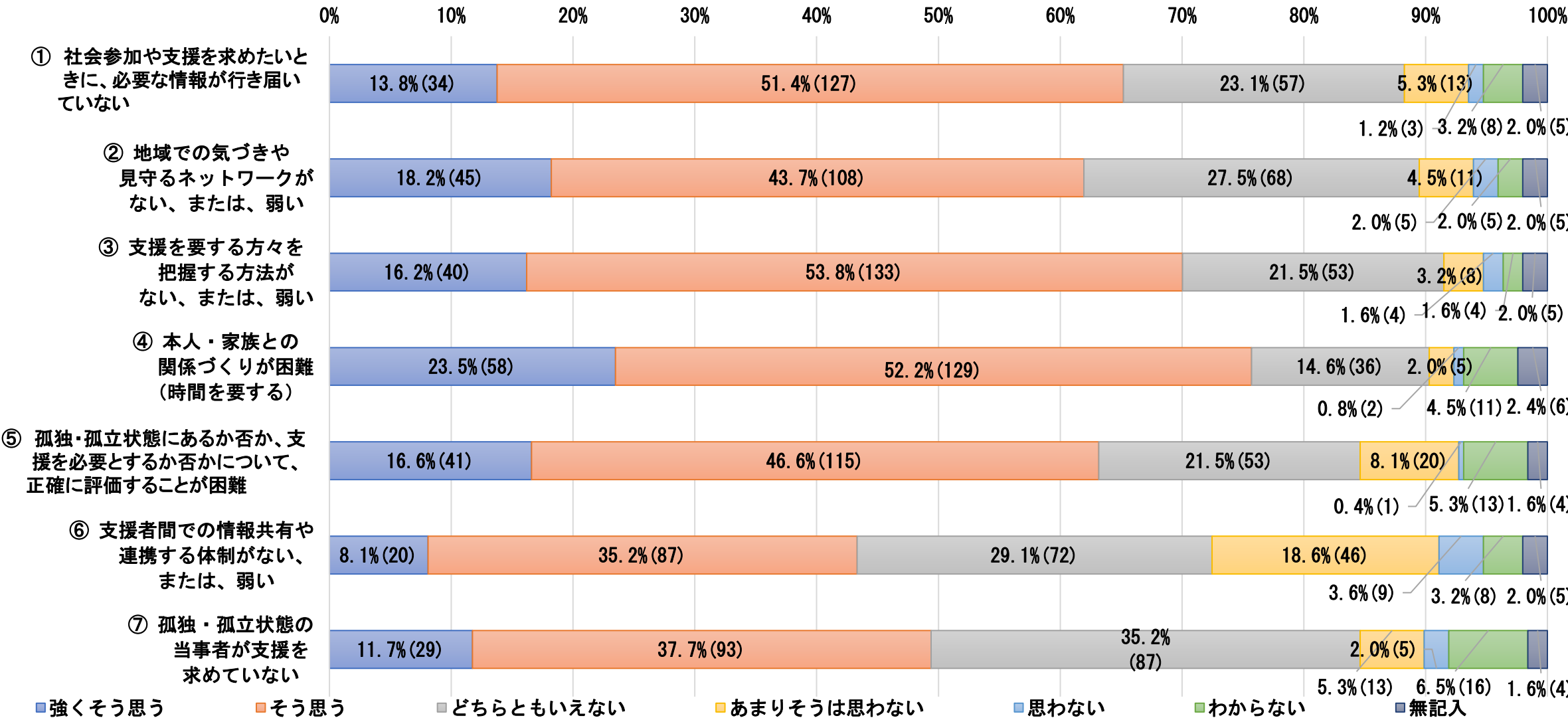
「強くそう思う」と回答した割合は、「身近に相談できる者または場所がない」（27.5%）及び「自らの悩みや課題が整理できていない、または、課題認識がなく、自発的に相談されることがない」（24.7%）などで高くなっている。





■ 孤独・孤立状態の当事者を把握することが難しい要因（複数回答）

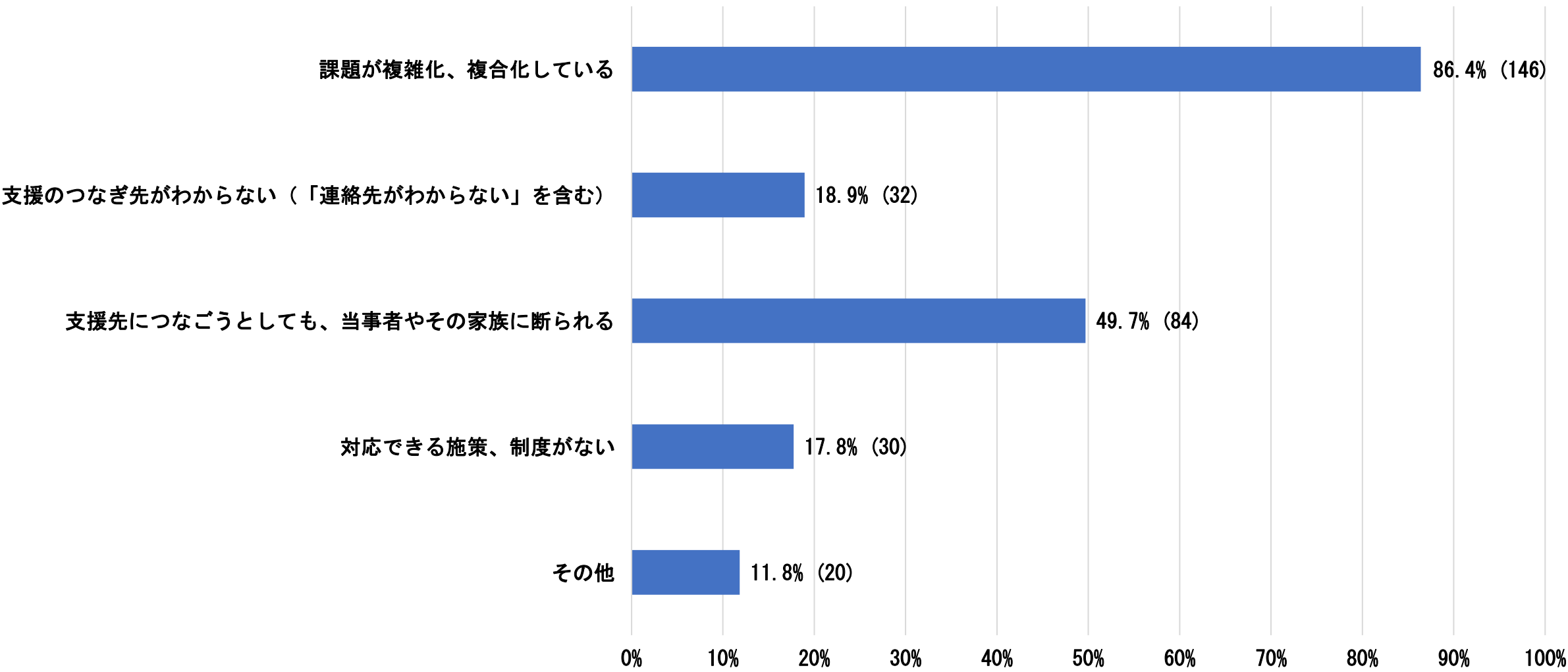
「強くそう思う」と回答した割合は、「本人・家族との関係づくりが困難」（23.5%）及び「地域での気づきや見守るネットワークがない、または、弱い」（18.2%）などで高くなっている。



Ⅱ 結果の概要（支援団体調査）

■ 当事者やその家族への対応でどのようなことに苦慮しているか（複数回答）

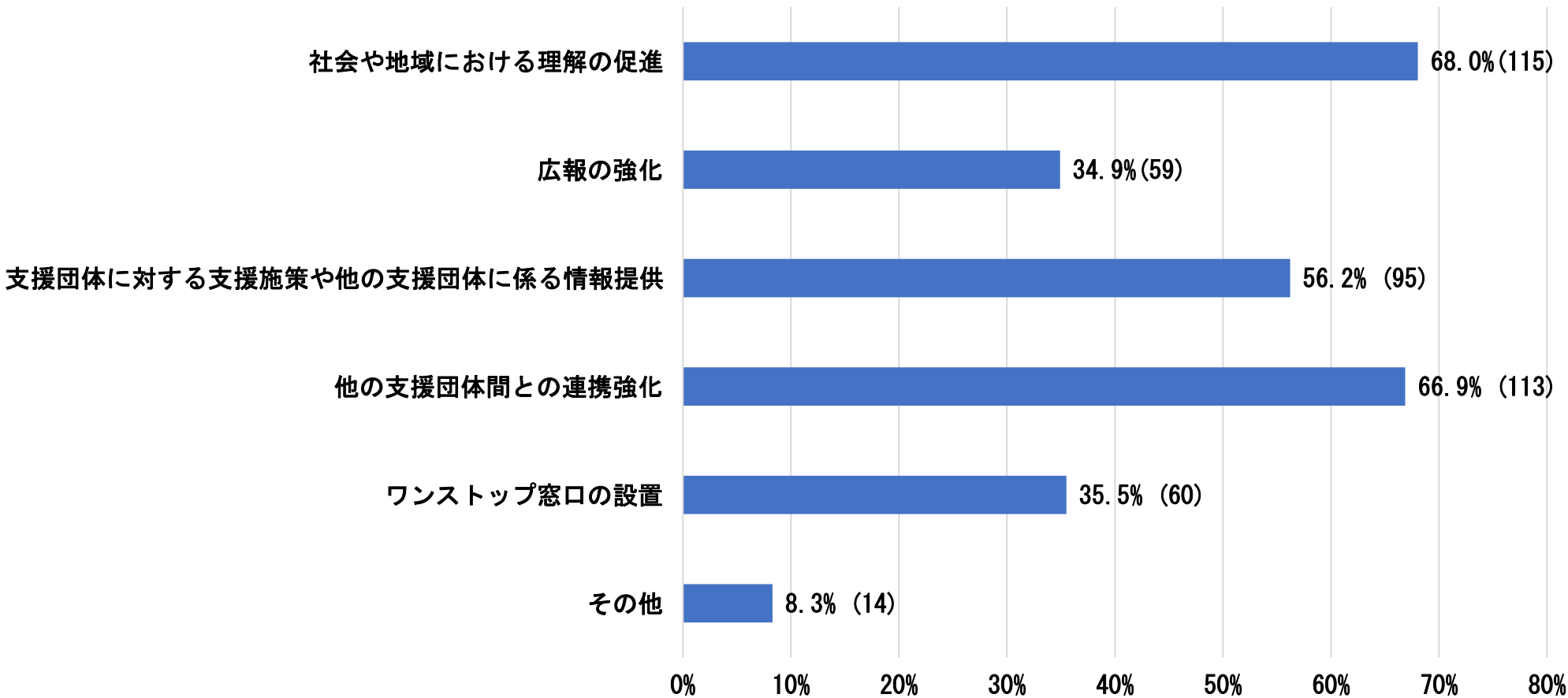
「課題が複雑化、複合化している」（86.4%）が最も高く、次いで「支援先につなごうとしても、当事者やその家族に断られる」（49.7%）で高くなっている。



Ⅱ 結果の概要（支援団体調査）

■ 当事者やその家族への対応に対する困りごとの改善に向けて必要と思う（求めたい）ことは何か（複数回答）

「社会や地域における理解の促進」（68.0%）が最も高く、「他の支援団体間との連携強化」（66.9%）などで高くなっている。



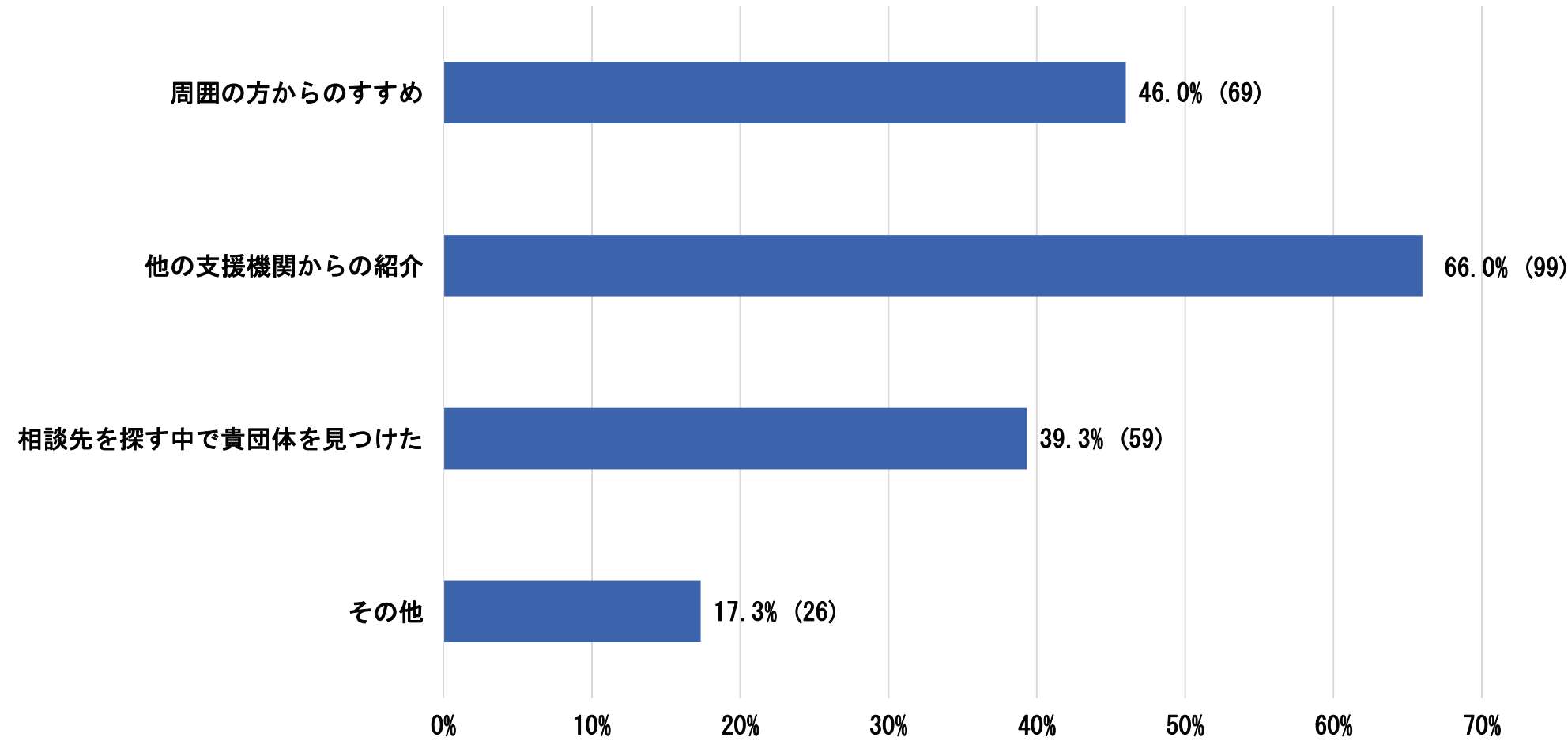
■ 孤独や孤立状態にある方にどのような支援が必要か（自由記述）（抜粋）

- ・自治体単独ではなく広域による相談支援体制の構築
- ・同じ境遇にある人たちとの語り合い、仲間づくりなど相談できる場所や、同じような悩み・境遇の方同士が気軽に話ができる場所の提供
- ・民生委員等、地域のネットワークに関与する方々との交流促進、日常生活の中での見守り
- ・当事者やその家族だけでなく、悩みを持っていない一般の方に広く認知、理解してもらう活動
- ・民生委員や地域包括支援センター、コミュニティソーシャルワーカーによる見守り、訪問
- ・孤立や孤立状態にある方がいると思ったら、市町村の相談窓口・民生委員などに伝える（気になる人をそのままにしないという考え方の広まり）



■ 団体につながったきっかけ（複数回答）

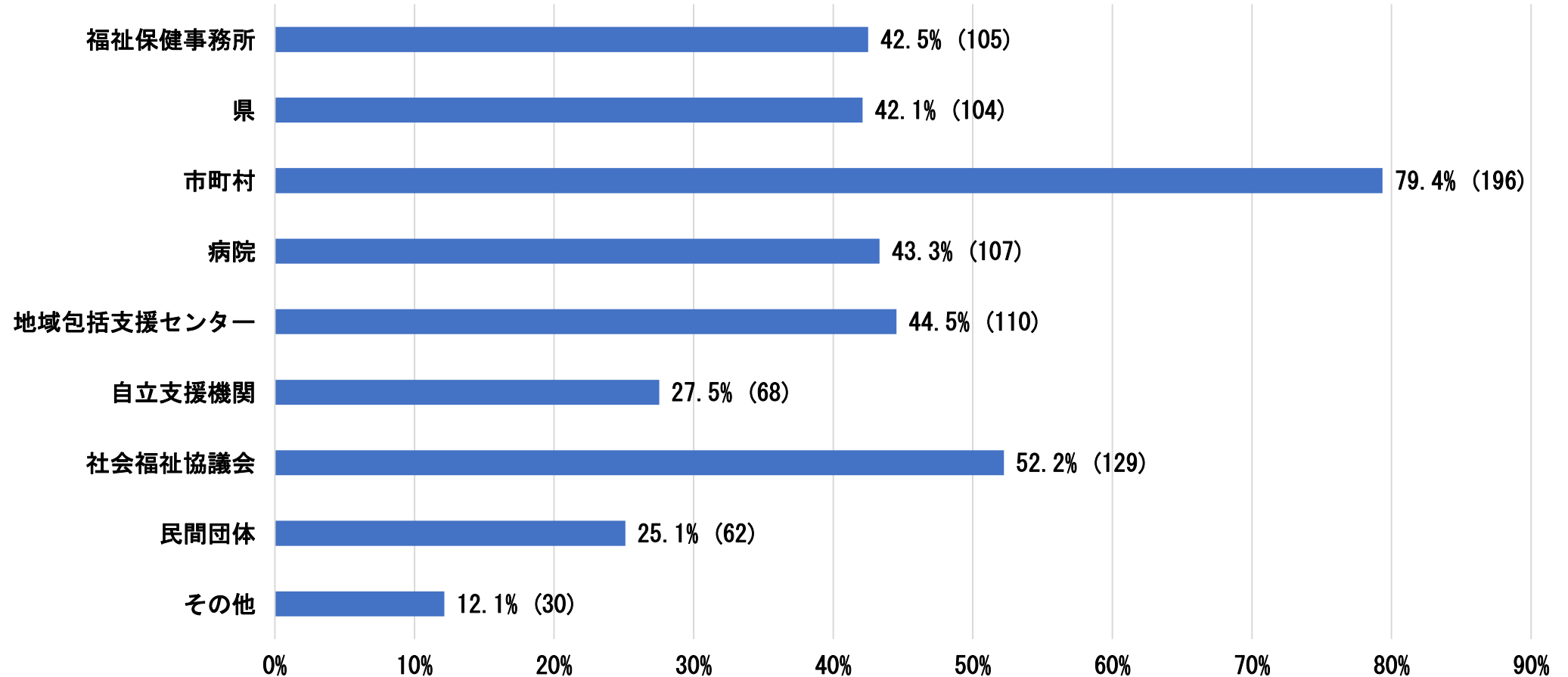
「他の支援機関からの紹介」（66.0%）で高くなっている。



Ⅱ 結果の概要（支援団体調査）

■ 現在連携している団体（複数回答）

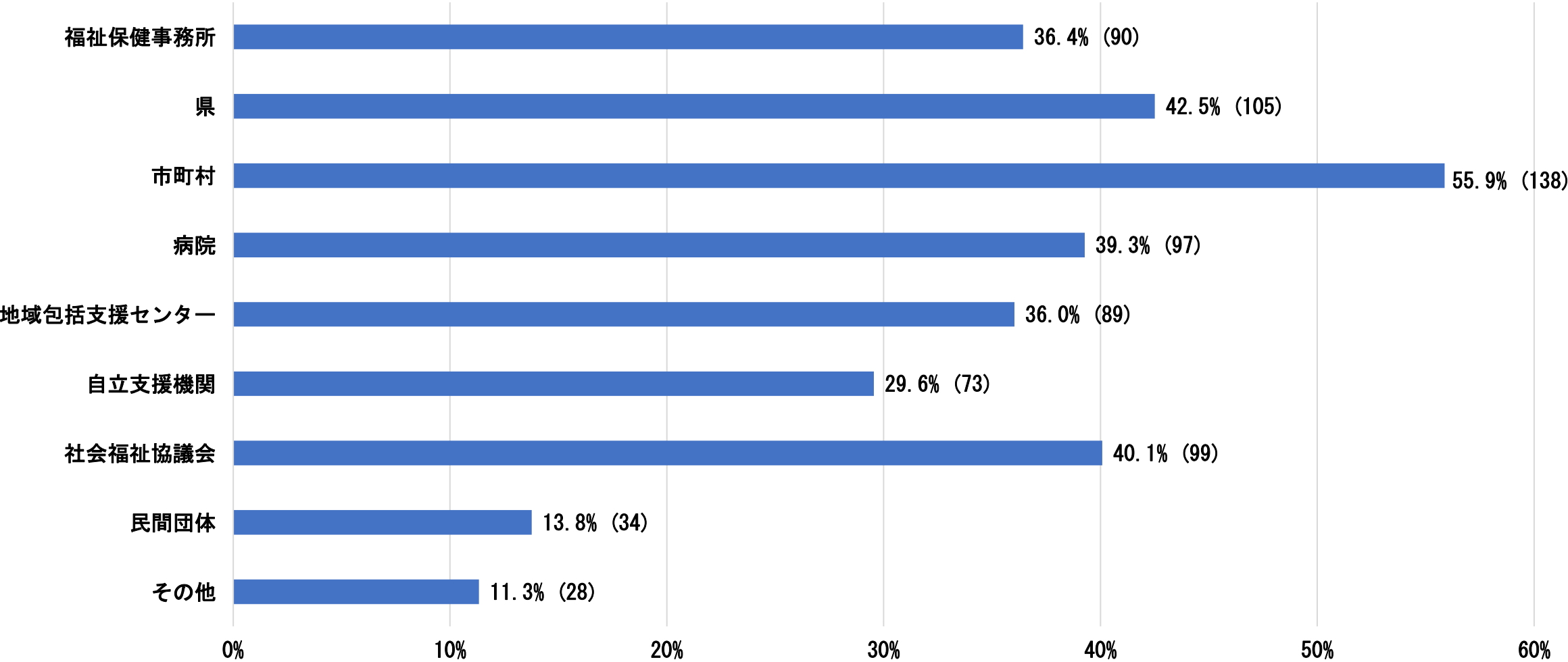
「市町村」が79.4%で最も高く、次いで「社会福祉協議会」で52.2%などとなっている。





■ 今後連携を希望する団体（複数回答）

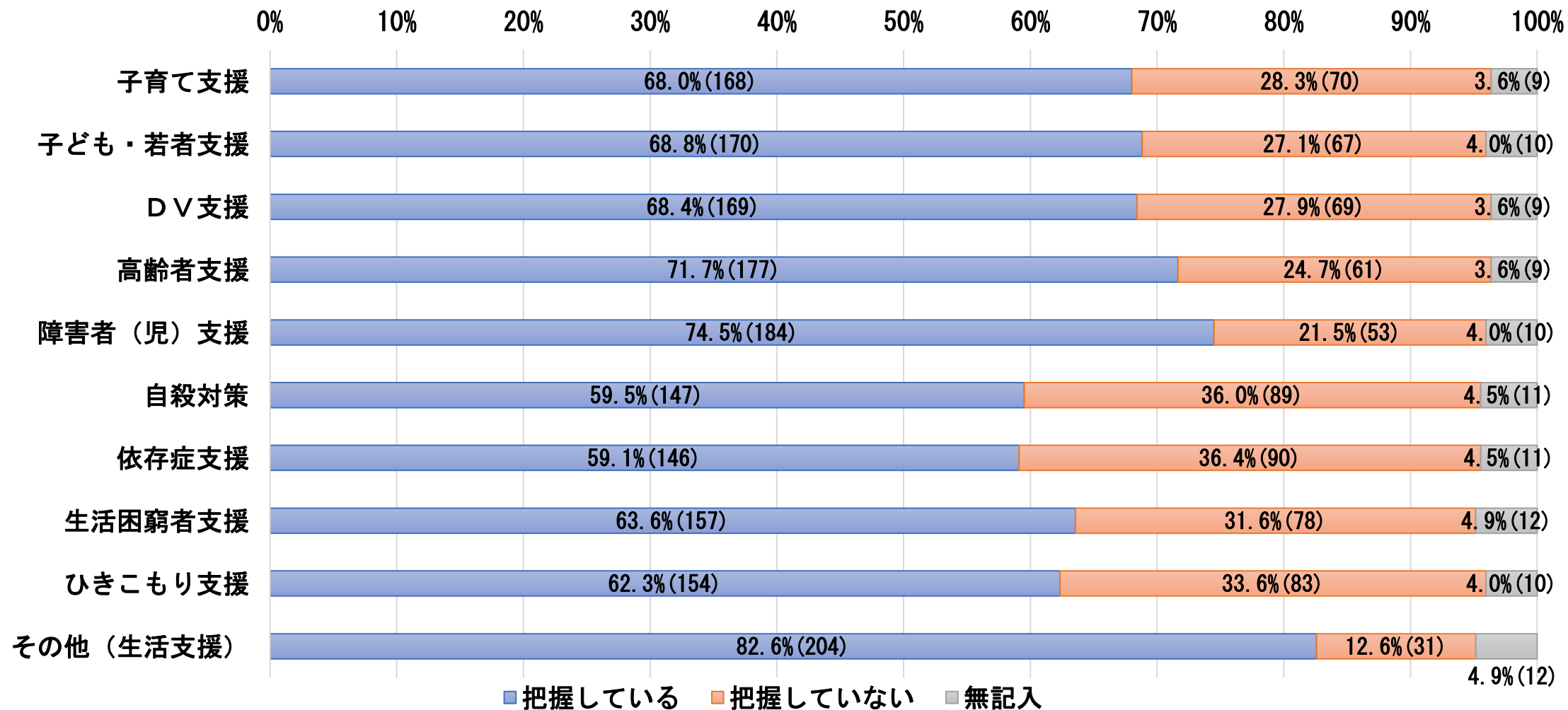
「市町村」が55.9%と最も高く、次いで「県」で42.5%などとなっている。



Ⅱ 結果の概要（支援団体調査）

■ 孤独・孤立の支援に関する社会的資源の把握

「把握している」状況は、「障害者（児）支援」（74.5%）が最も高く、全ての項目において約6割を超えている。一方、「自殺対策」、「依存支援」、「生活困窮者支援」及び「ひきこもり支援」については、「把握していない」が3割を超えている。



■ 行政に期待すること（自由記述）（抜粋）

- ・ 孤立や孤独になる前の予防策が大切だと思う。
- ・ ライフステージごとに支援が切れてしまっては意味が無いので途切れないような仕組みが大切と思う。
- ・ 活動の広報や取組を知ってもらうための機会づくりなどをもっと積極的に進めていただけることを期待します。ほとんどのご家族はどこでどんな支援があるかを知らず、一部の方だけが偶然知った情報に頼って支援を受けている現状があります。
- ・ 行政が民間の支援団体の状況を把握し、積極的に相談してもらう環境づくりを期待します。
- ・ 行政機関窓口の多言語化、行政情報の多言語化